作文コンテスト
最優秀作品集

작문 콘테스트 최우수상 작품집

～日韓交流について考えること～

한일교류에 대한 나의 생각

日韓文化交流基金　創立30周年記念

日韓交流について考えること

目　次

まえがき ····· 1

日韓交流について考えること　埼玉県蕨市立第一中学校 3 年 阿部朱夏····· 2
日韓交流について考えること　埼玉県蕨市立第一中学校 2 年 安禮頌 ····· 4
私が感じた韓国　栃木県宇都宮市立陽北中学校 2 年 酒井珠寿····· 6
日韓交流について考えること　栃木県日光市立豊岡中学校 3 年 須藤里穂····· 8
日韓交流について考えること　福島県いわき市立平第二中学校 3 年 根本直哉····· 10
私が感じた韓国　栃木県宇都宮市立陽北中学校 2 年 餅原実紅····· 12
日韓交流について考えること　愛媛県立新居浜工業高等学校 2 年 伊藤駿····· 14
私が感じた韓国　神田女学園高等学校 2 年 髙橋未夢 ····· 16
日韓交流について考えること　福島工業高等専門学校 2 年 舘野涼 ····· 18
日韓交流について考えること　神田女学園高等学校 1 年 戸室佳那子 ····· 20
日韓交流について考えること　長野県穂高商業高等学校 2 年 武藤壮平 ····· 22
日韓交流について考えること　都立高校 2 年 A.H····· 24
いつも感じている国、日本　光武女子中学校 3 年 姜玧汀 ····· 26
私が感じた日本　津寛中学校 3 年 金奈潤 ····· 28
韓日交流について考えること　津寛中学校 3 年 金蓮周 ····· 30
韓日交流は必要だ　釜山善花女子中学校 2 年 金引徳 ····· 33
韓日文化交流に対する思い　耽羅中学校 2 年 金惠恩 ····· 35
私が感じた日本　始興銀杏中学校 3 年 芮芝熙 ····· 37
知彼知己百戦百勝？知彼知己百戦百勝！ー近くて遠い国、私が感じた日本
釜山善花女子中学校 3 年 呉祥池····· 39
文化交流を楽しむ私たちの姿勢　津寛中学校 3 年 李賢雄 ····· 41
小さなところから始まる韓日交流　彌鄒忽外国語高等学校 2 年 金暁珍 ····· 43
私が感じた日本　洑坪高等学校 2 年 方尹祉 ····· 45
韓日交流について考えること　韓国外国語大学校附属龍仁外国語高等学校 1 年
白賀媛····· 47
日の昇る国　慶南高等学校 2 年 王寅瑞 ····· 49
一つの偶然が私を変えた　安養女子高等学校 2 年 李河善 ····· 51
責任あるコミュニケーションに基づいた交流の継続強化
京畿外国語高等学校 2 年 張普景 ····· 53

附　録
概要、研修日程、記録写真····· 110

まえがき

日韓文化交流基金は、1983 年 12 月 15 日に設立され、爾来、韓国との間で 30 年間にわたり、各種の青少年交流、学術交流事業を実施してまいりました。両国の中学・高校生、大学生、教員が相手国を訪問し、学校訪問やホームステイを行う研修団、両国の文化・歴史等に関する学術会議、両国間の民間草の根交流に対する支援等、多彩な交流事業を実施してきたわけですが、これらの交流に参加した青少年の累計だけでも、約 3 万人に達しています。

昨年、創立 30 周年を記念して、日韓両国の中学生・高校生を対象とした作文コンテストを開催しましたが、このコンテストにおいて最優秀賞を受賞された生徒の皆さんの作品を集めて、ここに刊行することといたしました。

今回のコンテストは、「私が感じた韓国（日本)」、「日韓交流について考えること」のいずれかをテーマとして、両国の 205 名の皆さんから応募をいただきましたが、どの作品にも、それぞれの体験に基づき、相手国に対する、また、今後の日韓関係に対する、率直で、前向きな考えが、述べられています。

日韓の間には、時に政治外交的に難しい状況が生じることもありますが、既成の世代への箴言として、また、共に未来を担う同世代の若者たちへのメッセージとして、広くお読みいただければと存じます。また、時代の記録として、後世の皆様にも読み継がれていくことを期待しております。

2014 年 3 月

公益財団法人日韓文化交流基金

理事長　小野　正昭

日韓交流について考えること

埼玉県蕨市立第一中学校　3 年　阿部朱夏

私が日韓交流に興味を持ったのは、つい最近です。きっかけは母で、母の友人には韓国の方が多く、近頃はお友達から教えてもらった韓国料理が食卓に並ぶようになり、何となく「韓国って意外と身近にあるものなのだな」と思いました。母が見るテレビ番組も、韓国ドラマが多いので、韓国の番組がこうやって普通に日本でも放送されているということは、日本と韓国が友好的に交流しているのだと感じます。

私の通っている中学校で、今年初めて同じクラスになった友人がいます。実はつい最近、彼女の親が韓国の方だということを知りました。彼女の生まれは日本ですが、先日国語の授業のスピーチでは、「日本も韓国も、どちらとも大好きです。」と言っていました。私も日本が大好きです。日本と同じくらい好きだという国がどういうところか、私は一目でも見たいと思いました。

私が幼稚園に通っていた時も、親が韓国の方だという友達がいましたし、今改めて考えてみると韓国はとても身近な国なのだと思います。

さて、私が住んでいるのは蕨市です。蕨市には、外国籍の方が多く住んでいます。そして、蕨市で働く外国人の方も多いので、外国人に対する偏見も少ないと言われています。実際、同学年にも外国の子や、親が外国人だという子も多くいます。特に、私の身近には韓国の方々が大勢います。

悲しい話になりますが、日本はつい 70 年ほど前まで韓国を併合し、植民地としていました。当時は日本人と同化させるために、韓国語での授業でなく日本語で授業をするなど、韓国の方にとても辛い思いをさせてしまいました。昔のように思えるけど、たった 70 年前にはこんなことが起こっていたのです。当時の日本は、韓国の文化を理解していなかったというのも、原因のひとつだと思います。韓国の人々は、差別も受けていたという話を聞いたこともあり、とても胸が痛かったです。

しかし、今はどうでしょう。韓国の人だからと言って、あれはだめとか、これはしてはいけないというような言い合いは、お互いしていません。それは、お互いにそれぞれの国の文化を理解しているからではないでしょうか。日本は色々な国の人々が共存する「多文化共生社会」だと社会科の授業でも学びました。日本人は韓国の文化を、韓国人は日本の文化をお互いに理解し、尊重し合っているからこそ共生社会が成り立つのではないでしょうか?価値観の違いなどもありますが、韓国と日本の文化をよく見てみると共通点がいくつかあることに気が付くと思います。例えば、私が聞いたこ

とのある韓国の文化で「目上の人に敬意を払う」というのがあります。これは日本でも見受けられます。他にも、食事の時に使う箸はどちらの国にもありますが、日本は竹、韓国は金属ですし、民族衣装も日本の着物とチマ・チョゴリ（女性用の民族衣装）も見た目が何となく似ているように感じます。もしかすると、日本と韓国の交流の中で培われていったものなのかもしれません。

私は、日韓交流とは韓国の文化を知り、理解する一つの手段だと考えています。おそらく、これからももっと盛んになるでしょう。その中でお互いの国を理解するには、まずその国を見てみることと、その国の良い所を見つけることが大切になってくるかと思います。交流とは、この２つの事をするためにあると思います。私にとって身近な韓国を、近い将来この目で是非見てみたいです。

日韓交流について考えること

埼玉県蕨市立第一中学校　２年　安禮頌

私が日韓交流について考えることは、いつまでも関係を上手に保っていってほしいことだ。日本と韓国は隣同士の国ということで、昔から交流が続いている。弥生時代にやって来た渡来人、江戸時代の朝鮮通信使など、色々な形で交流してきた。

今では観光としての交流、スターやアイドルによる交流などが多い。K-POP の歌手たちや、韓流ドラマの俳優などがテレビに出るので、身近に感じることがある。また、私が使っている地理の教科書では、韓国についてまとめてある。こういうところでも、身近に感じる。

両国の関係は、どんなに離そうとしても離すことはできない関係なのだ。でも、この頃は良い関係だとはあまり言えない気がする。領土問題をめぐる両国の関係は、少し悪い方向に進んでいる。テレビや新聞で取り上げられている話題を見ると、少し悲しくなる。小さな島一つで領土の大きさが変わるのだから、それは譲れないと思う。でも、話し合いで決めてもらいたいし、他の事まで影響を及ぼさないでもらいたい。

私は日本に住んでいる韓国人として複雑だ。韓国は私の祖国で親戚がいて、日本は生まれ育った場所だ。お互いが嫌い合うのは良くない。仲良くやってほしい。

仲良くするためには、お互いの文化・言語・考え方の違いを理解してもらうことが大切だと思う。先人たちもそうしてきたのではないだろうか。稲作だって渡来人と交流して教わったものが今まで続いてきているのではないだろうか。

だから、私は日韓交流について大賛成だ。お互いを知るには、交流が大事だ。実際に会ってみて、自分たちとの違いを感じながら交わっていけば、相手の事をもっと知りたいと思うようになる。

今まで、お互いをよく知らない人たちが「ヘイトスピーチ」や「反日運動」をやって来た。でも、私たち子どもには、そのような行動をしようとする心を植えつけさせないでほしい。これから成長し未来に向かっていくのに、互いに嫌い合っていては良くない。私たちには両国を良い関係にしていく使命がある。今は交流する機会があまりないけれど、大きくなっていきながら色々な機会を通して交わっていくだろう。「人種」という壁を超えて、国境を超えてお互いが切磋琢磨していく関係になってほしいと思う。

先ほど、私は韓国人だと書いたが、日本の公立中学校に通っている。まわりはほとんど日本人だけれど、楽しい。学校へ一緒に行くのも日本の友達、遊ぶ時も日本の友

達。みんな私が日本人ではないことを知っているけれど、みんなと同じように接してくれるのが嬉しい。分からないことがあったら聞いたり、教え合ったりしながら学校生活を楽しんでいる。これも、日韓交流の一つだ。

同世代と交わるのは本当に楽しい。私は、世界の人たちと交流していきたい。その前に、毎日の「日韓交流」を楽しみながら生活していきたい。

私が感じた韓国

栃木県宇都宮市立陽北中学校　2年　酒井珠寿

私の学校では、韓国との交流がありました。それまでの私の韓国の印象は薄いものでした。でも、この交流を通じてとても近くに感じることができました。交流では、音楽の授業を一緒に受けました。韓国の方は、英語で発言をしていました。私は、この時「英語ってすごいな。」と思いました。英語は、世界中の人達と繋がることのできる大事な手段だと思いました。音楽から感じたことは、韓国の方も私たちと同じでした。この時の音楽の授業は、とても勉強になりました。

3 時間目は外での交流でした。種目はフラフープくぐりと大縄跳びをしました。フラフープくぐりは、クラスのみんなと韓国の方が手を繋いで一つになれた気がしました。私は、くぐるのが大変だったけど、韓国の方はスムーズにくぐっていました。とても体が柔らかかったです。大縄では、みんなで一生懸命頑張りました。韓国の方は、縄にひっかかると「ごめんなさい。」と何度も謝っていました。日本語が話せることにびっくりしました。韓国の方と一緒にやった大縄跳びは、とても楽しかったです。

最後に体育館に集まりました。陽北中学校の生徒達は、「よさこいソーラン」や「柔道」などを披露しました。韓国の方たちは、真剣に見ていました。もっと日本の伝統芸能が広まればいいなと思います。韓国の方たちは、「ダンス」や「歌」や「テコンドー」を見せてくれました。ダンスや歌は、日本にはない独特なもので新鮮でした。もっと色々な韓国の伝統曲を聞いてみたいなと思いました。テコンドーを、私は初めて見ましたが、とてもかっこ良かったです。板が割れた時の音は、気持ちが良かったです。

お別れの時は、寂しかったです。たった一日という短い時間だったけれど、とてもいい思い出になりました。私はこの交流を通して、韓国の事をもっと知りたいなと思いました。そして、もっとこのような交流が増えればいいと思います。

私は今まで、韓国にあまり興味がありませんでした。しかし、よく考えてみると、スケート選手のキム・ヨナさんや、バレーボール選手のキム・ヨンギョンさん、韓国ドラマ『冬のソナタ』や、食べ物の「キムチ」、「KARA」や「東方神起」など、知らず知らずのうちに韓国に触れていたことに気付きました。これからは、韓国のいいところをもっと知りたいです。

私は、ニュースで「日韓問題」という言葉を耳にしました。大人の政治問題はよく分かりませんが、早く解決してくれればいいと思います。そして、もっと韓国との交

流関係が深まればいいと思います。私は、「言葉は通じなくても心は通じる」という言葉を聞いたことがあります。この言葉のように、心が通じ合えたらいいなと思いました。私は、日本人のみんなが韓国をもっと身近に感じ、仲良くなりたいと思ってもらいたいです。

日韓交流について考えること

栃木県日光市立豊岡中学校　3年　須藤里穂

今年度、私が通っている豊岡中学校で、韓国の中学生を迎えての交流会が行われました。

外国の中学生との交流は、私だけでなくほとんどの生徒が初めての経験だったので、交流会のために韓国語を覚えたり、ウェルカムボードを作成したりするなどして、その日が来るのを楽しみにしていました。

交流会当日は、英語を中心に韓国語と日本語を交えながらコミュニケーションを取ることに努めました。すぐにあちこちから「アンニョンハセヨ」「チャル　チネセヨ?」といった挨拶が交わされ、私も積極的に会話に加わりました。最初は上手く言葉が出てこなくて、もどかしさも感じましたが、徐々にリラックスして接することができるようになりました。外国人と交流する時には、アイコンタクトを取ったり、ジェスチャーを使ったりすることが大切であると聞いていましたが、今回の交流会を通してそのことを実感でき、とても貴重な経験になりました。

他のクラスメイトたちは、習字や柔道の体験をしているところもありました。時間が経つにつれて、お互いにぎこちなさが消え自然な感じで接することができるようになりました。昼休みには、一緒にドッジボールをしましたが、その頃には日本や韓国といった違いをあまり感じなくなり、楽しく過ごすことができました。

全体交流会では、「ソーラン節」や「剣道」を日本の伝統文化として披露しました。演技を見ていた韓国の中学生の真剣な眼差しと、演技終了後の大きな拍手と歓声は、今でも忘れることができません。

韓国の中学生が披露してくれたダンスは、私たちの想像以上の素晴らしいものでした。また、全員が手を繋ぎ、日本の中学生なら誰でも知っているであろう『だんご三兄弟』を歌ってくれたことが強く印象に残りました。

今回の交流会では、言葉や文化の違いなどを感じた反面、私たちと同じ部分も沢山あることが分かりました。

テレビでは、毎日のようにK-POPや韓国ドラマが放映されていますが、同じくらい新聞やメディア等で日韓問題が報じられています。この日韓問題について、詳しく理解しているわけではありませんが、歴史的、政治的背景や文化の違いから解決が困難な点が多いと聞いています。竹島の領土問題、日本の社会科教科書の内容など中学生の私には理解できない内容ですが、良く耳にする言葉です。

また、ロンドンオリンピックでの韓国選手のメッセージや、WBC での韓国選手の抗議行動など、本来は平和の象徴であるスポーツ大会の場で問題が起きてしまったことは、悲しいことだと思います。今回の交流会では、そんな「日韓問題」を感じることはありませんでしたが、韓国を正しく知るためにも、伝統や文化について調べていきたいと思いました。一番近い隣国と仲が悪いというのは、大きな問題だと思います。

韓国をはじめとする諸外国と協力し合い友好関係を築いていくのは私たち世代の役目です。中学生だけでなく、小学生や高校生、大学生、社会人なども進んで交流を図る機会を増やし、互いの伝統や文化を理解することが大切だと思います。

私自信も、外国人と積極的に交流できるようになるために英語の勉強に力を入れることが、その一歩になるのではないかとも感じました。

今回の韓国中学生との交流会は、国際理解について深く考えるきっかけを与えてくれたとてもよい機会でした。

日韓交流について考えること

福島県いわき市立平第二中学校　3年　根本直哉

僕は、今年 9 月に、日韓文化交流基金様主催のもと、JENESYS2.0 福島県いわき市訪韓研修団の一員として韓国研修に参加しました。その体験を踏まえて、日韓交流について考えることについて述べさせていただきます。

日本と韓国といえば、よくニュースなどで耳にする領土問題などを例に、お互いにあまり良い印象を抱いていない人が多いかもしれません。実際に、僕もこの訪韓に参加する前は、心のどこかで韓国に対して偏見を抱いていました。

しかし、訪韓の 5 日目のことでした。その日、韓国の東馬中学校を訪れ、現地の中学生と一緒に授業を受け、スポーツに汗を流しました。そして、言語の壁がある中でも、簡単な英語や身振り手振りを駆使してコミュニケーションを取ることができ、とても楽しい一日を過ごすことができました。僕が一番驚いたのは、韓国の中学生がとても親切で積極的に話しかけてきてくれたことです。そこには、世間の考えなどは関係なく、一人の人として、お互いを認め合う姿がありました。

また、この他にも韓国の伝統文化体験や、歴史ある建物の見学など、韓国について深く知るとても良い機会になりました。

このように、訪韓という体験を通して、僕の中で韓国に対しての印象が良い方向に変わりました。今なお、当時知り合った友達との交友は続いています。

今日の国際社会はグローバル化が進んでいます。もし、国同士が何の関わりも持たない鎖国的な考えだとしたら、たしかに争いや問題は何一つ起きないでしょう。しかし、国どうしが共に発展していくために、そして永久の目標である平和のために協力していくことは必要不可欠です。日本と韓国を例にとっても、隣国として協力してこれからの国際社会をリードしていくべき立場にありながら、このように問題が絶えません。それ以前に、悪いイメージを植え付けられているのが現状です。私は、第一にお互いを認め合うことが大切だと考えます。このように国際社会の関係について考えたとき、身近な例として普段の人間関係があてはまると思います。人付き合いというものは、相手を知り、相手の良さも悪さも認め合い、心を開いて受け入れることから始まります。この延長線上に国際社会があるにすぎません。

私の将来の夢は、国連の教育関係の機関で働き、世界中の子どもたちが教育を受けられるような環境をつくることです。そして韓国研修で学んだ「オープンマインド」の大切さをより多くの人に伝えたいと思います。僕が今回の訪韓を通して、韓国につ

いて深く知れたように、より多くの人たちが、特に若い世代からこのような体験をするべきだと思います。そうして育っていく者が社会をつくっていくとき、本当の交流が生まれることでしょう。そして、同じ地球人として本当の国際社会を築いていけることを信じています。

私が感じた韓国

栃木県宇都宮市立陽北中学校　2年　餅原実紅

私たちの学校に韓国人が来ると聞いた時、正直「嫌だな」と思ってしまいした。それは、普段テレビなどで見る、日本とあまり仲が良くないイメージや、韓国人は自分勝手で、お金持ちや身分の高い人はとても幸せな生活をしているのに、貧しい人や身分の低い人は、生活が苦しく食べていくのでさえ大変。といった格差がひらいているにもかかわらず、協力したり、助け合ったり、国民同士の仲が良くなく、努力している場面をあまりみてなかったからというのが理由です。なので、私は韓国人と関わり合いたくないと思っていました。

しかし、実際は全く違いました。その日、私は友達と韓国人が来るのを窓から見ていました。すると、学校に入ってきた韓国の学生が外から私たちを見つけ、笑顔で手を振ってくれたのです。その時の笑顔は輝いていて、私たちに会うのを楽しみにして来たことがよく分かりました。この時私は、「韓国人って社交的だね。」などと言って友達と話をしました。

次に、対面式が行われました。私たちのクラスに来る学生たちとやっと会うことができました。この時も、韓国人は笑顔でした。

対面式を終えて、一緒に音楽の授業を受けました。校歌を歌ったときは、とても興味深そうに聞いていました。次に鑑賞をしました。自分の感想を発表する時に、韓国人がとても上手な英語で発言をしている姿を見て、「国は違っても音楽で感じることは同じなのだ」と思いました。

音楽の授業が終わると、今度は外に出て大縄跳びとフラフープくぐりをして遊びました。大縄跳びは、クラス対抗で行われました。初めは、「韓国人は大縄跳びをやったことがあるのか?できるのか?」と、とても疑問に思いましたが、いざやってみると思ったよりできていて上手でした。さらに、失敗して閉まった時には、「すみません。」と日本語で言ってくれて礼儀正しいと思いました。

次にやったフラフープくぐりは、クラスで輪になって手を繋ぎ、フラフープを渡していくゲームでした。韓国人は、私たちよりずっと身長が高かったので上手にできるか不安でしたが、やってみると私達より早くて初めてやったとは思えないほどでした。

外で遊んだあとは、お互いに国の伝統的スポーツや現代的ダンス、さらに韓国の国歌である「愛国歌」を合唱してくれるなどの文化交流をしました。私達からは、剣道と柔道を発表し、韓国側からはダンスと国歌の合唱を見せてもらいました。ダンスは、

韓国のアイドルの曲で、とてもかわいいところが印象的でした。韓国の国歌は初めて聞いたのですが、一体感があり日本とはまた違った雰囲気の曲でした。

このような流れで一日が終わり、ついに別れの時がやってきました。私は、友達と韓国人が朝来たときと同じように、窓から帰っていく姿を見ていました。生徒の中には、涙を流して泣いている人や、一日とても楽しく過ごしたというように笑顔で手を振っている人などいて、表情を見ただけでも何かを語っているようでした。

今回の日韓交流で、普段知ることのできない韓国を知ることができました。そして、韓国人への印象が、一日で変わりました。実際に会った韓国人は、とても相手を思いやり、笑顔が美しく礼儀正しかったです。いつもテレビなどで見ている韓国人とは全く違いました。

私は、日本と韓国の仲があまり良くないのは大人だけで、子どもは国が違っても言葉が違っても仲良くできると実感しました。将来、大きくなったら、隣国同士で仲良く楽しい世界を作っていけたらいいなと思います。

日韓交流について考えること

愛媛県立新居浜工業高等学校　２年　伊藤駿

私は今年の夏休みに、ＶＹＳ部の一員として韓国を訪問しました。海外に行くのは初めてだったので、とても楽しみでした。私は、色々なことに挑戦するのが好きなので、韓国でも積極的にチャレンジしてみたいと考えていました。

しかし、飛行機から降りてすぐに、見たこともないような文字ばかりが目に留まり、本当に不安になりました。韓国の方が話している言葉も日本語と全く違い、驚きの連続でした。韓国はとても近い国という印象がありましたので、言葉もすぐに覚えられるだろうと簡単に考えていました。次に韓国を訪問するまでには、絶対に韓国語を勉強してから行くぞ、と強く思いました。

ＶＹＳ部は「空飛ぶ車いす」活動で毎年のように韓国を訪問しています。どの施設に行っても、驚くことは、福祉施設で働かれている方で日本語を話せる方が多いということです。ほとんどの方が、福祉の勉強のために日本で数か月間、生活されていたことがあるということを知り、とても驚きました。韓国と日本がとても近い国であることを再確認できたような気がします。普段、日本にいても気が付かないような交流活動ですが、韓国が身近に感じてとても嬉しくなりました。私は旅行中、韓国語が話せなくて、何度も歯がゆい気持ちになりましたが、この機会を利用して何とかしてコミュニケーションを取りたいと思いました。

また、文化やマナーの違いもたくさん感じることができました。特に食事の面では、やはり「キムチ」の存在感は圧倒的でした。どの食事にもキムチが出てきましたが、キムチの種類や味は店や家庭で個性があるそうです。私はこれまで辛いものがあまり得意ではありませんでしたので、すべてのキムチを食べられた訳ではありませんが、辛さやにおいは本当に印象的でした。さらに、箸や器の持ち方などのマナーの違いもはじめは戸惑いましたが、次第に慣れることができました。

私は音楽や芸能関係にも興味があるので、今回訪問した際に、音楽ＣＤや韓国語のマンガを買って帰りたいと思っていました。最近、日本では韓流ブームで多くのドラマが放映されています。韓流ドラマは韓国の文化を知るためのとても良いきっかけになっていると思いますが、やはり実際に韓国を訪問して得られる体験は、とても貴重だと思いました。逆に、私が本屋さんで見たマンガは日本のマンガが韓国語に翻訳されているものが多く、日本の文化がたくさん入ってきていることも感じました。実際、日本のマンガで日本語を勉強したという韓国の学生も多く、日本のアニメについて自

分よりも詳しい人がいることに驚きました。

このように、最近では韓国と日本の文化交流がどんどん発展してきていると思います。私たちが行っているボランティア活動も今年で 15 年目になったと伺いました。15 年前と今では全然違うと思いますが、二国間がどんどん縮まってくれることをとても楽しみにしています。韓国を見ることで日本の良さが見えてくることもあるだろうし、逆に韓国を見て、日本がなくしてしまったすばらしいところが見つかると思います。例えば、韓国では目上の人や先生、親にはとても敬って接する習慣があるそうです。今回の韓国訪問でも色々な場面で感じることができました。日本では次第になくなってきた習慣かもしれません。韓国のように伝統文化をしっかり守ろうとすることがとても大切だということが実感しました。

韓国と日本は良きライバル関係にあるといわれています。スポーツや文化の面でも良くライバルとして切磋琢磨し、お互いのレベルの向上につなげることができたのであれば、とてもすばらしいことだと思います。私たちが行っている「空飛ぶ車いす」活動が、特別なことではなく、当たり前の交流活動と感じるようになれば、私たちもとても嬉しく思います。私はまだ 2 年生なので、今後も訪問する機会があると思いますが、次に訪問するときまでには、少しでも韓国語を話せるように勉強して行きたいと思います。

私が感じた韓国

神田女学園高等学校　2年　髙橋未夢

私は高校2年生の夏休みに、一人で韓国に行きました。韓国語を学習し始めてから、まだ2年しか経っていないにも関わらず一人で韓国に行くことを決めたのには、いくつかの理由がありました。

1 つ目は、日韓交流で一度だけ行った韓国に多くの刺激を受け、文化や民族性の違いや、似ているところを見つけ、とても魅力的に感じたからです。2 つ目は、韓国の学生と交流した時に、互いの国の学校生活や流行を話して共有したかったけれど、語学力がなくて満足いく会話ができず悔しかったからです。3 つ目は、高校生である今の感情で韓国を見たいと思ったことが一番の理由です。そのためには、ツアー旅行でもなく、家族旅行でもなく、一人で韓国に行き、現地の韓国人と交流をすることが良いと思いました。

私は、日韓交流で友達になった韓国人の家に7日間ホームステイをしました。友人は、私が帰国する便に同乗し日本へ来て、私の家に5日間ホームステイをしました。韓国での日程は友人が考えて案内をしてくれ、日本では私が日程を考えて案内しました。

私が韓国に到着したのは夜でした。友人家族と待ち合わせをしている駅までは、空港から地下鉄に乗っていかなければなりませんでしたが、地下鉄の場所も交通カードのチャージ方法も分かりませんでした。私の前を歩いていた大学生くらいの女性に道を尋ねました。その方は、「私も地下鉄乗るから、一緒に行こう。」と言ってくれました。韓国に到着して最初の韓国語を使っての会話で緊張したけれど、乗車中もその方はゆっくりとした韓国語で会話をしてくれました。おかげで、無事に待ち合わせの駅に着き、友人と会うこともできました。

私は、友人が通う高校の制服を借りて、夏休みに選択制で行われている夏季講習を1時限（90分）のみ、一緒に受けさせてもらいました。元々、友人は韓国史の授業を選択していたため、事前に「韓国史の授業で日韓併合の範囲を学ぶけれど、あなたが嫌なら変えてもらうよ。」と言ってくれていました。しかし、むしろ私は、韓国の学校で日本人である私が韓国史の授業を学生と一緒に受けられる事を有難く感じました。もちろん、日韓関係は教科書に記載されている歴史問題以外に、現在の政治や領土問題など多くの問題があるため、授業中に学生や先生に非難されることは覚悟をしていたので、特に気にしていませんでした。ただ、私が一緒に日韓併合の授業を受けるこ

とで、韓国の学生たちの気分を悪くさせるようであれば、授業を受けたくないと思っていました。このことを友人に伝えると、「私が事前に先生や友達に、韓国に興味を持って韓国語を学んでいる、韓国が本当に好きな日本の学生だと説明してあるから大丈夫だよ。」と言ってくれました。私は、友人が配慮してくれたことにとても感動しました。

当日、制服を着て教室に入ると、先生も学生たちも笑顔で迎えてくれました。私は少しホッとしました。授業の内容は、日本史で教わったことが出てきたので、韓国語が分からなくてもなんとなく話している内容を理解することができました。少しでも私に分かりやすいように、板書の際は日韓共通の漢字を使ってくださり、些細な優しさがとても嬉しかったです。日韓併合の範囲なので、日本を批判する内容は沢山出てきました。韓国史からの視点で日韓併合を学べたことは、新鮮で為になりました。時折、笑いを交えた会話をしてくださり、本当に充実した授業でした。授業の最後に先生が、「独島はどこのものだと思いますか?」と私に質問しました。私は日本で韓国史の古い高校教科書を読み、領土問題については良く調べていました。だから、竹島（独島）についての自分の考えを既に持っていました。私は教卓の前に立ち、知っている限りの韓国語の単語や文法を使って話しました。伝えたいという想いばかりが先走ってしまいましたが、一生懸命に韓国語で自分の意見を話しました。話終えると、友人を含めた学生たちや先生も拍手をしてくれました。私は泣きそうになるくらい嬉しかったです。以前の交流の後から、韓国語を必死に勉強してよかったと思いました。先生は生徒に、「日本の学生の意見を聞けていい経験になったでしょう?」と聞くと、「新鮮で良かった。」と言ってくれました。ここで一緒に韓国史を学んだ先生や生徒たちと過ごした時間は、本当に一生の宝物となりました。

私が感じた韓国。それは心に嘘をつかず、疑問や意見、考えなど、良いことも悪いことも、たとえ口論になったとしても素直に正直に話して、思いを共有し合う文化を持つ魅力的な国であると思いました。そして、必ずこの先、両国はお互いを高め合い、必要とし、認め合うことができる関係になることを願うとともに、将来は日韓の架け橋となり、友好関係を築くことに貢献したいです。

日韓交流について考えること

福島工業高等専門学校　2年　舘野涼

私は今年の夏に 、韓国の学生と放射線についてのディスカッションをするため、生まれて初めて韓国に渡航しました。韓国を訪れる前、私は訪問することに少し不安がありました。それは、ニュースやインターネットで 「韓国人の持つ反日感情」というものを知っていたからです。歴史的、政治的な背景から、韓国人は何かしらの日本嫌いがあり、また、その感情は暴言になったり、暴力になったりもするということをニュースなどで知っていました。韓国に行っても実際に韓国の学生と仲良くできないかもしれない、喧嘩になってしまうかもしれないという不安でいっぱいでした。

しかし、韓国での約5日間、私は韓国の学生ととても楽しく、充実した時を過ごしました。お互いに、自分の放射線に関する意見を述べて、意見がたとえ異なるものになったとしても、尊重し合う、そんな関係が自然に成り立っていました。韓国の伝統的な食事を囲みながら、日本語を教えてあげたり、お互いに日本での名前と韓国での名前を考えてあげたり、私にとって決して忘れられない思い出になりました。

帰国後、父は私に「韓国の学生は優しかったか？何か傷つくこと言われなかったか？」と尋ねました。私はそう聞かれた時、なんでこんなことを聞くのだろうと思いました。韓国から帰ってきた私は、韓国では 「反日感靖」を持っている人が多いということをすっかり忘れていたのです。それくらい、韓国の学生は優しくて、相手も私もお互いに素直な気持ちで接していたのです。そもそも、韓国で一緒に過ごしていた時は、この子は韓国人だ、あの子は日本人だといった意識を持っていなかったことに、帰国後私は気づきました。韓国の学生と交流している時は、それぞれの国を意識せず、ただ一人の人間、仲間として接していました。同じ目的を持っている仲間として、笑いあったり、相談しあったりしていました。そこには、お互いの国籍、政治的背景が生み出す遠慮などはなかったのです。

韓国に限らず、世界中のどの国とでも歴史的、政治的なトラブルはあります。その中でも、特に韓国とは「竹島問題」「慰安婦問題」という重大な問題が今でも残っています。もちろんこのような問題を無視するのではなく、お互いの摩擦を取り除くために、努めていかなければならないはずです。

しかし、今回のような交流会、ディスカッションといった場合、果たしてこのような国籍が生み出すわだかまり、遠慮は必要なのでしょうか。より良いものを作るためや、何かを達成するために集まった仲間との間には、国籍や歴史的、政治的な見方は

必要がないと思います。両国の学生はひとりの人間であり、自分自身の意見を主張し、相手の意見をしっかり聞くべき仲間なのです。もちろん、「遠慮はいらないから何でも言っていい」というわけではありません。ひとりの人間として、相手の考え、アイデンティティは尊重すべきです。

現在でも、SNS などを通じて韓国の学生とは交流を続けています。今日食べたお昼の話や、最近見たお気に入りの映画の話といったたわいのない話、たまには原子力関係のシリアスな話もします。歴史的、政治的な関係を越え、お互いひとりひとりの人間として、意見を言い合ったり、相談し合ったりできる環境・関係を築くことができました。とても素晴らしいことだと思います。「日韓交流」を語る上で、最も大切にしなければいけないことは、相手も自分も一人の人間で、同じ仲間として同じ目的を持って活動しているということです。そこに「韓国人」「 日本人」という国籍、歴史的、政治的な問題は必要がないことなのです。

日韓交流について考えること

神田女学園高等学校　1年　戸室佳那子

私が韓国に興味を持ち始めたのは、小学校 5 年生の時でした。韓国のアイドルグループの曲を聴いたことが始まりで、日本の曲とはまた違った魅力に気付き、どんどん調べるようになりました。

今では、色々な韓国のアイドルグループなどが来日するなどして K-POP を耳にする機会が増えました。日本デビューのために、きちんと日本語を勉強している姿を見ると、日本に関心を持ってくれているのかなと嬉しくなります。

元々、日本と韓国の間では色々な問題がありました。「創氏改名」や、最近では「領土問題」について様々な意見が飛び交っています。

日本は昔、朝鮮人は日本式の名前に改めるよう「創氏改名」を求めました。理由は何であれ、自分の名前を強制的に改名されるのは辛いだろうな、と授業を受けていた時に思いました。おそらく、それが基となり反日教育が生まれたのだと思います。私はまだ韓国に行ったことがないので、本当かどうかはわかりませんが、芸能人の反日発言などを聞いていると、日本をすごく嫌っているなと感じ、逆に親日家をアピールしていると「韓国の人はどんな気持ちなのだろう?」と少し複雑な気持ちになります。韓国は愛国心の強い国だと思います。しかしその分、他国の意見をきちんと認めない部分もあるのではないかと思います。お互いの国がお互いをきちんと認め合えれば、これから先の関係も良くなると思います。

「領土問題」については、どちらかというと韓国人の方が敏感というか、シビアな印象があります。しかし、日本も竹島は日本のものだと言い、お互いに譲らない状況です。正直、どちらのものなのかは私には分からないし、どちらがあっているとも言い切れません。私は、もっと日本と韓国に仲良くしてもらいたいです。あれがダメ、これがダメと否定するのではなく、良いところを見つけ、尊重し合えるようになればいいと思います。

韓国と日本は、とても近い場所に位置しています。言葉や意味も似ていて、発音の難しさという点はありますが、何だか嬉しいです。しかし、近い国なのに食文化や習慣など、よく見ると全く異なる部分もあり不思議で面白いなあと思います。

韓国では、年上の方を敬う習慣があると聞いたことがあります。日本では、そういう習慣が薄れてきています。よく韓国のテレビ番組を見ていると、血が繋がっていなくても「お兄さん」「お姉さん」と言っていたりします。初めて聞いた時はびっくり

しましたが、とても素敵だなと思いました。

今では K-POP、韓流、韓国の美容などに興味を持った人も沢山いて、韓国への関心も高まっています。韓国の人にも、日本の良いところを知ってもらえると嬉しいです。お互いがいい意味で刺激し合える仲になれたらいいです。これからまた衝突してしまうような問題が出てきたとしても、きちんと解決し信頼し合える国同士になれることを願っています。

日韓交流について考えること

長野県穂高商業高等学校　2年　武藤壮平

日韓交流において、昨今の日韓関係を見るととても重要かつ必要不可欠な事だと感じています。昨今の日韓関係は年々険悪になるばかりです。これは日本と韓国の歴史問題と、日本側と韓国側の歴史認識の違いによって生み出されています。

日本と韓国の歴史は古くから関係があり、日本は韓国から文化を取り入れ国を盛り立て、貿易も盛んに行い、友好に満ちた関係を築いていました。しかし、日本が戦国時代に入り、天下統一を成し遂げた豊臣秀吉が韓国を攻め、韓国との友好的な関係が一気に崩れたのです。それからというもの、日本は戦争まで仕掛け、挙句の果て韓国を植民地化するという行為へ移りました。こうした日本が行った様々な行為に対して韓国が主張している全ての行為を日本が認めているわけではなく、たとえば、慰安婦問題や竹島問題など、日本には日本なりの問題の見解があり、そこが日本と韓国の歴史認識の違い、関係の悪化する元凶です。双方の国の言い分はよくわかります。お互いの意見は理にかなっていてどちらも否定しにくいです。しかし、これでは問題は一向に解決されません。それどころか、未解決のまま年月がたち、そのうち戦争をするような関係になることも考えられます。これでいいのでしょうか。同じアジアに所属する同じ仲間なのに、いがみ合い続けることはあってはなりません。私は必ずこの問題は解決し、日本と韓国が仲の良い友好的な関係に戻り、お互いが共に協力しあいながら成長していけるような、そんな国にならなければならないと考えます。そのために、日韓交流は必要不可欠なのです。

近年、このような関係の中、様々な場所で韓国と日本が共に協力し合いながら何かを成し遂げる、そのような交流の場が増えてきていると感じています。日本人が韓国の農家の方のお手伝いをするなどのボランティア活動を行ったり、韓国人と日本人が共にお祭りを興したりするなど、そういった日韓交流の話をよく耳にするからです。日韓交流をした双方はどちらもいがみ合うことはありません。お互いを思いやり、互いの文化を楽しむなど、国家間の問題には関係なく、友好的な関係を築くことができます。国と国とがいがみ合っていても、人と人とはいがみ合うことはないのです。未来志向の関係が今、日本と韓国には必要なのです。徐々にこの関係が国中に広がれば、いつかは日韓関係もまた友好的な関係に戻ることができるのではないでしょうか。私は必ず戻ることができる、そう思っています。

そして、この日韓交流がその他の世界各国間の交流の手本となるような存在になれ

ばいいとも考えています。この日韓交流のように、色んな国の文化を肌で体験し、人種・民族関係なく共に笑い、共に協力しあう、そんな交流が世界中に広まれば、世界中の様々な問題が解決し、たくさんの人々が幸せになれると確信しています。そんな希望を、日韓交流は持っているのだと私は信じています。

日韓交流について考えること

都立高校　2年　A.H

私は、学校の選択授業で毎週2時間、ハングルの勉強をしている。この授業ではただハングルを習うだけではなく、今までには韓国語の歌を聴いたり韓国映画を観たりしてきた。今度は家庭科室を借りて韓国料理を作る予定だ。

私がこの授業に参加した理由は、韓国と日本の関係をもっと知りたいと思ったからだ。

そう思ったきっかけは、鷺沢萠著『ほんとうの夏』という小説を読んだことにある。この小説では、普通の日本人と同じように暮らしてきた在日韓国人三世である青年の、在日韓国人であるが故の心の葛藤が描かれている。初めてこの小説を読んだとき、私は衝撃を受けた。この小説を読むまで、在日韓国人という存在について知らなかったからだ。「通名」や「指紋押捺」という言葉の意味がわからなかったし、主人公が、自分が韓国籍だと明かすのをためらうことも理解できなかった。こうして私は、身近に自分が全く知らない事実があることに気がついた。

在日韓国人について調べることにした私は、港区にある在日韓人歴史資料館を訪れた。そこには、私の知らない歴史がたくさんあった。小学校でも中学校でも高校でも歴史を学んできたが、そこで見たのは一度も聞いたことのない話ばかりだった。しかもそれは何だかとても複雑で悲惨な話で、どうやら日本と韓国は仲が悪いようだった。一方、インターネットでも調べてみることで、なぜこの小説の主人公が自分の国籍を明かすのをためらうのかがわかってきた。インターネットの世界では、「在日」という言葉は明らかに良い意味では使われていなかった。

在日韓国人について調べて、自分の無知さにも、これらのことが知れ渡っていない日本にも驚いたし、こういった韓国との関係を知る日本人が少ないということが、韓国と日本との間の問題を大きくしている原因のひとつなのではないかと感じた。また、日本人のイメージする韓国や韓国人像に、無知であるが故の偏見が含まれているのかもしれないと考えた。そうだとすれば、いつまでも何も知らない日本人でいるのは、韓国に対して失礼である。

韓流ブームや竹島問題などで色々な方面から韓国への関心が高まっている今こそ、二国間の問題について知ることのできる環境があるべきだ。何も知らないまま、また、間違った認識のまま、良い関係が築かれることはないだろう。日本と韓国がお互いに嫌う、その原因が過去の歴史にあるというなら、その歴史は避けられるべきではなく

二国間で話し合われるべきだ。

一緒にハングルの授業を受けている友達の中でも、この授業を取ろうと思った理由はK-POPが好きだからとか韓国を舞台にしたアニメにはまったからなど様々だ。このように、今は韓国に興味を持つきっかけが色々ある。韓国の文化と交流していく中で、韓国に対する日本の無知さは解消されていくのではないかと感じている。

そしてまず私は韓国へ行き韓国語で会話をして、無知から脱出したいと強く思っている。更にそのことで今度は私が誰かを無知から解放できたら、これほど嬉しいことはない。

いつも感じている国、日本

光武女子中学校　3年　姜玧汀

今年は例年になく暑かった。それで、よく体調を壊した。でも、私を慰めてくれるものがあった。それは学校が行う日本でのホームステイだった。夏休みの 1 ヶ月、8月にあるホームステイを待ち続け、中間試験のときには 10 月にあるホーステイを指折り数えて待った。私はホームステイに行く直前まで興奮を隠すことができなかった。周りのみんなにはどうしてそんなに興奮するのかと聞かれたけれども、ただ単にうれしかった。いつもは遠くて近づきがたい日本文化を近くで感じることができるという期待感からだった。私にとって日本は、緩やかではあるが、早く近づいてきていた。

はじめて日本に関心を持ったのは、日本のドラマだった。はじめて聞く外国の言葉が不思議で、同じ東洋人だけれども、少し違った人たちを見て興味を持った。そして、中学校に入ってから、課外授業で日本語を習うようになった。ドラマを見て感じた外国に対する憧れが私を強く突き動かした。このようにして興味を持って習い始めた日本語は大変だったけれども、着実に身についているようだった。でも、なにかもの足りなさを感じた。日本語を習ってはいるが、本当にちゃんと学んでいるのだろうかという疑いを持つようになった。そうしたときに、ある交流サイトを通じて日本人と友達になることができた。その友達が韓国のことをよく知っていたおかげで、日常的な会話だけでも長い時間おしゃべりができたし、私の日本語のおかしなところもよく直してくれたりした。また、日本の若者文化に触れるよい機会にもなった。

そんな日々を送っていた 2 年生のときに、学校で日本のホームステイを行うという機会がやってきた。残念ながら、その時には日本から来る友達を迎えることしかできなかったが、会う 1 ヶ月前からそわそわしながら、毎日メールで連絡を取り合った。韓国について、いろいろと知りたい友達のために、よい外交官になろうと努めた。日本から来た友達に実際に会ったときに、ようやく日本を身近に感じることができた。東方礼儀之国の韓国に劣らない礼儀と焼き物のような内向的な性格が感じられた。何よりも、私の下手な日本語をよく理解してくれる、しっかりとした人だった。いつもだれかと一緒にいることを好む金属製の鍋のような韓国人の性格とはまったく違うが、私たちのように情のある人たちだった。韓国人が情から入っていくのと違い、日本人はある程度親しくなってから情をかけるように感じた。思慮深い慎重さも感じられた。別れるときには、しっかりと抱き合いながら、別れのあいさつをした。

私はどうしょうもない名残惜しさから、再びホームステイの申請をして、数日前に

福岡に行ってきた。二泊三日という短い期間だったが、多くのことを感じることができた。日本は街並みから日本特有の素朴さを感じることができる。食べ物にも日本特有の酸味とさっぱりさがあった。辛くて華やかな韓国の食べ物に比べ食べやすい。でも、一番不便に思ったのはお箸だった。金属製のお箸を使う韓国に比べ、木製のお箸はとても軽く、なによりもスプーンを使わないのが一番の特徴だった。そのうえ、ごはん茶碗を手に持って食べるのは面倒くさいという気持ちにもなった。でも、友達が韓国に来たときのことを考えると、ごはん茶碗を置いたまま食べるのはたいへんだったろうとも思った。文化の違いによって、もっとも苦労した瞬間だったけれども、小さな違いを理解することが、お互いを尊重し合うことへの道であるということを分からせてくれた瞬間でもあった。このようにいろいろな問題もあったが、最後までお土産を差し出しながら、笑顔で別れを告げる姿は今も私の胸の奥深くに焼き付いている。

私は今も相変わらず、日本語の勉強を続けている。いつの間にか、日本語の実力も日本語能力試験の１級に手が届くところまで来たが、今も勉強は楽しくて仕方ない。以前は想像もできなかったけれども、この３年にも満たない短い間に、日本という存在は私に急接近してきた。急に親しくなれば、簡単に別れたりもする。まだ若い私だが、よくそのように感じている。マスコミで報道されている政治的な問題は、私が日本を感じている最中に問題になることはなかった。ただ、融通を利かせて行動すればよいということを学んだだけだ。このように日本という国は単純な存在ではないようだ。すでに、大きな存在になってしまったのである。私はそのように日本を感じている。

私が感じた日本

津寛中学校　3年　金奈潤

韓国は隣国である日本と直接・間接的に関係が深い。それだけに韓国は日本に多くの関心を持っている。日本で何かが起きると、何時でも多くのニュースや新聞記事となり、SNS でも話題になったりする。また、日常生活の中で日本製品が使われており、オリンピックやサッカーの試合のような韓日戦では、お互いに熱くなったりもする。普通の韓国人は、ある程度日本について知っている。日本が先進国であることもあるが、隣国であることもあり、学校やテレビなどでよく話題になるため、他の国に比べるとよく知っている方だ。しかし、日本の文化について自分の考えを持っている人はほとんどいない。

私は小学校 5 年生のときまで、「日本」については国の名前と国旗と着物の 3 つ以外は知らない子供だった。さらには、中国語と日本語の区別さえもつかないほどだった。実際、今も「日本のことなら何でも知っている！」と自信を持って言えるほどではないが、私が経験した数少ない日本文化について話してみたいと思う。

私が日本に関心を持つきっかけになったのは、『名探偵コナン』と『デジモンアドベンチャー』というアニメーションだ。子供の頃は韓国語に吹き替えしたものしか見たことがなかったので、日本のアニメーションだということを全く知らなかった。日本のものだと知ったのは、小学 6 年生になってからだ。それを知ってからは、少し注意深く見るようになり、「アイデアがとても素晴らしい。漫画家はかっこいい」と思うようになった。そして、その頃から日本語を聞くことがなんでもないようになるぐらい、たくさんのアニメーションを見るようになった。

日本語に慣れても日本の歌を聴くのは難しかった。日本の歌を聴く機会もないままに中学校に入学したが、1 年生の初めに合唱コンクールがあって、そのコンクールで歌う曲目を考えるという宿題が出たことがあった。ちょうど暇だったので、インターネットで検索してみた。すると、あるイラストと一緒に出ている映像を発見した。8 人の合唱だと書いてあり、好奇心から再生してみると、それは本当に素晴らしい歌だった。日本の歌で、歌が上手だとか歌手の顔が出ていたわけでもなかったのに、とてもさわやかでスカッとした歌だった。その歌を聴いた瞬間、胸がドキドキしたのを今でも覚えている。歌詞もわからず、決して上手でもなく、誰が歌っているのかもわからなかったが、歌っている人が皆楽しそうに自由に歌っている歌だった。私はその歌の出どころを探しはじめた。その歌の出どころは「日本の YouTube」と呼ばれている「ニコニコ動画」というサイトだった。そのサイトは日本の文化空間の縮小版のようだった。イラスト、映像、歌、踊り、楽器、ゲーム、料理、動物など、いろいろな

ジャンルが１ヵ所に集まっており、まさに別天地だった。私は日本語がわからなかったが、2〜3 時間そのサイトに入り込んだ。

私はその後、そのサイトにすっかりはまってしまった。そして、日本の歌や文化にもすっかり慣れてしまった。そのサイトは規模がだんだんと大きくなり、そこからデビューする人もいるほどだった。私はバラエティ、映画、ニュース、ドラマ、小説、ライブなど、日本の様々なメディアに接するようになった。そして、日本語の翻訳もできるようになった。私はこのようにしながら、いろいろなものを見て感じとった。

日本は文化活動が活発で自由にできるようだ。国内市場も広い。幼い子供から年配の人まで、会社員であろうと、CD を買ったり、コスプレをしたり、文化を楽しみながら、自分で直接作ることもできる。韓国は K-POP やドラマ、映画の国内市場が狭く活動領域も狭い。違法ダウンロードをする人たちも多い。実際、私の友達も映画や歌やドラマなどを違法ダウンロードで楽しんでいる。日本はちょっと違う。素晴らしい歌や演奏、踊りがあれば、「これはお金を払って見なきゃ」「CD にして出してほしい」などという反応が多数のようだ。有名な K-POP の歌手でなければお金を稼ぐのが難しい韓国と違って、日本では音楽が様々な形で使われ著作権に対する意識もちゃんとしており、ある程度利益が出るので、国内市場でもお金を稼ぐことができる。

今の私の日本についての印象は、大部分がインターネットを通してのものだ。日本のネット用語は私にとって本当に見慣れないものだった。例を挙げると、「www」というのは本当に変わっている。韓国でいうなら、「ㅋㅋㅋ」のような意味で、笑うという意味の漢字「笑」を入力するとき、キーボードでは「warai」と打たなければならないが、変換せずに簡単に「www」と略して使う。また、SNS 用語をひらがなや漢字に変換して使っているのも新鮮だった。

しかし、怖い面もある。私が好きなベーシストや作曲家(上記のニコニコ動画というサイトでは仕事と趣味を兼ねている人たちがいる)が自殺するなど、自殺事件が続いたり、ある人は一度犯した失敗により、何年もの間、絶え間ない非難の書き込みに苦しめられたりしている。時々、未成年者が見るには不適切なものもあったりする。これも、私が感じた日本の一部である。

日本は私に多くの変化をもたらした。そして、思考の幅も広めてくれた。時々、怖いことや外国人の私には理解できないこともある。また、歴史的な問題でぶつかり合うこともある。しかし、それだけに魅力的なところも多くある。韓国と似ているが違うというところもおもしろく、直接体験してみたくもなる。私が感じた日本はごく一部であり、もし日本人がこれを読めば、笑われるかもしれない。しかし、本当に日本文化はおもしろく興味深い。文化を堂々と楽しむことができる個性ある国、ときどき理解に苦しむが独創的な文化がある国、これが私の感じた日本である。

韓日交流について考えること

津寛中学校　3年　金蓮周

私の日本に対する印象は、ただ韓国の近くにあって、韓国人と似たような姿の人たちが、似たような生活習慣と文化を持ち、過去に韓国に対し、良くない記憶を植え付けた国だということだけだった。しかし、私たちは生活しながら、いろいろな場面で日本と接し交流している。今では少しずつ関係が改善され、小さな争いごともなく、両国間で人材や経済の交流が行われている。

ところが最近、日本の政治家の靖国参拝や独島(竹島)問題によって、日本と韓国の間に再び暗雲が立ち込めている。しかし、一部の良識ある日本人たちは韓国のために、靖国参拝に反対し韓国との良好な関係を維持しようと努力している。また、日本で暮らしている在日韓国人たちも両国間に紛争が起きないように努力している。私はニュースを見ながら、少し胸が痛かった。韓国と日本の関係が少しずつ悪化しながら、以前よりも、もっと憎しみ合うようになったようだ。政治家たちの妄言によって、両国の国民がインターネット上で相手方の悪口を言ったり、けなし合ったりしていたが、靖国参拝に反対する日本人を見て、皆が皆悪いわけではないと思った。韓国に対し申し訳なく思い、悪口も言わず、韓国を愛する人々もいるのに、韓国人は日本の悪い面だけを見ているようで、残念で申し訳ない気持ちになった。

日本人の中には、ニュースに出てくる韓国を敵対視する人だけではなく、良心的な人も多くいるということを今回改めて感じた。以前、私は友人と買い物に行った南大門市場で、日本から来た観光客に遭遇したことがある。南大門市場はとても人が多く、歩いていると通行人同士よく肩がぶつかるが、その中の一人が日本人だった。はじめはよく分からなかった。なぜなら、韓国人とは話す言葉が違うだけで、見た目はほとんど同じで区別がつかないからだ。私はその人とぶつかり申し訳ない表情で「すみません」と言った。すると、その人は意味を理解したのか、私にたどたどしい韓国語でゆっくりと「いいえ、大丈夫です」と言い、口元に笑みを浮かべながら過ぎ去っていった。日本人は皆怖いという考えから解放された瞬間だった。その優しさはニュースで見る日本人やインターネット上で韓国を批判する日本人ではなく、普段私たちの周りにいる普通の親切な人だった。

今思えば、本当は私も日本に対する偏見を持った人間だった。今回、この作文をきっかけにして、日本人と日本に対する偏見が少し無くなったような気がする。日本と韓国はデリケートな政治問題に関する発言をエスカレートさせずに、日本と韓国の

適切な立場表明と対話によって解決することが望ましいと思う。それぞれの国としての立場はあるが、国益を生み出しながら、お互いが、まず相手の国を理解しようとすることだ。例えば、日本について否定的な部分だけを見ようとするのではなく、日本の肯定的な部分も見ようと努力してはどうだろう。そうすれば、政治家たちが妄言を吐いたとしても、プラス思考でよい解決策が見つかるのではないだろうか。現在、日本にいる韓国人と一部の日本人がこれはちょっと違うのではないかと言うように、韓国の味方をする人も多いと思う。それでも、政治家たちの妄言が許せないなら、良いイメージの日本人を思い浮かべ、私たちがお手本にしなければならない日本の素晴らしい文化を学ぶようにしてはどうだろうか。

また、私が考える日本人は韓国人と似ている部分がある。それは韓国のアイドルを好きな韓国人と日本人に違いがないように。最近のニュースを見ると、日本で公演を行う韓国のアイドルがとても増えた。韓国で大人気とまでは言えないアイドルを見るために、朝早くから会場前に並び、公演を熱狂しながら見る姿は韓国人の心に誇りを植え付けるのに十分だ。私の友達もアイドルが好きだし、幼い子供から大人まで、大部分がスターが好きだ。もちろん、私もアイドルが好きだ。ハンサムで歌が上手で踊りが上手なアイドルを嫌いな人がいるだろうか。これは韓国も日本も同じようだ。日本の文化に合った芸能人がいると思うが、最近はK-POPという名で、韓国の歌手や俳優が日本で愛されている。ある芸能人が独島(竹島)について発言し、日本で活動できなくなったという記事を見たことがある。政治的な発言をしなくても、韓国文化を日本に広める文化交流はできる。自分の人気と富のために行う芸能活動の合間、韓国と韓国人の本当の姿を広く知らしめる交流こそ、一石二鳥の効果が得られる方法ではないかと思う。

それから、子供たちの交換留学制度を作ってみてはどうか。幼いときから、学校の休みの期間などを利用して、お互いの国の文化が体験できるように「文化体験移動学校」を作るのだ。交流を締結した相手国の小学校に子供をそれぞれ送り1ヶ月程度生活体験をすることは、お互いの国を理解するのに役立つはずだ。かつて百済時代に韓国から日本へ文化が伝わったと言われている。しかし時は流れて、韓国と日本の共通点は、今はそれほど多くないように思われる。お米のご飯を食べ、お箸を使い、韓国ではハングルを使うが、昔は漢字を使っていたことも共通点だと言えるだろう。K-POPが好きなところだけが同じなのではなく、日常の中にも似たところがある。このように、私の考えでは日本と韓国は仲が悪く、お互いに憎しみ合っているとも言えるが、よく見てみると、お互いに似ている部分もありK-POPによって繋がっている。芸術によって通じ合うためには、幼いときからお互いの文化を理解する場を設けてあげることが一番良い方法だと思う。

私の日本についての経験と今の現実から見れば、日本の支配層と一部の保守的な人たちが韓国に対するよくないイメージを植え付けようとしているのであって、多くの日本人は韓国に親しみを感じ韓国を愛しているようだ。お互いの偏見を抑えて、お互いを見つめ合えば、両国の文化交流や教育交流は円滑に行われるだろう。長い時間をかけてできあがった両国の国民の偏見が少しでも無くなることを私は望んでいる。

韓日交流は必要だ

釜山善花女子中学校　2年　金引德

ソウルでは日本の妄言を糾弾するデモが行われ、東京では嫌韓デモで騒がしい。韓国と日本はインターネットのオンライン上でもお互いの人気コミュニティサイトのサーバーをダウンさせるサイバー攻撃を繰り広げている。スポーツも例外でない。韓日戦で負けたサッカーの国家代表チームには全国民から非難が浴びせられる。

「永遠の宿敵」、これは韓国と日本の関係を思い浮かべるたびに登場する言葉だ。しかし、韓国と日本は本当に近いところにいる隣人であり、お互いのことよく知っている仲だ。隣同士喧嘩もするが、一緒においしいものを分け合って食べることもある。このようにお互いにおいしいものを分かち合うための手助けをするのが日韓文化交流基金だ。私たちに必要な交流の橋渡しをしてくれる組織だ。いったいどのような役割を果たしているのだろうか。

まず、文化交流とは、文化の多様性と独自性を認め合いながら、相互間の理解を深めることを目的とするものである。ことば通り、お互いの文化を体験しながら親睦を図り、理解の幅を広げる。これは日韓文化交流基金が行っている全ての事業に当てはまる。お互いのことを理解することさえできれば、私たちは心を開いて手を握り合い仲よくすることができる。このようになるまでがとても大変なのである。仲よく付き合えば、お互いが持っているものを正直にさらけ出して見ることができ、もっと親しくなれば、それをお互いに分かち合うことができる。いままでになかったものを持つようになれば発展することができ、その発展を叶えるために、結局、日本と韓国の活発な文化交流が必要になるのだ。

韓国にも得意なものと苦手なものがある。日本には私たちが必要とするものがいくつかある。もちろん、韓国だけでなく、お互いに必要だということである。そこで文化交流が必要なのだが、否定的な感情の中で、お互いに壁を作り警戒ばかりしてしまう。しかし、そうした壁を壊してくれる英雄がいる。結局、その英雄がハンマーで壁を壊すことになるのだが、それを後押しする私たちの役割も重要だ。

日本には私の好きなものがたくさんある。歌舞伎、富士山、温泉、ロボットなど、いろいろなものが好きだ。日本のものはどれもこれも好きだ。「好き」ということばのオンパレードだ。そして、ただの「好き」ではなく、「本当に好きだ」と言いたいもののひとつが日本の人びとの秩序意識だ。例えば、2011 年 3 月 11 日に起きた東日本大震災では、自然の力の前に人間の無力さと弱さを見せつけられた。本当に多くの

死傷者と経済的な損害をもたらした大災害だった。しかし、そのような混乱の中にあっても、日本の国民の秩序意識は輝いていた。宮城県仙台市のある学校のグランドで水の配給を受けるために集まった人々が、グランドに描かれた線に沿って並んでいる写真を見ればわかる。文化交流は必ずしもスポーツや音楽や芸術だけに限ったものではなく、目には見えない人々の習性や姿勢なども合わせて、私たちの生活の中に染み込んでくる。良い行いがほかの人たちに自然に浸透し日常化するのがもっともよい。私は文化交流をすることによって、こうした現象がたくさん起こることを望んでいる。

最後に私が望むことがあるとすれば、韓国と日本のような東アジアの多くの国々が心をひとつにして、西洋のように大きく経済発展しなければならないということだ。東アジアには経済問題、北韓(北朝鮮)問題、領土問題、歴史問題など様々な問題が混在している。こうした問題はひとつの国家だけでなく、すべての国家が力を合わせて解決しなければならない問題だ。だから、アメリカや中国と肩を並べることができるような強い国になれれば、本当によいと思う。過去に日本が韓国に対して、よくない印象を与えたことは事実だ。しかし、私たちが憎まなければならないのは日本人ではなく、過去の日本の民族主義の歴史であるということを知る必要がある。過去のことだけを思い出し、現在の日本は見る必要はないとして、過去だけにこだわれば、韓国のこれからの発展はないだろう。私たちは私たちの目を覚ます何かを必要としていた。その何かのひとつが日韓文化交流基金だと思う。

文化交流を進め、お互いのプライドだけを強調するのではなく、お互いに足りない部分を補い合っていける点を明らかにし、国家間で起こる争いごとは韓日両国だけではなく、東アジア全体の未来までも危うくするということを、理解しなければならない。

韓国と日本が文化交流を通じ、国際社会の一員として協力できれば、両国のイメージは一層改善され、先進国として発展し、世界的に大きく寄与することができると信じている。

韓日文化交流に対する思い

耽羅中学校　2年　金惠恩

韓国と日本は三国時代から交流があったと言われている。その当時、日本は「日本」という現在の国号をまだ使ってなく、正確な国号がなかったため、「倭」と呼ばれていた。当時、伽耶、百済、倭は外交関係を結び互いに交流していた。相手がいつ裏切るかわからない関係ではなく、互いを信じ合う仲だった。しかし一時期、韓国の発展が遅れ日本が成長し、韓国と日本の関係は悪化した。しかし、再び関係を修復中だ。

昔の交流は、韓国が取り入れた中国文化を日本に伝えていた。最近は双方が対等な関係で交流している。そのまま真似るのではなく、お互いの長所を融合させた形の交流だ。例えば、普通私たちが「アニ」と呼んでいる「アニメーション」がある。もちろん、韓国にもアニメーションはある。しかし、韓国と比べて日本では、アニメーションが大衆化されていて、ひとつの大きな産業として発達している。そうした日本のアニメーションが韓国に入ってきて韓国の漫画と結合した。私の考えではそこからwebtoon が生まれたのではないかと思っている。このように韓日文化交流は両国の文化発展、または経済発展に影響を及ぼしている。

しかし、今の日本と韓国はいろいろな問題で対立している。「広開土王碑捏造事件」、「韓日併合の正当化を捏造」、「独島（竹島）問題」、「教科書事件」など、こうした争いは些細なことのようだが、絶対に些細な問題ではない。こうした問題が続けば、韓日関係はさらに悪化するしかないだろう。しかし文化交流を通じれば、対立関係を解消するための方法が見つかるのではないか。それは交流することによって、お互いをよく知ることができるようになるからだ。お互いのことをよく知れば、それぞれの問題を正しく理解することができ、政治的、文化的にもとても役立つはずだ。

ある人は日本との関係改善のためではなく、経済的な理由で仕方なく日本と交流しなければならないと考えるかもしれない。しかし、こういった意見は現代人の誤った認識である。こういった認識は私たちの先祖が経験した文禄・慶長の役や植民地支配によってもたらされたものだろう。しかし、そういった認識が現在、いや、未来まで続くとするなら、それは私たちにとって良いことだろうか。私はそうではないと思う。過去にあったことはとても悲しい出来事だ。しかし、その耐え難い時間を耐え抜いた先祖たちの努力とその結果を考えなければならない。近年、日韓の関係が悪化し外交的に次々と問題が起きれば、私たちの先祖の血と汗の結果が崩れ去ることになるだろう。もちろん、日本による植民地支配が私たちに多くの苦しみを与えたことは事実だ。

しかし、私たちは知らなければならない。ある問題について、どのような方法でそれを受け入れるかにより、その問題の意義が変わるということを。もし、韓国が植民地期を経験していなければ、もっと発展していたかもしれない。しかし、植民地時代に日本に抵抗し独立運動を起した事実は、当時の韓国の民衆の心をひとつにするきっかけになったのだろうと思う。

ひとつの問題について、いろいろな角度から考えてみてこそ、その問題がよく理解できたと言える。私は私たちの認識が変わることこそが、韓日間の問題点の克服とお互いの信頼を深めるための礎になると思う。私たちの正しい認識が韓日交流の大きな力になるということを知ってほしい。

私が感じた日本

始興銀杏中学校　3年　芮芝熙

日本という国は韓国にとって近くて遠い国だ。同じアジアあり地理的には近いが、情緒とその内面はまったく異なると言っていい。しかし、日本は韓国の隣国であるため、ほかのどの国よりも接する機会が多い。

私は今年の2月に「アヤ」という同じ年頃の日本の友人に会うために大阪に行ってきた。私と同じ年頃だというので、期待でわくわくしたが、一方では外国人だという思いから緊張もした。ところが、アヤは私が思っていた日本人のイメージとは正反対だった。なによりも自分の感情と意思がはっきりとしていた。遠まわしにものを言ったり、ぐずぐずしたりすることもなく、積極的に自分の考えを話す子だった。アヤはK-POP のような韓国の音楽やファッションに関心があった。私たちはお互いの国について、たくさん知りたいことがあるという共通点があり、国は違うが同じ年頃ということもあって、それほど私と違わないと思った。

日本に行って感心したことは多いが、まずは読書だ。私は地下鉄の中で周りをきょろきょろ見回すことになった。私は本がとても好きだが、日本の地下鉄の乗客の3分の2以上の人が本を持っていたからだ。韓国ではだいたいスマートフォンを見ているか寝ているかのどちらかだ。私は手に小さな本を持って読んでいる日本人を見て偉いと思った。まず、日本人が持っている本が韓国とは違って小さく持ち運びに便利な点がいいと思った。そして、漫画のような本を会社員や大人が読んでいても変な目で見ないのも日本の文化だと思った。日本の本屋さんは人が多く、一部の本を除けば、ほとんどの本が見られるようになっていたり、サンプルがおいてあったりするので、あらかじめ内容を確認することができる。あたかも日課のように本屋さんに通う日本人の姿を見て、私はとてもうれしく幸せを感じた。

二つ目は日本人の親切さだ。これまで本で読んだことはあったが、私は実際の日本人の態度にとても感銘を受けた。私はアヤにメールを送ろうと思ったがパソコンがなかったので、ホテルにお願いすると、ホテルの職員は仕事を途中でやめて、その仕事で使っていたパソコンを私に使わせてくれた。私が日本語の打ち方がわからず困っていると代わりにメールを打って、アヤにメールを送ってくれた。そして、私をエレベーターの前まで案内してから、自分の仕事に戻っていったのだ。これだけではない。地下鉄で道に迷っていたとき、あるおじさんは私のために、わざわざ一緒に切符を買い、5 分も歩いて私を案内してくれた。この出来事は私にとって、とても貴重な経験

となった。自分がしていた仕事、自分の行く道を変えてまで外国人に親切にする日本人の姿は日本の第一印象として私の記憶の中に残っている。

最後に大阪から神戸に行ったときに出会った、現場体験学習に来ていた日本の生徒たちのことだ。私はその生徒たちと直接話したかったが、恥ずかしくて一緒に写真を撮ってほしいとカメラを差し出すのがやっとだった。そのときに目を引いたのは男子であれ女子であれ、生徒全員の制服が野暮ったいほどに素朴で端正だったことだ。スカートは膝下まであり、ズボンはストレートだった。韓国でこのような制服を着て歩けば、みんな振り返って見るだろうが、私は彼らが学校の生徒らしい身だしなみをしていると思った。それは生徒が持たなければならない態度であり姿勢だからだ。今回の旅行で私が持っていた日本に対する偏見や認識がとても変わったし、新しいイメージを持つことができた。そして着物や日本語に隠され、日本の中にうずもれている日本文化にもっと関心を持つようになった。これは私の経験なので、ほかの人が経験した日本とは違うかもしれない。しかし、両国がもっと親しくなり交流が増えて、お互いに対する誤解や偏見がなくなればいいと思う。そして、現在の韓国と日本の間で文化交流が行われていることはとても望ましいことだと思う。韓国がより良い国になるために、そしてお互いがもっと近づくために、私たちは真の「隣国」にならなければならないだろう。

知彼知己百戦百勝？知彼知己百戦百勝！－近くて遠い国、私が感じた日本

釜山善花女子中学校　3 年　呉祥池

近くて遠い国日本。日本と関係があることであれば、大部分の韓国の国民の反応は似たようなものだろう。私も無意識のうちに目に力が入り、拳を握りしめてしまう。こういった反応は両国が経てきた歴史から来ているのだと思う。

日本という国は昔から韓国と絶えず争ってきた敵でもある。韓日の間でスポーツの試合があれば、その相手が日本であるという理由だけで、韓国は必ず勝たなければならない。ほかの理由は必要ではない。なにがなんでも無条件に勝たなければならない。21 世紀の情報科学化社会を自負する大韓民国らしくないことだ。両国間の問題が「独島(竹島)」の領有権問題や「日本軍慰安婦」問題、「歴史歪曲」と関連した事柄になると事態はさらに深刻になる。こうなると 9 時のニュースをはじめ、インターネットの検索語や新聞の見出しはこの話題で一色になる。たいへんな結束力である。一体どこから来る結束力なのか、考えてみたくなるテーマだ。

アイロニーであるが、私もやはり大韓民国の国民の一人として、韓国の歴史の中に悠々と流れている血を受け継いだ韓民族として、「慰安婦問題」や日本の「独島（竹島）の領有権」についての主張などに接するたびに、湧き起ってくる怒りはどうにもならない。日本の植民地支配を直接体験したわけでもなく、国交が断絶しているわけでもない。釜山からソウルに行く時間があれば、簡単に行くことができるほど近い国日本。しかし、どうかすると、世界中で一番遠い国である日本のことを考えると、全身に力が入り、顔がほてってくる。理性よりも感情が先走るこのような怒りの前で、私は時々こんなことを考えてみる。私のこの怒りは日本と日本人に対する若干の羨ましさ、または焦燥感ではなかろうかと。

盲目的な敵対心を捨てて、日本のことをもう一度見直してみると、彼らの文化や経済、生活面などから学ぶことも多々あることはすでに知られている。日本人の「徹底した個人主義」は他人に迷惑をかけてはいけないという態度になり、見栄を張らない質素な生活習慣、量よりも質を重要視する価値観、血縁、地縁、学閥に縛られない徹底した実力主義などは、韓国の国民に警戒心を引き起こさせるのに十分な事柄だ。また、必要な分だけ消費するという食文化や多様性を尊重する彼らの社会こそ、今韓国の国民に多くのことを示唆している。

2010 年、私が小学校 6 年生のときに、私の学校と姉妹校になった日本の小学校を学校の代表として訪問したことがあった。ホテルでの滞在中も、コンセントが 110 ボ

ルトなので、充電するにも困るなど、不便なことがひとつやふたつではなかった。しかし日本人の質素な生活を肌で感じることができた。また、小学校の子供たちの礼儀正しい態度、お互いを思いやる態度は、知らぬうちに私の心の中に尊敬する気持ちまでも芽生えさせた。一緒においしいものを食べて、花火を見ながら楽しい時間を過ごしたときは、本当に同じ国の国民になったようだった。国籍を忘れ、友人として、有意義な思い出を作ることができた。まだ幼かったけれども、その時の体験は両国の交流を肯定的に考えるきっかけになった。

傷として残った歴史問題や、ともすると騒ぎになる領土問題などで怒りを覚えるが、日本人の良いところは学ばなければならない。これから、私たち青少年は託された課題を通じて、修復の歴史を作り、誤った歴史を正すよう努力していかなければならないと思う。

私はこの課題を解決するために、「知彼知己百戦百勝」の教えを思い出してみようと思う。しかし、今回は敵を知る前に自分を知ることから始めることを勧めたい。冷徹に自己批判をしてから敵の分析をしてみよう。そうすれば、もう少し理性を持って合理的に彼らを見ることができるだろう。近くて遠い国日本と、もっと活発な交流と発展的な関係が築ける日が来ることを期待したい。

文化交流を楽しむ私たちの姿勢

津寛中学校　3年　李賢雄

大韓民国の国民は「日本」という単語に対して相異なる認識を持っている。1 つは、第二次世界大戦の悲惨な敗戦を乗り越えて世界第 3 位の経済大国にまで成長した国という認識、もう 1 つは、いまだに軍国主義と帝国主義に対する未練から抜け出せずにいて、右翼と動脈硬化に陥った政治と経済により徐々に淘汰されつつある国という認識である。日本文化に対しても、このような極端な認識が影響している。それは、一方では「興味深くモダンな文化」と称賛を惜しまないが、もう一方では「退廃的で下品な文化」と烙印を押してしまうという奇妙な現象となって現れている。こうした現象は、いまだに韓日交流が本来あるべき姿で行われていないということを物語っている。なぜ私たちがこのように相異なる認識を持つようになったのか、その理由を知ってこそ生産的な韓日関係を未来に向けて築くことができるだろう。

歴史の中で見られる韓日間の交流はさておき、20 世紀に入ってからの韓日交流は、金大中政権による日本文化の開放以前から存在していた。20 世紀前半は帝国主義の侵略の波とともにあり、後半は資本主義という名の下にあった。こうした交流は双方向の交流ではなかったという点で、望ましい文化交流だとは言えないだろう。前半の交流は、韓国の国民に肯定的な面よりも多くの否定的な面をもたらしたのは事実だ。日本に関することすべてを初めから否定的にとらえ、無意識のうちに身構えたりする姿勢は、たぶんこの頃に生まれたものだろう。そして、日本帝国主義によって主観的に歪められた植民地朝鮮に対する認識は、いまだに日本社会のいたるところに残っている。現代の一部の日本人が持つ嫌韓意識の根底には、この時につくられた歪んだ見方があるといえる。当時、多くの日本の研究者によって韓国人と韓国文化についての研究が行われたが、大部分は純粋な学術目的のものではなく、政治的な目的を持って行われた。研究対象としての韓国人と韓国文化に対しても基本的に蔑視する意識と先入観が存在していたため、学術的価値のある研究とは言えないものだった。それらは肯定的側面を完全に否定した研究で、他者の特殊性を理解しようとしない暴力的なものであり、植民地の朝鮮人たちは批判することなく受け入れた。その結果、いまだに韓国人の中年層の一部には、自らの民族性を批判し、外国人が聞けば自らを否定するかのように歪められた民族認識を持つようになった者もいる。

1945 年の解放以降、日本という単語は少しずつ私達の記憶の中から消えていくようであったが、その代わりに「理念」と「反共」のプロパガンダが韓国人の対外観と

なっていった。しかしながら、日本は、いや日本帝国主義の亡霊は上意下達的な軍隊式の上下関係と政経癒着という亡霊として、韓国社会に根深く潜んでいた。「日本製品のイメージ」とヒステリックな反日が、当時の大部分が抱く韓国人の日本像であった。その後、私たちは日本と意外なところで出くわすことになる。1988 年のソウルオリンピックと海外旅行の自由化がまさにそれだ。さらに、90 年代に起こった「春樹シンドローム」は、冷戦以降のイデオロギーの崩壊によって生まれた韓国の多くの若者の思想的な空虚感を癒してくれる友となり、『新世紀エヴァンゲリオン』をはじめとする数多くの日本のアニメーションは、いわゆる「オタク第一世代」を生み出し、日本はもはや「遠い国」ではない「隣の国」となった。日本文化の開放以降、多くの日本文化が韓国に入ってくるようになり、90 年代中頃から始まった韓流は日本にも影響を及ぼした。お互いに対する関心は高まり、お互いを更によく知るようになった。しかし、私たちは今の交流が完璧なものだとは考えていない。

現在、私たちの交流はドラマやアニメーション、そして小説に偏っているということは反駁できない事実である。もちろん、これらを通じて相手に対する関心が徐々に高まってきているということもまた否定できない事実である。しかし、ある国の文化を楽しむということは、ある人と友達になることと同じだと言える。ある人と友達になろうとすれば、好き嫌いに関係なくゆっくりと時間をかけて親しくなるべきであるように、ある国の文化を楽しむときにも、ゆっくりと関心のある文化の周辺文化までも理解する心構えがなければならない。しかし、今の韓日両国の文化を楽しむ人達の中に、そういう心構えと礼儀が備わっている人が一体どれぐらい存在するだろうか。もし、それを無視して独善的に自分が好きな文化だけに関心を持ったとしたら、文化に対するバランスの取れた見方ができなくなり、自分が好きな文化さえも深く理解できなくなるであろう。

韓日間の双方向の交流がもっとも活発な今、望ましい韓日文化交流が行われるために、両国政府が相互の理解を深めるために努力している団体に対して積極的に支援すべきであり、未来世代の交流をリードすべきである。そして、異文化と接するときには、排他的な民族主義の視線で見るのではなく、相手の特殊性を理解しながら、個性を尊重する広い心構えが必要である。しかし、何よりも一番重要なことは、相手の文化を理解しようと両国民が熱意を持って努力することだといえる。

小さなところから始まる韓日交流

彌鄒忽外国語高等学校　2年　金暁珍

韓国と日本、この二つの国は昔からたくさんの交流をしてきた。その結果、両国はお互い似た点をたくさんもつことになった。だが、「似た」と「同じ」とは違う。似通った点の中にもこの二つの国はそれぞれ自分たちの固有の領域を発展させていった。最近高校生たちは「日本は似たような性質の傾向をもっているから」と考え、両国間の交流を疎かにする傾向がある。だが、私はこの似通った点が多い韓国と日本との交流こそが、ほかのどの国との交流よりもよりお互いにとって発展につながると思っている。だから、私は高校生の立場から感じた点に焦点を合わせ、今のように持続的かつ多様な韓日交流のためには何をどうすればいいのかについて書いてみたいと思う。

まず、韓日交流の必要性を知らせ、多様なプログラムがあることを広く知らせることが大事だ。ネットで検索してみると、多様な機関が主催する信頼できる、興味深い韓日交流がたくさんある。だが、残念なことに、こうした情報は学校で先生たちが知らせてくれなければ、自分で探すのは難しいという短所がある。関連したホームページなどでも情報が見られるが、ほとんどが学校に公文書を送り、学生たちを募集するやり方のために、結局学生たちは学校でしか、そうした情報に接することができない。だが、生徒は多いので交流の機会は相対的に少数の学生だけに与えられる。私は学校で韓日交流プログラムに積極的に参加し、訪日研修にも行ってきたが、いつもその点が残念でならない。これからは、青少年がよく接続するオンライン上のサイトや SNS などを通じて、多様な韓日交流の機会があることを広く知らせ、韓日交流への関心が広がれば、より多様で多く韓日交流が生まれる礎になるのではないだろうか。でなければ、少なくとも学校で、学校側が韓日交流を数多く主催する機関のホームページを知らせれば、関心のある学生たちはそのホームページを通してもう少し簡単に韓日交流の機会に触れられるだろう。もちろんよいプログラムには多くの人々が参加したがる。だが、どんなよいプログラムでもきちんと広報されなければ、せっかくのよいプログラムが日の目を見られない場合もある。なので、少なくとも青少年にプログラムを知らせることに、もう少し配慮すれば韓日交流への関心は飛躍的に高まるだろうと信じている。

次に、まず学生たちの韓日交流への考え方を広げることだ。ふつう、韓日交流といえば、韓国や日本の学生たちがお互いを「訪問」する交流を多くの人が思い浮かべる。

だが、韓日交流とは必ず訪問という直接的なことだけなのだろうか。違うだろう。おそらく多くの日本に関心がある人なら誰もが、一度ぐらいは韓日交流を経験したことがあるだろう。小中学校の頃、インターネットペンパルは、子供や青少年の間で流行していた。まさにこのインターネットペンパルも交流の一種と言えるだろう。最近はSNS を通して関心のある分野について話を交わしていると、あえて同じ国の人でなくても、すぐ会話を交わすことになる。日本のアニメや J-POP が好きで、韓国のドラマや K-POP が好きで、日本語や韓国語を勉強したら、その機会はずっと増えていく。好きなことについて国境を超えて交わす対話、どうかすると眼に触れなかったかもしれないが、すでに韓日交流をしていたのだ。私たちも知らない間に始まった韓日交流こそが、些細なことに見えても、厳然としてお互いの意見を交わす交流であり、大それた話としてだけ考えられていた韓日交流のイメージに接近しやすい近道なのだ。こうした「目に触れることのなかった」交流を知っていくことこそが、韓日交流により近く接近できる道だと私は思っている。

最後に、似通った点から始め、交流の領域を知っていくことのできる多様な経験が必要だ。始めに触れたように、すでに、直接経験する韓日交流はその数は多く、多様性をもっている。テーマを決めることもでき、遺跡や観光地を直接訪ねてまわり、全体的な相手の国のイメージを理解していくことができる。今後もこうした機会を増やしていき、訪問できる地域に関しても、必ずしもソウルや東京を主とする首都圏ではなく、両国の異なる文化を体験できるいろいろな地域を探し出し、訪問地として選定するのはどうだろうか。もちろん首都圏において全体的なイメージを理解していくのもよい。だが、地方に行き、その土地の「伝統」とその「地域固有の文化」を体験できる機会を増やせば、韓日は最初から似ているという固定観念を壊すのにも大きな助けとなるだろう。それはお互いを理解し、韓日関係の未来を担う主役たちを量産することのできるよい機会だと思う。

韓日交流、やもすると、その言葉だけを見ると、難しく見えるかもしれないが、両国について理解していきたいという意志がある人ならば、自分も知らない間に実践している行動なのだ。万一、これまでは実践できなかったとしても、これからはなんであれ難しく考えずに、地道に自分ができることからやってみるのはどうだろうか。情報を知り、自らが一生懸命学んだ相手の国の言葉で自分の関心のある分野について、国境を越えて会話を交わし、さらには直接の交流ができるなら、その人はすでに韓日交流に寄与する素晴らしい人なのだ。

私が感じた日本

沢坪高等学校　2年　方尹祉

日本語を専攻することに決める前、私にとって日本はただ単にアニメ大国というイメージでした。幼い時から美術が好きだった私は日本のアニメに接し、はじめて将来の夢を抱きました。絵を描くことです。いろいろなアニメを見て、私もあんな漫画を描く人になりたいと思いました。そして中二のとき、私は漫画家を将来の希望にしました。そのとき、日本は私にとって、はじめて将来の夢を抱かせ、絵に対する夢を育ててくれた国でした。

そして、いろいろなアニメを見ていて自然に日本語に耳が慣れてきた頃、独学ですが、少しずつ書くことも習い始めました。ですが、やはりこれも勉強、すぐ音を上げてしまった私は買ってきた日本語のテキストを机の引き出しの奥にしまい込みました。そんなことも忘れた頃、私の人生を変える一つの事件が起きました。

中三のある日、あるデパートの美容室で一人の日本人に会ったのです。その人は美容室には日本語ができる人がいなくて困っていました。でも、その時は、独学していた日本語の勉強も投げ出していた時期だったので、「私の出る幕じゃない」と思っていました。そうしていくらか時間が経ち、その人のほうにチラチラと目をやっていた私は、その人のところに行き、「どうしたんですか」と声をかけました。すると、その日本人は喜びの表情を浮かべ、どうしたいのか説明し始めました。日本のお店で髪染めの薬を買って自分で染めたら、かえって髪が痛んでしまった。髪の手入れと、髪染めをしたいと。今になって考えてみれば、とても簡単の会話ですが、日本語の勉強を投げ出していたときに、通訳ができて、「やった！」という達成感をすごく感じました。

そうして幾日か経って、その日本の人から一通のメールが届きました。「日本に着きました。助けてくれてありがとう」と。形式的なメールでしたが、「ああ、私も他の人の役に立つことができるのだ」と思いました。たとえ、簡単な通訳でしたが、このことを通して日本語にいっそう多くの関心と、自信、興味をもつようになりました。

それ以降、私は美術とともに、独学で日本語の勉強を始めました。そしてまたその一年後、さんざん悩んだ末、四年間してきた美術の勉強をやめ、日本語の勉強に集中しました。恐さと期待とが入り混じった気持ちで行った語学学校は、予想とはちがって、楽しいものでした。一人で勉強していてよくわからなかった疑問が授業を聞いてすらすらと解けていき、以前自信がなくて避けていた課題にも少しずつ挑戦し、集中

できるようになりました。また、大学入試のための勉強していたときの夏休み、日本に短期研修に行くことになりました。

はじめは同い年のルームメイトと二人で生活しなければならず、食べ物やその他の日用品を買うことなど心配したのですが、思ったほど日本はそんなに心配するところではありませんでした。日本の人々も私の日本語を聞き取るのに問題はなく、私もまた聞き取ることができました。そうしたことが私にはとっても不思議でした。私にとって日本での生活はとっても楽しいものでした。また、日本語を選択したことについても自負心を感じました。

でも、私が日本に行ってきた後、ほとんどの人が私に言います。「日本人がそうやって微笑んでくれたのはみんなうわべだけのことさ」と。ギクシャクした歴史問題はいまも続き、人々にあまり印象の良くない日本。日本から戻ってこうした言葉を耳にし、そうした人びとの認識を私の力で変えてみたいとい考えるようになりました。日本での研修はとても短い時間でしたが、私の人生の目標を改めて決めることのできる、これまでの夏休みの中で最も大事な時間だったと思います。つい最近、JLPT2 級に受かった駆け出しレベルだけれど、いつかは自分が自分自身を誇れるくらい日本語ができるようになればうれしいです。そうして、通訳士となり、日本と韓国の間を少しでも近くできるようにしたいです。この目標のおかげで、わたしはこの頃忙しく疲れる毎日の中でも元気にやっていけるし、またそのことが、私をより一生懸命学ばせてくれる一つの励みになりました。

日本は私にとって人生の、目標と進路を決めることとができるよう私の夢を育ててくれた国です。

韓日交流について考えること

韓国外国語大学校附属龍仁外国語高等学校　1年　白賀媛

タコ焼き。日本と言えば、まず私の頭の中に浮かぶイメージだ。小学六年のとき行った北海道旅行で降り注ぐ雪と寒さを避けて偶然道端の一軒のタコ焼き屋さんに入ることになった。私と両親が入るといっぱいになるぐらいの小さなお店だったのだが、内部を見ると着物を着た伝統的な人形と古くなった写真が壁をびっしりと埋めていた。私が不思議だなというふうに店の中を見回すと、主人は狭いけれど五十年を超える伝統があると自慢げに話した。その言葉はタコ焼きをひっくり返す主人の手さばきを通してわかった。機械のように早く正確にタコ焼きをひっくり返した後、様々なソースを手早く混ぜる姿はまるで芸術家のようだった。またその味は生涯忘れないほどだった。道端の小さな店なのに、長い伝統と技術を持っているということが、当時の私には新鮮な衝撃だった。

タコ焼きだけではなかった。日本の市街の真ん中にある神社やその周囲を取り囲んでいる高層建築、季節のたびに行なわれる多様な種類のお祭りに全国が沸き立つ姿は彼らだけの固有の文化と伝統が現代文明とどれほど自然に調和しているかを示している。日本の「家業の継承」や「職人気質」に基づいた伝統のため私は日本に魅了された。だから私は高校に進んでから、第二外国語として日本語を選択した。中国語やスペイン語などを選択する場合がほとんどなのだが、わたしはためらいなく日本語を選んだ。「日本」という国をもっとよく知るために本格的に日本語を習いたかったから。元々、経済、経営、創業などに関心の強かった私は、自然と日本経済と産業にも関心をもつようになった。戦後日本の高度成長とバブル期から現在のアベノミクスまで、日本の経済史は私の興味と好奇心を刺激するに十分だった。だが、日本により関心をもつようになった根本的な理由は、結局は日本の過去と現在、そして未来にもわが国と最も密接な関係を持つ国、という考えからだった。

この夏、韓国代表として香港貿易創業大会に参加したのだが、そこで日本チームの人たちと会うことができた。大会で東アジア圏の国から来たいろいろな人たちにも会えたのだが、そのうち、私は断然日本から来た人たちと親しくなりたかった。うれしい気持ちで私から先に近づいていって声をかけ、日本文化について話を持ちかけると、日本の人たちは韓国人が日本人を嫌いなのではないか、と気まずい感じだった。瞬間心の片隅が冷めていく感じがした。歴史的な問題のために今も個人の間にも壁があるということや、最も近い国にも拘わらず、お互い相手の様子を窺いながら気まずい感

じになることが、どれほど気のふさぐ感情の消耗に過ぎないことかを全身で実感することになった。ネットや本を通して間接的に感じてきた韓国と日本との間の壁に実際にぶつかってみると、その壁を壊すことが、いかに重要な問題かということについて考えるようになった。私は日本の人たちにほとんどの韓国人は日本の文化について肯定的に考えているほうだと語った。この話を聞いた彼らはやっと明るく笑い、私に向かって気軽に接しはじめた。使う言語も、生きてきた背景も異なる私たちが心から共感し、意思疎通できる唯一の方法はお互いの文化的な価値を共有することだった。対話を終えて、一緒にショッピングすることになったのだが、そのとき私が日本語と日本の文化に対し多くのことを知っていることが、どれほど幸いかと思ったか。日本チームの人たちは韓流のおかげで食べ物や言葉など韓国について多くのことを知っていた。私がほとんどの韓国人がそうであるように、日本の文化に慣れていなかったら、私たちの共通の関心事について語り、親しくなることはなかっただろう。

過去の歴史と外交問題のために、反日感情をもっている人がまだ多い。政治と外交は細い糸のようだ。細い糸はいつ切れるかもしれないし、何かでどうもつれてしまうかわからない。そして一度もつれた糸は再び解きほぐすのも大変だ。だが、糸はもう一度巻き戻してつなぐことができるという大きな長所ももっている。政治と外交も同じだと思う。安定していた両国間の関係が危うくなることもあり、その関係を解きほぐすのに多くの時間と努力が費やされもする。この間、韓日関係がそうであったように、韓国と日本を見て、両国間の問題は、単純に両国をリードしていく政府上層部の人々の努力と交渉だけでは解決できることではないと思う。日本を指して「近くて通い国」と言うように、常に危うい韓国と日本との間の距離を狭めるには、何よりも両国の国民の意識を改善し、民間交流を拡大することが大事だと思う。今や、長い時間もつれてしまった糸の一部を切り捨て、切れてしまった部分をしっかり結ぶべき時が来ていると思う。

「疎通」という韓日関係のキーワードを忘れずに、切れてしまった糸を結ぶためたゆまず努力するなら、私たちが夢見る平和な国際関係が形成できるだろう。こうしたことが、まさに私たちがいつも話している「グローバル化」の真の姿ではないかと思う。

私は今も香港の創業大会で会った日本の友達とよく連絡している。そして、その延長線上で最近は日本各地の人たちと定期的にメールをやり取りし、映像対話をする活動を始めた。今や日本のことを思うと友達たちの温かい微笑が真っ先に浮かび上がってくる。一日も早く、彼らと口先でなく、ほとんどの韓国人は日本が好きなのだという話をしてみたい。

日の昇る国

慶南高等学校　2年　王寅瑞

「日の出ずる処」を漢字にすると「日本」だ。日本はすべてのことが始まる日の昇る国だ。私にとっても、日本はすべてのことがそこから始まったといっても過言ではない。日本という国が好きになって、そこに情熱が生まれ、日本に住もうという目標ができた。日本は私にとって特別な存在だ。日本という国を思い浮かべる時に現れる、一言で表現できない微妙な「何か」がある。

おそらくその「何か」は、日本独自の個性ある大衆文化だと思う。それは小学生の頃初めて見た日本映画『DEATH NOTE デスノート』で感じることができた。その日本独自の「何か」のために、日本の映画や音楽、文化に自然と関心をもつようになり、成長してからその分野に没頭するにつれ、日本について誰よりも多くの熱情と好奇心をもつようになっていった。

日本は何ともいえないセンセーショナルな雰囲気がある。少なくとも私が日本の文化から感じとった雰囲気はそうである。アジアでありながらヨーロッパの香りを放つ、日本がもっている「感じ」は、外国の良いものを受け入れる、言い換えると他人の良いところを進んで取り入れるという、日本の「良いとこ取り」精神が今の雰囲気をつくり出したと思う。

おそらく私の最初の海外旅行が日本だったので、鮮明なイメージを刻み込んだのだと思う。私は今年の 2 月末から 3 月初めにかけて、友達といっしょに日本に旅行に行って来た。初めての海外旅行なので心配もたくさんあったが、憧れる国へ初めて旅行に行くということが私には大きな幸せだった。そして、友達と私は「福岡」と「長崎」に行った。日本に足を踏み入れた瞬間から日本を後にする瞬間までの経験は、まさに何事にも比べることのできないものだった。特に、旅行中最も印象深かった点を 2 つほど挙げるとすれば、第一には日本人の親切さだ。旅行の第 1 日目、私たちは泊まるゲストハウスに行き着くのに苦労し、周りの日本人に何度も道をたずねた。見知らぬ私たち外国人に対する人々の態度は、韓国と随分ちがっていた。道を聞かれても知らないと言って通り過ぎてしまうのが韓国人ならば、知らない場所でもいっしょに探そうとする細やかな親切さを持っているのが日本人だった。中には携帯電話を取り出して住所を検索してくれる人もいた。多くの人びとのおかげで宿にたどり着くことができた。あれから随分経った今でも、見知らぬ外国人の質問に親切に答えてくれた多くの人びとのことは忘れられないし、そうした親切心を根付かせた日本という国に

も尊敬の念を持っている。

印象深かった第二には、日本の風呂文化だった。福岡旅行の時はゲストハウスに泊まったが、長崎旅行の時はいっしょに行った友達の知り合いの日本人の家に泊まった。日本人の家を訪問したのは初めてだったが、記憶に残ることと言えば「お風呂」だった。そして、そこで初めて知ったのが日本の「お風呂」と韓国の「お風呂」とは違うということだった。韓国の「お風呂」は汚れた体を洗いに行くという意味なのだが、日本の「お風呂」は温かい湯につかるということであって軽いイメージを受ける。単純に思える「このお風呂」にも規則がある。まず浴槽に入る前に石鹸で体を洗ってから入らなければならず、一人が入った浴槽のお湯は捨てないで、家族全員が順に入るということ。そして日本の浴槽は韓国のように単なる浴槽ではなく、お湯の温度が下ると自動的に温度を上げるシステムも備わっていて、上で触れた「良いとこ取り」の一つではないかと思った。

私が行ってきた日本は、この２つの他にも多くの長所があり、そのことについて知れば知るほど、さらに多くの魅力に引き込まれるだろう。そして日本はこれからも多くの「良いとこ」をつくり出すであろうと思いながら旅行を終えた。

「そこ(日本)」に対する私の好奇心は、この旅行のおかげで冷めることのない情熱へと変わった。この旅行はとても大切な思い出となり、日本という国もとても魅力的な国となった。そして、私は日本人と韓国人が同じ場所に並んで立ったとき、何の気兼ねもない日が遠からず来るだろうと心から信じている。

一つの偶然が私を変えた

安養女子高等学校　2年　李河善

「私が感じた日本」というテーマで作文を書くことになり良かったと思いました。

「私が知っている日本」というテーマで作文を書くには私は日本に行った経験もなく、これまで会った日本人も特にいないからです。ですが、私が感じた日本というテーマで自信を持って作文を書けるのは、ある一人の日本人との出会いを通してです。幼いとき、両親が日本への出張が多かったおかげで私は間接的にですが、日本について知っていました。ですが、幼かったため日本が国であることも知りませんでした。ですが、私が日本をほんとうにわかるようになったのは日本に本社を置くある会社のためでした。その会社は私が好きなフィギュア(人形)を売る会社で、フィギュアそのものは高いので、小学生だった私にとって買うことは夢のまた夢でした。それで、ソウルにあるその会社のお店によく行ったものです。

そんなある日、小さなもの一つも買うことのできない私に温かく接してくれた人がいました。その売り場で働いていた日本人のお姉さんです。そのお姉さんはフィギュアを買うことのできない私がそのお店に行くたびに、単なるお客さんと見るのではなく、隣の家の子供に対するように接してくれました。新しい商品が入って来たときは、私に教えてくれ、時々自分が日本で住んでいる町の話もしてくれました。実は私にはその当時日本の人への偏見がありました。日本の人は絶対に自分の本心を見せない、というものでした。私は知っている日本の人もいなかったので、ただ本で読んでの日本経験として、本に書かれているそうした言葉をそのまま受けいれて、そんな偏見ができてしまったのです。ですが、そのお姉さんはそうした私の偏見を知っているかのように、私に対し何のこだわりなく接してくれ、本を通して知った日本についての話ではなく、韓国という国と同じ国としての日本について話してくれました。

そのお姉さんと話をしていて私は日本の人への偏見がなくなっただけでなく、お姉さんからのアドバイスを聞いて、日本と関連する夢を抱くようになりました。それは、フィギュアを通じて韓国と日本を往来するフィギア創作学科の教授になることです。お姉さんは同じ趣味をもつ人として私が知らないフィギュアに関することを教えてくれ、親しいお姉さんとして私が憂鬱で揺らいでいる時には慰めてくれました。そうして私はただなんとなく過ごしてしまうこともある小学生の頃を頼れる日本人のお姉さんと過ごすことで私の幼い夢を育むことができました。そしてそのお姉さんが日本に帰った後も、私はこうやってその夢を育み、今も努力しています。もう私の横には勇

気を奮い起こしてくれる「お姉さん」はいませんが、そのお姉さんとの思い出を思い返しながら、これからも私の夢に向かって進んでいきます。

私が感じた日本…日本に行ったこともない十八歳の女子高生ですが、その日本人のお姉さんとの経験を通して私の心の中で、日本の人と日本はもはや忌まわしいものではありません。そしてこれから近い国である日本と韓国がいっそう交流を進め、一緒に二十一世紀に飛翔する、より近い国になれたらうれしいです。また過去の痛みを忘れ、互いを理解し韓国の人と日本の人がこだわりなくいっしょになって笑えるそんな日が来ることを願っています。近いけど遠い日本と韓国…その間には、お互い踏みしめている大地の名だけが異なるだけで、同じ人間として私が経験したあの日本人の「お姉さん」とのような経験がもっとたくさんあることを大韓民国で育つ夢を抱く一人の高校生として願っています。

責任あるコミュニケーションに基づいた交流の継続強化

京畿外国語高等学校　2年　張普景

「交流」ということばを辞書で引いてみると、「根源が異なる流れが交わって流れること」または「文化や思想などが往来すること」と書かれている。お互いを結びつけるチャンネルを多様化し、結ばれたチャンネルを嘘偽りのない真心を持って維持すれば、本当の意味での交流が可能だ。しかし、現在の韓日間の交流にはどこか不自然さを感じる。特に、韓国と日本のように、過去の歴史についてお互いによくない記憶を持っている場合には、お互いを結びつけることがうまくいかず、これから新しく関係を築こうとする国との関係よりも、もっと難しいかもしれない。このような理由で多くの人びとは、韓国と日本の関係を「近くて遠い国」だと言う。地理的なことだけでなく、政治的、社会文化的に近い国になるためにはどうしたらよいか。すでに私たちは解決法を知っている。お互いのコミュニケーションと理解を通じ信頼を回復して好循環のきっかけがつかめれば、両国間の関係はよい方向に進んでいくだろう。しかし、実際にいろいろな試みや多くの努力がなされているにもかかわらず、期待以上の効果が現れないのはなぜだろうか。現在、両国間のコミュニケーションのあり方や交流の特徴を見ると、その理由がわかる。

現在の韓日間の交流を量的な面から見ると、ほかの国に比べて交流の幅が狭いわけでも、数的に少ないわけでもないようだ。しかし、質的な面で交流に悪影響を与える点があるようだ。まず、責任ある双方向のコミュニケーションが減ってきており、外部の要因によって真心のこもった交流と、その継続性が脅かされている。

まず、「責任ある双方向のコミュニケーションの減少」について話したいと思う。今はインターネット時代を超えてSNS時代になり、とても簡単に不特定多数の人に自分の考えを伝えることができる時代だ。無分別だと言うことができるぐらい、以前よりもずっと簡単に自分の考えをほかの人に伝えることができるようになったが、相手を理解する機会は減って、自分の考えを伝える機能だけが発達している。個人的によく知らない人との対話は、まるで一方にだけマイクがあってもう一方にはスピーカーしかない、ガラス板を間に置いて一方的に叫んでいるのと同じだ。このようなコミュニケーションの仕方はプラスの効果ではなくもマイナスの効果が現れやすく、コミュニケーションの結果がどのように現れるか予測するのが難しい。すでに内面に傷を負っている相手に、さらに大きな傷を負わせる可能性もある。論争が感情的な喧嘩に発展しやすく、一部分だけを抜き出した内容が無差別に伝えられ、誤解を増幅させる

役割をする。全体的に見ると、以前に比べコミュニケーションの規模は大幅に膨らんだが、責任と真心を持ったコミュニケーションは相対的に減ってきている。コミュニケーションの増加よりも相互間の信頼を確保するということがもっとも大切だが、そのためには責任あるコミュニケーションを増やすことが重要だ。

次に「交流の継続性が脅かされている」という問題は、コミュニケーションの方法以上に深刻な問題だ。それぞれ異なる背景を持った者同士が交流を始め、相互の信頼関係を深めようとするなら、コミュニケーションの継続性を確保することがとても重要だということは言うまでもない。しかし、韓日関係を振り返ると、両国の交流が盛んになったかと思うと、急に断絶してしまうケースがよく見られる。国家間にデリケートな問題が生じると、いとも簡単にいろんな関係が絶たれてしまう。私は小学校5年生のときからYWCAで日本語を学び始め、韓日学生交流プログラムに3年間参加してきた。このプログラムを通じて日本を理解する機会を持つようになり、日本を訪問して日本人と友達になり、また日本の友達が韓国を訪問したりもした。しかし、あるとき急にプログラムが中止になったことがあった。両国間の領土問題が大きくなり、国民感情が良くないという理由でプログラムを支援する政府機関は、予算をカットし、その結果プログラムは中止になった。私が一番残念に思ったのは、そうした良くない状況であればあるほど、逆に肯定的な交流を増やさなければならないのに、交流を中断したということだ。何かが起きるたびに、それが収まるまで待たなければならないという受け身の姿勢は、これから進もうとする歩みを後退させ消耗させる。交流を始めるのは大変で重要だが、それよりも続けることの方がもっと重要だ。

国家間の関係においては自国の利益を優先するため、状況によっては仲が悪くなることもあり、また良くなることもある。関係が悪くなったときでも、両国の関係を修復するのは相互信頼であり、その信頼は普通の平凡な人たちの間の交流から始まると私は信じている。このようなチャンネルを一つ一つ増やしながら、信頼を深めなければならない。しかし、これから私たちが大切にして実践していかなければならないことは、「責任あるコミュニケーションの確保」と「交流の継続性の確保」というふたつのことだろう。私たちは自分の言動に対する責任ある態度、真心を伝えるコミュニケーションの仕方を養い、また広めていかなければならない。もう一方で、すでに行われている交流の継続を維持し、外部の要因によって左右されないように制度を強化しなければならない。何かあるとすぐに止まってしまうような交流のパターンから抜け出さなければならない。真心と継続性が保証される場合にのみ、「コミュニケーションと理解を通じた相互信頼の構築」という好循環の仕組みは確立される。

한일교류에 대한 나의 생각

目 次

서 문 ····· 55

한일 교류에 대한 나의 생각 사이타마현 와라비시립 다이이치 중학교 3 학년
아베 아야카 ····· 56

한일 교류에 대한 나의 생각 사이타마현 와라비시립 다이이치 중학교 2 학년
안예송 ····· 58

내가 느낀 한국 도치기현 우츠노미야시립 요호쿠 중학교 2 학년
사카이 주주 ····· 60

한일 교류에 대한 나의 생각 도치기현 닛코시립 토요오카 중학교 3 학년
스도 리호 ····· 62

한일 교류에 대한 나의 생각 후쿠시마현 이와키시립 타이라다이니 중학교 3 학년
네모토 나오야 ····· 64

내가 느낀 한국 도치기현 우츠노미야시립 요호쿠 중학교 2 학년
모치하라 미쿠 ····· 66

한일 교류에 대한 나의 생각 에히메현립 니하마 공업 고등학교 2 학년
이토 슌 ····· 68

내가 느낀 한국 간다여학원 고등학교 2 학년 다카하시 미유 ····· 70

한일 교류에 대한 나의 생각 후쿠시마 공업 고등 전문학교 2 학년
다테노 스즈 ····· 72

한일 교류에 대한 나의 생각 간다여학원 고등학교 1 학년 도무로 카나코 ····· 74

한일 교류에 대한 나의 생각 나가노현 호타카 상업 고등학교 2 학년
무토 소헤이 ····· 76

한일 교류에 대한 나의 생각 도립 고등학교 2 학년 A. H ····· 78

언제나 느끼고 있는 나라, 일본 광무여자 중학교 3 학년 강윤정 ····· 80

내가 느낀 일본 진관 중학교 3 학년 김나윤 ····· 82

한일교류에 대한 나의 생각 진관 중학교 3 학년 김연주 ····· 85

한일교류, 필요하다 부산선화여자 중학교 2 학년 김인덕 ····· 88

한일 문화 교류의 대한 생각 탐라 중학교 2 학년 김혜은 ····· 90

내가 느낀 일본 시흥은행 중학교 3 학년 예지희 ····· 92

지피지기 백전백승?, 지기지피 백전백승! -가깝고도 먼 그 곳, 내가 느낀 일본-
부산선화여자 중학교 3 학년 오상지 ····· 94

문화교류를 즐기는 우리들의 자세
진관 중학교 3 학년 이현웅 ····· 96

작은 것으로부터 시작되는 한일교류
미추홀외국어 고등학교 2 학년 김효진 ····· 98

내가 느낀 일본 보평 고등학교 2 학년 방윤지 ····· 100

한일교류에 대한 나의 생각 한국외국어대학교부속 용인외국어 고등학교 1 학년
백하원 ····· 102

해가 뜨는 나라 경남 고등학교 2 학년 왕인서 ····· 104

하나의 우연이 나를 만들어주었다
안양여자 고등학교 2 학년 이하선 ····· 106

책임감 있는 소통을 기반으로 한 교류의 지속성 강화
경기외국어 고등학교 2 학년 장보경 ····· 108

附 錄
개요, 연수 일정, 기록 사진 ····· 110

서 문

일한문화교류기금은 1983 년 12 월 15 일에 설립된 이래 30 년 동안 한국과의 사이에 각종 청소년 교류, 학술교류사업을 실시해 왔습니다. 양국의 중고생, 대학생, 교사가 상대국가에서 학교방문과 홈스테이를 하는 연수단, 양국의 문화와 역사 등에 관한 학술회의, 양국간 민간 교류 지원 등 다채로운 교류사업을 실시해 왔습니다. 이러한 교류에 참가한 청소년의 인원 수만으로도 약 3 만 명에 달합니다.

지난해 창립 30 주년을 기념해 일본과 한국의 중고생을 대상으로 한 글짓기 대회를 개최했습니다. 이에 최우수상을 수상한 학생들의 작품을 모아 간행하게 되었습니다.

이번 글짓기 대회는 '내가 느낀 한국(일본)'과 '한일교류에 대한 나의 생각' 중 한가지를 테마로 정해 양국의 205 명의 학생으로부터 응모를 받았습니다. 응모 작품에는 모두 자신의 경험을 바탕으로 상대국에 대한 생각과 향후의 한일관계에 대해 솔직하고 전향적인 의견이 담겨 있습니다.

한국과 일본 사이에는 때로 정치외교적으로 어려운 상황이 생기는 경우도 있으나, 이 작품집이 기성세대에 대한 잠언으로서, 또 함께 미래를 짊어질 동세대 젊은이들에 보내는 메시지로서 널리 읽히기를 바랍니다. 아울러 시대의 기록으로서 후세에게도 전승되기를 기대합니다.

2014 년 3 월

공익재단법인 일한문화교류기금

이사장　오노 마사아키(小野　正昭)

한일 교류에 대한 나의 생각

사이타마현 와라비시립 다이이치 중학교 3 학년 아베 아야카

저는 최근에 어머니를 계기로 한일교류에 흥미를 가지게 되었습니다. 어머니의 친구들 중에는 한국 분들이 많고, 요즈음 친구들에게 배우신 한국요리가 식탁에 올라, '한국은 의외로 가까운 곳에 있구나'하고 생각하였습니다. 어머니께서 보시는 TV 프로그램도 한국 드라마가 많고, 일본에서도 한국의 프로그램이 일상적으로 방송되고 있다는 것은, 한국과 일본이 우호적으로 교류하고 있다는 것이구나하고 느끼게 되었습니다.

올해 처음으로 같은 반이 된 친구가 있습니다. 최근에 그 친구의 부모님이 한국인이라는 것을 알게 되었습니다. 그 친구는 일본에서 태어났는데, 얼마 전 국어 시간에서 한 발표에서 "일본, 한국 두 나라 모두 아주 좋아합니다"라고 말하였습니다. 저도 일본이 좋습니다. 일본만큼 좋아하는 나라가 어떠한 곳인지, 한번이라도 보고 싶다고 생각했습니다.

제가 유치원에 다녔을 때에도 부모님이 한국 분인 친구가 있었고, 지금 생각해보니 한국은 아주 가까운 나라라는 생각이 들었습니다.

제가 살고 있는 곳은 와라비시입니다. 와라비시에는 외국 국적을 가진 사람들이 많이 살고 있습니다. 그리고 와라비시에서 일하고 있는 외국인이 많아서 외국인에 대한 편견도 적습니다. 실제로 같은 학년에도 외국인이나 부모님이 외국인이신 친구들도 많습니다. 특히 제 주변에는 한국 사람들이 많이 있습니다.

슬픈 이야기이지만, 일본은 약 70 년 전에 한국을 병합하여 식민지로 삼았습니다. 당시에는 일본인과 동화시키기 위해서 한국어가 아닌 일본어로 수업하는 등, 한국인들에게 매우 쓰라린 경험을 겪게 하였습니다. 옛날 일처럼 생각되지만, 불과 70 년 전에 이러한 일이 일어났던 것입니다. 당시 일본이 한국의 문화를 이해하지 않았던 것도 원인이라고 생각합니다. 한국인들이 차별 받았다는 이야기를 들은 적도 있어서 매우 가슴이 아팠습니다.

그러나 지금은 어떻습니까? 한국인이라고 해서 안 된다거나, 이것은 해서는 안 된다는 언쟁은 서로 하지 않습니다. 이는 서로 상대 나라의 문화를 이해하고 있기 때문이 아닐까요? 사회수업시간에 일본은 다양한 국가의 사람들과 공존하는 '다문화 공생사회'라고 배웠습니다. 일본인은 한국의 문화를, 한국인은 일본의 문화를 서로 이해하고 존중할 때, 공생사회가 성립하는 것이 아닐까요? 가치관의 차이 등도 있지만, 한국과 일본의 문화를 잘 들여다 보면 몇 가지 공통점이

있다는 것을 알 수 있습니다. 예를 들어, 한국에서는 '어른들에게 경의를 표시한다'라고 하는 문화가 있다는 것을 들었습니다. 이러한 문화는 일본에서도 볼 수 있습니다. 그 외에도 일본은 대나무, 한국은 금속으로 만들어졌지만, 한일 양국 모두 식사할 때 젓가락을 사용합니다. 일본은 기모노, 한국은 한복이라는 전통의상이 있지만, 겉보기에는 왠지 모르게 닮은 것 같이 보입니다. 어쩌면 한국과 일본이 교류 하는 가운데 자라온 것인지도 모릅니다.

한일교류는 한국의 문화를 알고 이해하는 하나의 수단이라고 생각합니다. 앞으로도 더욱더 활발해질 것입니다. 이러한 가운데 서로의 국가를 이해하려면, 우선 그 국가를 관찰하는 것, 그 국가의 좋은 점을 발견하는 것이 중요할 것이라고 생각합니다. 교류란, 이 두 가지 일을 하기 위해 있다고 생각합니다. 교류가 있다고 생각합니다. 저에게 있어서 친근하게 느껴지는 한국을 빠른 시일 내에 꼭 직접 보고 싶습니다.

한일 교류에 대한 나의 생각

사이타마현 와라비시립 다이이치 중학교 2 학년 안예송

저는 언제까지나 한일간의 관계를 잘 유지하기 바라는 관점에서 한일 교류에 대해서 생각하고 있습니다. 일본과 한국은 이웃나라로 과거부터 교류가 지속되어왔습니다. 야요이 시대의 도래인, 에도 시대의 조선통신사 등 다양한 형태로 교류해왔습니다.

현재는 관광이나, 스타와 아이돌을 통한 교류가 많습니다. 케이팝 가수들이나 한류 드라마의 배우들이 TV 에 출연하고 있고, 제가 공부하고 있는 지리 교과서에 한국에 대해서 정리되어 있는 등 이러한 점에서도 한국이 가깝게 느껴집니다.

한일 양국 관계는 아무리 떼어 놓으려고 해도 뗄 수 없는 관계입니다. 그렇지만 지금은 좋은 관계라고는 생각되지 않습니다. 영토문제를 둘러싼 양국의 관계는 조금 나쁜 방향으로 나아가고 있습니다. 텔레비전이나 신문에서 다루어지고 있는 화제를 보면 조금 슬퍼집니다. 조그마한 섬 하나로 영토의 크기가 변한다고 한다면 양보할 수 없다고 생각합니다. 그렇지만 서로 대화로 풀어 나가면서, 다른 부분에까지 영향이 미치지 않았으면 하고 바랍니다.

저는 일본에 살고 있는 한국인으로서 복잡한 심경입니다. 한국은 저의 조국이고 친척들이 있는 곳입니다. 일본은 제가 태어나서 자란 곳입니다. 서로 싫어하는 것은 바람직하지 않고, 사이가 좋아지기를 바라고 있습니다.

사이 좋게 지내기 위해서는 서로의 문화･언어･사고방식의 차이를 이해하는 것이 중요하다고 생각합니다. 선조들도 그렇게 해 오지 않았습니까? 벼농사만 해도 도래인과 교류하며 배웠던 것이 지금까지 계속되어 오고 있지 않습니까?

따라서 나는 한일교류에 대해서 대찬성입니다. 서로를 알려면 교류가 중요합니다. 실제로 만나 자신들과의 다른 점을 느끼면서 교류한다면, 상대를 더 알고 싶다고 생각하게 될 것입니다.

지금까지 서로를 잘 알지 못하는 사람들이 ‘헤이트 스피치’나 ‘반일운동’을 해왔습니다. 그렇지만 우리 청소년들에게는 그러한 행동을 하려는 마음을 심어주지 않았으면 합니다. 앞으로 성장하여 미래를 향해서 나아가야 하는데 서로 미워하는 것은 좋지 않습니다. 우리에게는 양국을 좋은 관계로 해 나가야 할 사명이 있습니다. 지금은 교류할 기회가 많지 않지만, 커가면서 다양한 기회를 통해서 교류해 나갈 것입니다. ‘인종’이라는 벽을 넘어서, 국경을 넘어서 서로가

절차탁마하여 나아가는 관계가 되기를 바랍니다.

앞에서 제가 한국인이라고 썼지만, 일본의 공립중학교에 다니고 있습니다. 주위에는 거의 모두 일본인이지만 즐겁게 지내고 있습니다. 학교에 함께 가는 것도 일본 친구, 놀 때도 일본 친구입니다. 모두들 제가 일본인이 아니라는 것을 알고 있지만, 모두와 똑같이 대해주고 있는 것이 기쁩니다. 모르는 것이 있으면 묻고, 서로 가르쳐 주면서 학교생활을 즐겁게 하고 있습니다. 이것 역시 한일교류의 하나라고 생각합니다. 같은 세대와 교류하는 것은 굉장히 즐겁습니다. 저는 세계의 사람들과 교류하고 싶습니다.

그 전에 매일 '한일교류'를 즐기면서 생활하고 싶습니다.

내가 느낀 한국

도치기현 우츠노미야시립 요호쿠 중학교 2 학년 사카이 주주

제가 다니는 학교에서 한국 학생들과의 교류가 있었습니다. 그 전까지 제가 가지고 있었던 한국에 대한 인상은 희미하였습니다. 그렇지만 이번 교류회를 통해서 아주 가깝게 느끼게 되었습니다. 먼저 음악 수업에 함께 참가하였습니다. 한국 학생들이 영어로 발표하는 것을 들으면서, '영어란 대단한 것이구나'라고 생각했습니다. 영어는 세계 모든 사람들과 연결될 수 있는 중요한 수단이라고 생각했습니다. 음악에서 느낀 점은 한국 학생들도 우리들과 똑같았습니다. 이 음악 수업은 매우 좋은 공부가 되었습니다.

3 교시에는 밖에서 교류가 있었습니다. 종목은 훌라후프 통과하기와 줄넘기였습니다. 훌라후프 통과하기 게임을 할 때, 반 전체 학생들이 한국 학생들과 손을 잡아 하나가 된 기분이었습니다. 저는 빠져나가는 것이 힘들었지만, 한국 학생들은 순조롭게 통과하였습니다. 몸이 매우 유연하였습니다. 줄넘기는 모두가 열심히 노력했습니다. 한국 학생들은 줄에 걸렸을 때 '고멘나사이'라고 몇 번이고 사과했는데, 일본어를 할 수 있는 것에 깜짝 놀랐습니다. 한국 학생들과 함께 했던 줄넘기는 매우 즐거웠습니다.

마지막으로 체육관에 모였습니다. 요호쿠 중학교 학생들은 '요사코이 소란'과 '유도' 등을 보여 주었고 한국 학생들은 진지하게 보았습니다. 일본의 전통예능이 더욱 널리 퍼지면 좋겠다고 생각합니다. 한국 학생들은 '춤'과 '노래', '태권도'를 보여주었습니다. 춤과 노래는 일본에는 없는 독특한 것이어서 신선하였습니다. 좀 더 다양한 한국의 전통노래를 듣고 싶었습니다. 처음으로 태권도를 보았는데 아주 멋있었습니다. 나무 판자를 격파할 때 나는 소리가 기분이 좋았습니다.

헤어질 때에는 아쉬웠습니다. 겨우 하루라는 짧은 시간이었지만 매우 좋은 추억이 되었습니다. 저는 이 교류를 통해서 한국을 좀 더 알고 싶다고 생각했습니다. 그리고 좀더 이러한 교류가 많아졌으면 합니다.

저는 지금까지 한국에 별로 흥미가 없었습니다. 그런데 잘 생각해보면 피겨스케이트 선수 김연아, 배구 선수 김연경, 한국 드라마 '겨울 연가', '김치', '카라'와 '동방신기' 등 모르는 사이에 한국과 접하고 있었다는 것을 깨달았습니다. 앞으로는 한국의 좋은 점을 좀더 많이 알고 싶습니다.

저는 뉴스에서 '한일문제'라는 말을 들었습니다. 어른들의 정치문제에 대해서는 잘 알지 못하지만, 빨리 해결되었으면 하고 생각합니다. 그리고 한층 더 한국과의

교류관계가 깊어졌으면 좋겠습니다. 저는 '말은 통하지 않지만 마음은 통한다'는 말을 들은 적이 있습니다. 이 말과 같이 마음이 서로 통했으면 좋겠습니다. 저는 일본인 모두가 한국을 더욱 가깝게 느끼고 사이 좋게 지내고 싶다고 생각해 주었으면 하고 바랍니다.

한일 교류에 대한 나의 생각

도치기현 닛코시립 토요오카 중학교 3 학년　스도 리호

올해, 제가 다니고 있는 토요오카 중학교에서 한국 중학생 들을 맞이하여 교류회가 열렸습니다.

다른 나라 중학생과의 교류는 저 뿐만이 아니라 거의 모든 학생들에게 처음이었기 때문에, 한국어를 배우고, 웰컴 보드를 작성하는 등 교류회가 열리는 날을 기다렸습니다.

교류회 당일은 영어를 중심으로 한국어와 일본어를 섞어가면서 의사소통하기 위해 노력하였습니다. 곧 여기저기에서 “안녕하세요” “잘 지내세요?”라는 인사를 주고 받았고, 저도 적극적으로 참여하였습니다. 처음에는 말이 잘 나오지 않아 답답함도 느꼈지만, 서서히 편안하게 대할 수 있게 되었습니다. 외국인과 교류할 때에는 시선을 맞추거나, 손짓을 사용하는 것이 중요하다고 들었는데, 이번 교류회를 통해서 실감할 수 있어서 매우 소중한 경험이 되었습니다.

같은 반 다른 친구들은 습자와 유도 체험을 하였습니다. 시간이 지나면서 서로 어색함이 사라져 자연스럽게 대할 수 있게 되었습니다. 점심 시간에 피구를 할 때에는 일본과 한국이라는 차이를 별로 느끼지 못하였고 즐겁게 지낼 수 있었습니다.

전체 교류회 시간에는 일본의 전통문화로 ‘소란부시’와 ‘검도’를 소개하였습니다. 연기를 보고 있는 한국 중학생들의 진지한 눈빛과 연기가 끝난 후의 커다란 박수소리와 환호는 지금도 잊을 수 없습니다.

한국 중학생들이 보여주었던 춤은 우리들의 기대 이상으로 훌륭했습니다. 또한 모두 손을 잡고, 일본 중학생이라면 누구라도 알고 있는 ‘경단 삼형제’라는 노래를 불러 준 것이 인상에 강하게 남았습니다.

이번 교류회에서는 언어와 문화의 차이 등을 느꼈던 한편, 우리들과 같은 부분도 많다는 것을 깨달았습니다.

텔레비전에서는 매일같이 한국 가요와 드라마가 나오고 있고, 신문과 미디어 등에서도 마찬가지로 한일 문제가 보도되고 있습니다. 이러한 한일 간의 문제에 대해서는 자세히 알지 못하지만, 역사적, 정치적인 배경이나 문화의 차이로 인해 해결하기 곤란한 부분이 많다고 들었습니다. 타케시마(독도)를 둘러싼 영토문제, 일본의 사회교과서 내용 등 중학생인 저에게는 이해할 수 없는 내용이지만, 자주 듣는 말입니다.

또한 런던 올림픽에서 한국선수의 메시지, WBC 에서 한국선수들의 항의 등, 본래 평화의 상징인 스포츠 대회에서 문제가 발생한 것은 슬픈 일입니다. 이번 교류회에서는 그러한 '한일문제'를 느끼지 못했지만, 한국을 바로 알기 위해서라도 한국의 전통과 문화에 대해서 알아보고 싶다고 생각했습니다. 가장 가까운 이웃나라와 사이가 좋지 않다는 것은 큰 문제입니다.

한국을 비롯한 다른 국가들과도 지금보다 더 협력하여 우호관계를 구축해 나가는 것이 우리 세대의 역할입니다. 중학생만이 아니라 초등학생, 고등학생, 대학생, 사회인 등도 자진해서 교류하는 기회를 늘리고, 서로의 전통과 문화를 이해하는 것이 중요하다고 생각합니다.

저 자신도 외국인과 적극적으로 교류할 수 있도록 영어 공부에 힘을 기울이는 것이 그 첫 걸음이 되지 않을까 하고 느꼈습니다.

영어 공부를 열심히 하는 것이 외국인과 적극적으로 교류할 수 있는 첫 걸음이 되지 않을까 하고 생각하였습니다.

이번 한국 중학생들과의 교류회는 국제이해에 대해서 깊이 생각할 계긱를 준 좋은 기회였습니다.

한일 교류에 대한 나의 생각

후쿠시마현 이와키시립 타이라다이니 중학교 3 학년　네모토 나오야

저는 올해 9 월, 일한문화교류기금주최 JENESYS 2.0 후쿠시마 이와키시 방한연수단의 일원으로 한국 연수에 참가하였습니다. 이 경험을 바탕으로 한일교류에 대해서 생각한 점을 쓰려고 합니다.

일본과 한국이라고 하면, 뉴스 등에서 자주 들었던 영토문제 등을 사례로 서로 좋은 인상을 가지고 있지 않은 사람이 많을지도 모릅니다. 실제로 저도 이번 한국 연수에 참가하기 전에는 마음 한 구석에 한국에 대한 편견을 가지고 있었습니다.

그러나 방한 5 일째였습니다. 그 날 한국의 동마중학교를 방문하여 한국의 중학생들과 함께 수업을 듣고, 운동하면서 땀을 흘렸습니다. 언어의 장벽이 있었지만, 간단한 영어와 손짓 발짓을 하면서 의사소통을 할 수 있게 되어 매우 즐거운 하루를 보낼 수 있었습니다. 제가 가장 놀랐던 것은 한국의 중학생들이 아주 친절하고 적극적으로 말을 걸어왔다는 것입니다. 이는 일반의 생각과는 관계없이 한 사람으로써 서로를 인정하는 자세였습니다.

그 외에도 한국의 전통문화 체험, 역사적인 건물의 견학 등, 한국에 대해서 깊이 알 수 있게 된 좋은 기회였습니다.

이렇게 한국 방문의 체험을 통해서 한국에 대한 인상이 좋은 방향으로 변화하였습니다. 지금도 그 때 알게 된 친구들과 계속 교류하고 있습니다. 오늘날 국제사회는 글로벌화가 진행되고 있습니다. 만약 국가들이 어떠한 관계도 맺지 않는 쇄국적인 생각을 가지고 있다면, 분명히 분쟁이나 문제는 하나도 발생하지 않을 것입니다. 그러나 국가들이 함께 발전해 나가기 위해서, 그리고 영구적인 목표인 평화를 위해서 협력해 나가는 것은 필요 불가결합니다. 일본과 한국의 사례에서도 나타나듯이, 이웃 국가로서 협력하여 앞으로 국제사회를 주도해 나가야 할 입장이면서도 이렇게 문제가 끊이지 않습니다. 그 이전에 안 좋은 이미지가 심어져 있는 것이 현 상황입니다. 저는 첫 번째로 서로를 인정하는 것이 중요하다고 생각합니다. 이렇게 국제사회의 관계에서 생각할 때, 가까운 예로 평상시의 인간관계를 들 수 있습니다. 사람과의 교제는 상대를 알고, 상대의 좋은 점뿐만 아니라, 나쁜 점도 인정하고, 마음을 열어 받아들이는 것부터 시작됩니다. 이 연장선상에 국제사회가 있습니다.

저의 장래희망은 UN 산하 교육관계 기관에서 일하면서 세계의 아이들이 교육을 받을 수 있는 환경을 만드는 것입니다. 그리고 한국 연수에서 배운 '오픈

마인드'의 중요성을 보다 많은 사람들에게 전하고 싶습니다. 제가 이번 한국 방문을 통해서 한국을 깊이 알 수 있게 되었던 것과 같이 보다 많은 사람들, 특히 젊은 세대부터 이러한 체험을 해야 한다고 생각합니다. 이렇게 성장한 사람이 사회를 만들어 갈 때, 진정한 교류가 생길 것입니다. 그리고 같은 지구인으로서 진정한 국제사회를 구축해 나갈 수 있다는 것을 믿고 있습니다.

내가 느낀 한국

도치기현 우츠노미야시립 요호쿠 중학교 2 학년 모치하라 미쿠

우리 학교에 한국인이 온다고 들었을 때, 솔직히 '싫다'고 생각했습니다. 평소 텔레비전에서 보았던 대로 한국은 일본과 사이가 별로 좋지 않다는 이미지가 있었습니다. 그리고 한국인은 이기적이고, 부자나 지위가 높은 사람은 아주 행복한 생활을 하고 있는 반면, 가난하거나 지위가 낮은 사람은 생활이 어려워 먹고 사는 일 조차 힘들다고 생각하였습니다. 이렇게 격차가 벌어지고 있음에도 불구하고 국민들끼리 사이가 좋지 않고, 서로 돕고 협력하거나 노력하는 면도 별로 보이지 않았기 때문입니다. 그래서 저는 한국인과 관련되고 싶지 않다고 생각하였습니다.

그런데 실제로는 완전히 달랐습니다. 그 날 저는 친구들과 한국 학생들이 오는 것을 창문에서 보았습니다. 학교로 들어오던 한국 학생들이 밖에서 우리들을 발견하고 웃는 얼굴로 손을 흔들어 주었습니다. 한국 학생들의 웃는 얼굴은 빛나고 있었고, 우리들과 만나는 것을 기대하며 오고 있다는 것을 잘 알 수 있었습니다. 그 때 저는 친구와 '한국인은 사교적이구나'라고 친구와 이야기하였습니다.

대면식에서 우리 반에 온 학생들과 만날 수 있었습니다. 이 때에도 한국 학생들은 웃는 얼굴이었습니다.

대면식이 끝나고 함께 음악수업에 참가하였습니다. 우리들이 교가를 부를 때, 매우 흥미롭게 듣고 있는 것 같았습니다. 음악 감상 후, 자기의 감상 소감을 발표할 때, 한국 학생들이 능숙한 영어로 말하는 모습을 보면서 '나라가 달라도 음악으로 느끼는 것은 똑같구나'하고 생각하였습니다.

음악 수업이 끝나고, 이번에는 밖에서 줄넘기와 훌라후프 통과하기를 하였습니다. 줄넘기는 반 대항으로 하였습니다. 처음에는 '한국 학생들은 줄넘기를 해 본 적이 있을까? 할 수 있을까?'하고 의심스러웠지만, 막상 해보니 생각했던 것보다 잘했습니다. 게다가 실패해서 멈췄을 때에는 '스미마셍'이라고 일본어로 말해서 예의가 바르다고 생각하였습니다.

훌라후프 통과하기는 반 전원이 원을 만들어 손을 잡고 훌라후프를 넘겨가면서 빠져나가는 게임입니다. 한국 학생들은 우리들보다 훨씬 키가 컸기 때문에 잘 할 수 있을지 불안하였지만, 해 보니 우리들보다 빨라서 처음 하는 것이라고는 생각할 수 없을 정도였습니다.

밖에서 놀고 난 후, 한일 각 국의 전통적인 스포츠와 현대적인 댄스를 소개하고, 한국의 국가인 '애국가'를 합창하는 등 문화교류를 하였습니다. 우리들은 검도와 유도를, 한국 학생들은 댄스와 국가 합창을 하였습니다. 한국 아이돌의 노래에 맞춰서 춘 댄스는 아주 귀여웠습니다. 한국의 국가는 처음 들었는데 일체감이 느껴져서 일본 국가와는 또 다른 분위기였습니다.

이렇게 하루가 끝나고, 이별의 시간이 되었습니다. 아침에 한국 학생들이 왔을 때처럼 친구들과 창문에서 돌아가는 모습을 보았습니다. 눈물을 흘리는 학생들, 하루 동안 아주 즐거웠다고 말하는 듯이 웃는 얼굴로 손을 흔드는 학생들도 있어서, 표정만으로도 무엇인가를 말하고 있는지 알 수 있을 것 같았습니다.

이번의 한일교류로 평소에 알 수 없었던 한국을 알게 되었습니다. 그리고 한국인에 대한 인상이 하루 만에 바뀌었습니다. 실제로 만났던 한국인들은 상대를 배려하고, 예의 바르고 웃는 얼굴이 예뻤습니다. 언제나 TV 에서 보았던 한국인과는 완전히 달랐습니다.

저는 일본과 한국의 사이가 별로 좋지 않은 것은 어른들뿐이고, 아이들은 국적과 언어가 달라도 사이 좋게 지낼 수 있다는 것을 실감하였습니다. 장래에 어른이 되면 이웃나라끼리 사이 좋고 즐거운 세계를 만들 수 있으면 좋겠다고 생각합니다.

한일 교류에 대한 나의 생각

에히메현립 니하마 공업 고등학교 2 학년 이토 슌

저는 이번 여름 방학에 VYS 부의 일원으로 한국을 방문했습니다. 해외에 가는 것은 처음이라 기대를 많이 했습니다. 저는 여러가지 일에 도전하는 것을 좋아해서 한국에서도 적극적으로 도전해 보고 싶다고 생각했습니다.

그러나 비행기에서 내리자마자 지금까지 본 적도 없는 문자만 눈에 들어와 정말 불안했습니다. 한국 사람이 말하는 말도 일본어와 완전히 달라 놀라움의 연속이었습니다. 한국은 매우 가까운 나라라는 인상이 있었기 때문에 말도 금방 배울 것이라고 쉽게 생각했었습니다.

다음에 한국을 방문할 때에는 반드시 한국어를 공부하고 가야겠다고! 라고 굳게 결심을 했습니다.

VYS 부는 '하늘을 나는 휠체어' 활동으로 매년 한국을 방문하고 있습니다. 어느 시설에 가도 놀라운 것은 복지 시설에서 일하고 있는 분 중에 일본어를 할 수 있는 분이 많다는 것입니다. 대부분의 사람이 복지 공부를 위해 일본에서 몇달 간 생활했 다는 것을 알고 매우 놀랐습니다. 한국과 일본이 아주 가까운 나라임을 재확인한 듯 했습니다. 평소 일본에 있어도 알지 못했을 것 같은 교류 활동입니다만, 한국이 가깝게 느껴져 매우 기뻤습니다. 저는 여행 중 한국어를 말할 수 없어서, 몇번이나 답답한 기분이 되었습니다만, 이 기회를 이용하여 어떻게든 커뮤니케이션을 하고 싶다고 생각했습니다.

또한 문화와 매너의 차이도 많이 느낄 수 있었습니다. 특히 식사면에서는 역시 '김치'의 존재감은 압도적이었습니다. 모든 식사에 김치가 나왔습니다만, 김치의 종류나 맛은 가게나 가정마다 개성이 있다고 합니다. 저는 지금까지 매운 것을 잘 먹지 못해서 모든 김치를 먹었던 것은 아니지만, 매운맛과 냄새는 정말 인상적이었습니다. 또한 젓가락이나 그릇을 잡는 법 등 매너의 차이도 처음에는 당황했지만 점차 익숙해 질 수 있었습니다.

저는 음악이나 예능 관계에도 관심이 있기 때문에 이번에 한국에 가면 음악 CD 나 한국 만화를 사오고 싶다고 생각했습니다. 요즘 일본에서는 한류 붐으로 많은 드라마가 방영되고 있습니다. 한류 드라마는 한국 문화를 알 수 있는 아주 좋은 계기가 되지만, 역시 실제로 한국을 방문하여 얻는 경험은 매우 귀중하다고 생각했습니다. 반대로 제가 서점에서 본 만화는 일본 만화가 한국어로 번역된 것이 많았는데, 일본 문화가 많이 들어와 있다는 것도 느꼈습니다. 실제로 일본

만화로 일본어를 공부했다는 한국 학생도 많고, 일본 애니메이션에 대해 저보다 잘 아는 사람이 있어서 놀랐습니다.

이와 같이 최근에는 한국과 일본의 문화 교류가 점점 활발해지고 있습니다. 우리가 하고 있는 자원 봉사 활동도 올해로 15 년째가 되었다고 들었습니다. 15 년 전과 지금과는 전혀 다르다고 생각합니다만, 양국의 사이가 점점 좁아지는 것을 매우 기대하고 있습니다. 한국을 보며 일본의 좋은 점이 보이는 경우도 있을 것이고, 반대로 한국을 보고 일본이 잃어 버린 훌륭한 점이 발견되기도 하겠지요. 예를 들면, 한국에서는 윗사람이나 선생님, 부모님을 매우 공경하는 습관이 있다고 합니다. 이번 한국 방문에서도 여러 장면에서 느낄 수 있었습니다. 일본에서는 점차 없어져 버린 습관일지도 모릅니다. 한국처럼 전통 문화를 제대로 지키려는 것이 매우 중요하다는 것을 실감했습니다.

한국과 일본은 좋은 라이벌 관계라고 알려져 있습니다. 스포츠와 문화면에서도 좋은 라이벌로 절차탁마하여 서로가 수준 향상할 수 있다면 매우 훌륭한 일이라고 생각합니다. 우리가 하고 있는 '하늘을 나는 휠체어'활동이 특별한 것이 아니라 당연한 교류 활동이라고 느끼게 된다면 우리도 매우 기쁠 것입니다. 저는 아직 2 학년이므로 앞으로도 방문할 기회가 있다고 생각합니다만, 다음에 방문할 때까지는 조금이라도 한국어를 할 수 있도록 공부해 가고 싶습니다.

내가 느낀 한국

간다여학원 고등학교 2 학년 다카하시 미유

저는 고등학교 2 학년 여름 방학에 혼자 한국에 갔습니다. 한국어 공부를 시작한 후 아직 2 년 밖에 지나지 않았는데도 불구하고 혼자서 한국에 가기로 결정한 것은 몇 가지 이유가 있었습니다.

첫 번째는 한일 교류로 딱 한 번 다녀온 한국에 많은 자극을 받았고 문화와 민족성의 차이와 비슷한 곳을 알아서 매우 매력적으로 느껴졌기 때문입니다. 두 번째는 한국 학생들과 교류할 때 서로의 나라의 학교 생활이나 유행에 대해 이야기하며 공유하고 싶었지만 어학력이 부족하여 만족스러운 대화를 못한 것이 아쉬웠기 때문입니다. 세 번째는 고등학생인 지금의 감정으로 한국을 보고 싶었는데 이것이 가장 큰 이유입니다. 그러기 위해서는, 투어 여행이나 가족 여행이 아닌, 혼자 한국에 가서 현지 한국인과 교류하는 것이 좋다고 생각했습니다.

저는 '한일 교류'에서 친구가 된 한국인의 집에 7 일간 홈스테이를 했습니다. 친구는 제가 귀국하는 비행기를 같이 타고 일본에 와서 저희집에서 5 일간 홈스테이를 했습니다. 한국에서의 일정은 친구가 생각해서 안내를 해 주었고, 일본에서는 제가 일정을 생각해서 안내했습니다.

제가 한국에 도착했을 때는 밤이었습니다. 친구 가족과 만날 약속을 한 역까지는 공항에서 지하철을 타고 가야 했습니다만, 지하철 역 장소도 교통 카드 충전 방법도 몰랐습니다. 그래서 제 앞을 걷고 있던 대학생 정도의 여성에게 길을 물었습니다. 그분은 "나도 지하철을 타니까 같이 가자"고 말해 주었습니다. 한국에 도착해서 처음 으로 한국어를 사용한 대화여서 긴장했지만, 지하철을 타고 가는 중에도 그 분은 천천히 한국어로 대화를 해 주었습니다. 덕분에 무사히 약속 장소인 역에 도착했고 친구와 만날 수 있었습니다.

저는 친구가 다니는 고등학교 교복을 빌려 입고 여름 방학에 선택제로 하고 있다는 하계강습 하나(90 분)를 받기로 했습니다. 원래 친구는 한국사 수업을 선택하고 있었는데, 수업 전에 "한국사 수업에서 한일 합방의 범위를 공부하지만, 너가 싫으면 바꿔달라고 부탁할게"라고 말해줬습니다. 그러나 오히려 저는 한국 학교에서 일본인인 제가 한국사 수업을 학생들과 함께 받을 수 있다는 것에 고마움을 느꼈습니다. 물론 한일 관계는 교과서에 나와 있는, 역사 문제 외에도 현재 정치와 영토 문제 등 많은 문제가 있기 때문에, 수업 중에 학생과

선생님에게 비난받을 것은 각오를 하고 있었으므로, 특별히 신경쓰이지 않았습니다. 단지 제가 함께 한일합병 수업을 받는 것이 한국의 학생들의 기분을 나쁘게 하는 것이라면 수업을 받고 싶지 않다고 생각했습니다. 이를 친구에게 전하자 “내가 미리 선생님과 친구들에게 한국에 관심을 가지고 한국어를 배우고 있는 한국을 정말 좋아하는 일본 학생이라고 설명해 놨기 때문에 괜찮아.”라고 말해 줬습니다. 저는 친구의 배려에 매우 감동했습니다.

수업을 받는 날 교복을 입고 교실에 들어가니 선생님도 학생들도 웃는 얼굴로 맞이해 줬습니다. 저는 조금 안심했습니다. 수업 내용은 일본사에서 배운 것이 나왔기 때문에 한국어를 몰라도 대강 내용을 이해할 수 있었습니다. 조금이라도 제가 알기 쉽도록 칠판에 쓸 때 한일 공통의 한자를 사용하여 주시는 등 자상함이 매우 기뻤습니다. 학습범위가 한일 합방이여서 일본을 비판하는 내용이 많이 나왔습니다. 한국사의 관점에서 한일 합방을 배우는 것은 신선하고 도움이 되었습니다. 가끔 유머가 담긴 대화를 해 주시고, 정말 충실한 수업이었습니다. 수업 마지막에 선생님이 “독도는 어느 쪽 것이라고 생각합니까?”라고 물으셨습니다. 저는 일본에서 한국 역사의 오래된 고등학교 교과서를 읽고 영토 문제에 대해서는 잘 확인했으므로 다케시마 (독도)에 대한 자신의 생각을 이미 가지고 있었습니다. 저는 교탁 앞에 서서 알고 있는 모든 한국어 단어와 문법을 사용해 말했습니다. 전하고자 하는 마음만이 앞질러 버렸 습니다만, 열심히 한국어로 자신의 의견을 이야기했습니다. 이야기를 마치자 친구를 포함한 학생들과 선생님도 박수를 쳐주었습니다. 저는 눈물이 날 정도로 기뻤습니다. 지난번 교류 후, 필사적으로 한국어를 공부해서 다행이라고 생각했습니다. 선생님은 학생들에게 “일본 학생의 의견을 들을 수 있어서 좋은 경험이 되었지요?”라고 묻자 “신선하고 좋았다”고 말해 주었습니다. 여기에서 함께 한국사를 배운 선생님과 학생들과 보낸 시간은 정말 일생의 보물이 되었습니다.

제가 느낀 한국. 그것은 마음을 속이지 않고, 의문과 의견, 생각 등 좋은 것도 나쁜 것도, 비록 말싸움이 된다고 해도 솔직하고 정직하게 말해서, 생각을 서로 공유하는 문화를 가진 매력적인 나라라고 생각했습니다. 그리고 반드시 앞으로 양국은 서로를 존중하고 필요로 하며 인정할 수 있는 관계가 되기를 바랍니다. 이러한 바람과 함께 장래에는 한일의 가교가 되어 우호 관계 구축에 기여하고 싶습니다.

한일 교류에 대한 나의 생각

후쿠시마 공업 고등 전문학교 2 학년 다테노 스즈

저는 이번 여름에 한국 학생들과 방사선에 대한 토론을 하기 위해 난생 처음 한국에 갔습니다. 한국을 방문하기 전에 저는 조금 불안했습니다. 왜냐하면 신문이나 인터넷에서 '한국인이 가지고 있는 반일 감정'이라는 것을 들은 적이 있었기 때문입니다. 역사적, 정치적 배경 때문에 한국인은 일본에 대해 뭔가 좋지 않은 감정을 가지고 있고, 그 감정은 폭언이나 폭력이 되기도 한다는 것을 뉴스 등을 통해 알고 있었습니다. 한국에 가서도 실제로 한국 학생들과 사이 좋게 지낼 수 없을지도 모른다, 싸움이 일어날지도 모른다는 불안으로 가득 차 있었습니다.

그러나 저는 한국에서 지낸 약 5 일간 한국 학생들과 아주 즐겁고 충실한 시간을 보냈습니다. 서로 방사선에 관한 자신의 의견을 말하고, 비록 의견이 달라도 상대방의 의견을 존중하는, 그런 관계가 자연스럽게 이루어졌습니다. 한국의 전통 음식을 먹으면서 일본어를 가르쳐 주거나 서로 일본 이름과 한국 이름을 붙여 주는 등 저에게 는 결코 잊을 수 없는 추억이 되었습니다.

귀국한 저에게 아버지는 "한국 학생들은 상냥했나? 뭔가 상처 받는 말을 듣지는 않았나?"

라고 물으셨습니다. 아버지가 이렇게 물으셨을 때, 왜 이런 것을 묻는걸가 생각했습니다. 한국에서 돌아온 저는 한국인 중에 "반일감정"을 가지고 있는 사람이 많다는 것을 완전히 잊어버린 것입니다. 그만큼 한국 학생들은 친절했고, 상대방이나 저나 서로 솔직한 마음으로 접했던 것입니다. 아니 애초부터 한국에서 함께 지내던 동안은 얘는 한국인이다, 쟤는 일본인이다라고 의식하지 않았다는 것을 귀국 후 저는 깨달았습니다. 한국 학생들과 교류할 때는 각 나라를 의식하지 않고 그저 한 명의 사람으로, 친구로 접했습니다. 동일한 목적을 가지고 있는 친구로 같이 웃고 서로 상담 하기도 했습니다. 거기에는 서로의 국적이나 정치적인 배경이 만들어내는 거리낌 등은 없었습니다.

한국뿐만 아니라 세계 어느 나라와도 역사적, 정치적인 문제는 있습니다. 그 중에서도 특히 한국은 '타케시마(독도) 문제', '위안부 문제'라는 심각한 문제가 지금도 남아 있습니다. 물론 이러한 문제를 무시하는 것이 아니라 서로의 마찰을 없애기 위해 노력해 나가야 할 것입니다.

그러나 이번과 같은 교류회나 토론과 같은 경우, 과연 이러한 국적이 낳는 응어리나 거리낌이 필요한 것일까요? 더 좋은 물건을 만들기 위해 또는 뭔가를

달성하기 위해 모인 무리 사이에는 국적이나 역사적, 정치적인 견해는 필요가 없다고 생각합니다. 양국 학생들은 한 인간이며, 자신의 의견을 주장하고 상대방의 의견을 제대로 들어야 하는 친구입니다. 물론 “사양은 필요없으니까 어떤 말을 해도 좋다”라는 것은 아닙니다. 한 인간으로서 상대의 생각, 아이덴티티(identity)는 존중해야 합니다.

지금도 SNS 등을 통해 한국 학생들과는 교류를 계속하고 있습니다. 오늘 먹은 점심 이야기나 최근 본 좋아하는 영화의 이야기 같은 일상적인 이야기부터 가끔은 원자력 관계와 같은 진지한 이야기도 합니다. 역사적, 정치적인 관계를 넘어 서로 개개인의 인간으로서의 의견을 서로 말하거나 상담할 수 있는 환경·관계를 구축할 수 있었습니다. 매우 멋진 일이라고 생각합니다. ‘한일 교류’를 말하는데 있어서 가장 소중히 하지 않으면 안되는 것은, 상대도 자신도 한 사람의 인간이며, 같은 친구로서 같은 목적을 가지고 활동하고 있다는 것입니다. 거기에 ‘한국인’ ‘일본인’이라는 국적, 역사적, 정치적인 문제는 필요없다라는 것입니다.

한일 교류에 대한 나의 생각

간다여학원 고등학교 1 학년　도무로 카나코

제가 한국에 관심을 가지기 시작한 것은 초등학교 5 학년 때였습니다. 한국 아이돌 그룹의 노래를 듣는 것이 그 시작인데, 일본 노래와는 또 다른 매력이 느껴져 점점 알아보게 되었습니다.

지금은 다양한 한국의 아이돌 그룹이 일본에 와서 K-POP 을 들을 기회가 많아졌습니다. 일본 데뷔를 위해 열심히 일본어를 공부하고 있는 모습을 보면 일본에 관심을 가져주고 있구나하고 기쁜 마음이 듭니다.

원래 일본과 한국 사이에는 여러가지 문제가 있었습니다. “창씨 개명”이나 최근에는 “영토 문제”에 대해 다양한 의견이 오고가고 있습니다.

일본은 옛날 조선인에게 일본식 이름으로 고치도록 “창씨 개명”을 요구했습니다. 이유가 어떻든간에 자신의 이름이 강제로 개명되는 것은 괴로웠을 것이다,라고 수업을 받았을 때 생각했습니다. 아마도 이것이 기본이 되어 반일 교육이 생겨난 것이라고 생각합니다. 저는 아직 한국에 가 본 적이 없기 때문에 사실인지 아닌지는 모릅니다만, 연예인의 반일 발언 등을 듣고 있으면 일본을 몹시 싫어한다고 느끼고, 반대로 친일파를 어필하고 있으면 “한국 사람들은 어떤 기분일까?”하고 조금 복잡한 기분이 듭니다. 한국은 애국심이 강한 나라라고 생각합니다. 그러나 그만큼 다른 나라의 의견을 제대로 인정하지 않는 부분도 있지 않나하고 생각합니다. 서로가 서로를 제대로 인정하면, 앞으로의 관계도 좋아질 것이라고 생각합니다.

“영토 문제”에 대해서는 어느 쪽인가하면 한국 쪽이 민감하다고 할까, 통렬한 인상이 있습니다. 그러나 일본도 다케시마[독도]는 일본의 것이라고 하고 서로 양보하지 않는 상황입니다. 솔직히 어느 쪽의 영토인지 저는 모르겠고, 어느 쪽이 맞다고도 단언할 수 없습니다. 저는 일본과 한국이 더욱 더 사이 좋게 지냈으면 합니다. 저게 안된다, 이게 안된다고 부정하는 것이 아니라, 좋은 부분을 찾아 서로 존중할 수 있게 된다면 좋겠다고 생각합니다.

한국과 일본은 아주 가까운 곳에 위치하고 있습니다. 발음이 어렵다라는 점은 있습니다만, 말과 의미도 비슷해서 왠지 기쁩니다. 그러나 가까운 나라인데 식문화나 습관 등 자세히 보면 완전히 다른 부분도 있어서 신기하고 재미있다고 생각합니다.

한국에서는 나이 많은 사람을 공경하는 습관이 있다고 들은 적이 있습니다.

일본에서는 그런 습관이 옅어지고 있습니다. 한국의 TV 프로그램을 보고 있으면 혈연관계가 아니어도 자주 “오빠” “언니”라고 부릅니다. 처음 들었을 때는 놀랐습니다만, 정말 멋지다고 생각했습니다.

지금은 K-POP, 한류, 한국의 미용 등에 관심을 가진 사람도 많이 있고 한국에 대한 관심도 높아지고 있습니다. 한국 사람도 일본의 좋은 점을 알아 주신다면 기쁘겠습니다. 서로가 좋은 의미로 자극을 주고받는 사이가 될 수 있다면 좋겠습니다. 앞으로 다시 부딪치는 문제가 나온다고 하더라도 잘 해결하고 서로 신뢰할 수 있는 나라가 되기를 바랍니다.

한일 교류에 대한 나의 생각

나가노현 호타카 상업 고등학교 2 학년 무토 소헤이

한일 교류에 있어서 요즘의 한일 관계를 보면 매우 중요하고 필수불가결한 일이라고 느껴집니다. 요즘의 한일 관계는 매년 갈수록 험악한데 이는 일본과 한국의 역사 문제와 일본측과 한국측의 역사 인식의 차이에서 생겨났습니다.

오래전부터 일본과 한국의 역사는 관계가 있습니다. 일본은 한국에서 문화를 받아들여 나라를 재흥하고, 무역도 활발히 하여 우호한 관계를 구축해 왔습니다. 그러나 일본이 전국 시대에 들어가고, 천하 통일을 완수한 도요토미 히데요시가 한국을 공격하면서 한국과의 우호적인 관계가 단번에 무너진 것입니다. 그때부터 일본은 전쟁까지 하기시작했고 급기야 한국을 식민지화하기까지 했습니다. 일본이 실시한 이런 다양한 행위에 대해 일본은 한국이 주장하는 모든 행위를 인정하고 있는 것은 아닙니다. 예를 들면, 위안부 문제와 독도 문제 등 일본에는 일본 나름의 견해가 있고, 이것이 일본과 한국의 역사 인식의 차이, 관계 악화의 본질적인 문제입니다. 쌍방의 나라에서 말하는 의견은 잘 알겠습니다. 서로의 의견은 일리가 있어 어느 쪽도 부정하기 어렵습니다. 그러나 이것으로는 문제해결이 전혀 되지 않습니다. 오히려 미해결인 채로 세월이 흘러, 그러는 와중에 전쟁을 하는 듯한 관계가 될 수도 있습니다. 이대로 좋을까요? 같은 아시아에 속한 같은 동료인데, 으르렁거리며 지내서는 안됩니다. 저는 반드시 이 문제를 해결하고 일본과 한국이 사이가 좋은 우호적인 관계로 돌아가 서로 함께 협력하며 성장해 갈 수 있는 그런 나라가 되어야 한다고 생각합니다. 이를 위해 한일교류는 필수불가결합니다.

이러한 관계가 이어지는 중에 최근에는 다양한 장소에서 한국과 일본이 함께 협력하면서 무언가를 달성하는 교류의 장이 많아지고 있다고 느낍니다. 일본인이 한국의 농가를 도와주는 봉사 활동을 하거나 한국인과 일본인이 함께 축제를 도모하는 등, 이러한 한일 교류의 말을 자주 듣기 때문입니다. 한일 교류를 한 양측은 어느 쪽도 으르렁거리지 않습니다. 서로를 배려하고 서로의 문화를 즐기는 등 양국의 국가 간의 문제와는 관계없이 우호적인 관계를 구축할 수 있습니다. 나라와 나라가 적대시하고 있어도, 사람과 사람은 그렇지 않습니다. 미래 지향적인 관계가 지금 일본과 한국에는 필요합니다. 이러한 관계가 조금씩 나라 전체에 펼쳐지면 언젠가는 한일 관계도 다시 우호적인 관계로 돌아갈 수 있지 않을까요? 저는 반드시 돌아올 수 있다고 생각하고 있습니다.

그리고 한일 교류가 다른 세계 각국 간의 교류의 모범과 같은 존재가 되면 좋겠다고 생각합니다. 이 한일 교류와 같이, 여러 나라의 문화를 피부로 체험하고, 인종이나 민족 등 상관없이 함께 웃고 서로 협력하는 그런 교류가 세계에 퍼진다면 전세계의 다양한 문제가 해결되어 많은 사람들이 행복해질 수 있다고 확신하고 있습니다. 저는 그런 희망을 한일 교류가 가지고 있다고 믿습니다.

한일 교류에 대한 나의 생각

도립 고등학교 2 학년 A. H

나는 학교에서 선택 수업으로 매주 두 시간 한글 공부를 하고 있다. 이 수업은 단지 한글만을 배우는 것이 아니다. 지금까지는 한국어 노래를 듣거나 한국 영화를 보거나 해 왔는데 앞으로는 가정과 교실을 빌려 한국 요리를 만들 예정이다.

내가 이 수업을 선택한 이유는 한국과 일본의 관계를 좀 더 알고 싶다고 생각했기 때문이다. 그렇게 생각한 것은 사기사와 메구무(鷺沢 萠)의 "진정한 여름"이라는 소설을 읽은 것이 계기였다. 이 소설은 보통 일본인처럼 살아온 재일한국인 3 세인 청년이, 재일한국인이어서 생기는 마음의 갈등이 그려져 있다. 처음 소설을 읽었을 때 나는 충격을 받았다. 이 소설을 읽을 때까지 재일한국인이라는 존재에 대해 알지 못했기 때문이다. "통명 [1] "이나 "지문날인"이라는 말의 의미를 알지 못했고, 주인공이 자신이 한국 국적이라고 밝히는 것을 주저하는 것도 이해할 수 없었다. 이렇게 해서 나는 내 주변에 내가 전혀 모르는 사실이 있음을 알게 되었다.

재일 한국인에 대해 조사하기로 한 나는 미나토에 있는 재일한국인 역사 자료관을 방문했다. 거기에는 내가 모르는 역사가 많이 있었다. 초등학교에서도 중학교에서도 고등학교에서도 역사를 배워 왔지만, 여기서 본 것은 한 번도 들어본 적이 없는 이야기뿐이었다. 게다가 그것은 뭔가 매우 복잡하고 비참한 이야기로, 아무래도 일본과 한국은 사이가 나쁜 듯 했다. 한편, 인터넷에서도 알아봄으로써 왜 이 소설의 주인공이 자신의 국적을 밝히는 것을 주저했는지 알게 되었다. 인터넷 세계에서는 '재일'이라는 말은 확실히 좋지 않은 의미로 사용되고 있었다.

재일한국인에 대해 알아보고 자신의 무지와 이런 일이 널리 알려있지 않은 일본에도 놀랐다. 이러한 한국과의 관계를 아는 일본인이 적다는 것이 한국과 일본 사이 문제를 크게 하는 원인의 하나가 아닐까하고 느꼈다. 또 일본인이

---

[1] 본명이 아닌 통성명의 약칭.통성명으로 유효한 법률행위는 원칙적으로 할 수 없으나 재일외국인의 통명은 거주하는 구청 등에 등록하는 것으로 주민표에 기재되어 법적효력을 가진다. 인감등록증명서나 운전면허증에는 본인의 신청에 의해 본명과 통명을 같이 쓸 수 있다. (예:金 美淑 (木村 淑子)) 일본 국적인 사람은 통명을 등록할 수 없다(역자주).

이미지하고 있는 한국과 한국인 상은 무지하기 때문에 편견이 포함되어 있을지도 모른다고 생각했다. 그렇다고 한다면, 언제까지나 아무것도 모르는 일본인으로 있는 것은 한국에 대해 실례이다.

한류붐과 독도 문제 등으로 다양한 방면에서 한국에 대한 관심이 높아지고 있는 지금 이야말로 양국간의 문제에 대해 알 수 있는 환경이 있어야 한다. 아무것도 모른 채, 또는 잘못된 인식 그대로 좋은 관계가 구축될 수는 없을 것이다. 일본과 한국이 서로 싫어하고 있고 그 원인이 과거사에 있다고 한다면 그 역사는 피해서는 안 되고 양국간에 논의돼야 한다.

함께 한국어 수업을 받고 있는 친구 중에서도 이 수업을 들으려고 한 이유는 K-POP 을 좋아하니까 또는 한국을 무대로 한 애니메이션에 빠졌기 때문에 등 다양하다. 이와 같이 지금은 한국에 관심을 가지는 계기가 다양하다. 이렇게 한국 문화와 교류해 나가는 가운데, 한국에 대한 일본의 무지는 해소되어 가지 않을까라고 생각한다.

일본 전체를 말하기 이전에 우선 나부터 한국에 가서 한국어로 이야기를 하며 무지에서 벗어나야겠다고 굳게 결심한다. 또한 이로 인해 다음에는 내가 누군가를 무지에서 벗어나게 해 줄 수 있다면 이보다 기쁜 것은 없다.

언제나 느끼고 있는 나라, 일본

광무여자 중학교 3 학년 강윤정

올해는 유난히 더웠다. 그래서 아프기도 자주 아팠다. 그래도 위안이 되어주는 것이 있었다. 학교 일본 홈스테이가 바로 그것이었다. 방학 한 달 동안 8 월의 홈스테이를 기다렸고 중간고사 기간에도 10 월의 홈스테이를 손꼽아 기다렸다. 나는 홈스테이 직전까지 흥분을 감출 수 없었다. 다들 왜 그리 흥분했냐고 묻지만, 그저 즐겁기 때문이다. 항상 멀고 다가가기 힘들 것 같은 일본 문화를 가까이서 느낄 수 있을거라는 기대감 때문이었다. 나에게 일본은 느리지만 빠르게 다가오고 있었다.

처음 일본에 대해 관심을 가지게 된 것은 일본드라마를 보고 난 후부터였다. 처음 듣는 외국어가 신기했고 같은 동양인이지만 조금 다른 사람을 보고 흥미를 가졌다. 그리고 중학교를 들어오고 나서 방과후수업으로 일본어수업을 받게 되었다. 드라마를 보며 가졌던 외국어에 대한 환상이 나를 깊게 밀어 넣었다. 그렇게 흥미를 잔뜩 가지고 몰입한 일본어는 힘들지만 쉽게 다가왔다. 하지만 무언가 부족했다. 일본어를 배워도 내가 정말 잘 하고 있는지 의심이 들었다. 그러던 중 펜팔 사이트를 통해 일본 친구를 알게 되었다. 한국에 대해서 상당히 알고 있는 덕에 일상적인 이야기로도 오랜 시간 대화를 나눌 수 있었고, 나의 일본어를 들어주며 부족한 점을 보완해주는 좋은 친구가 되었다. 그 친구 덕에 일본 젊은이들의 문화를 쉽게 알 수 있게 되었다.

그러던 2 학년 때 학교에서 일본 홈스테이라는 좋은 기회가 왔다. 아쉽게도 그 때는 일본에서 오는 친구를 받기만 했었다. 그렇지만 만나기 한 달 전부터 설레는 마음으로 메일을 매일 주고 받았다. 한국에 대해서 알고 싶어하는 친구에게 좋은 외교관이 되어주기 위해 노력했다. 친구를 실제로 봤을 때 비로소 일본을 가까이서 느낄 수 있었다. 동방예의지국인 우리나라와 맞먹는 예의와 뚝배기 같은 내성적인 성격이 느껴졌다. 무엇보다 부족한 일본어를 들어주고 자신을 잘 챙기는 사람이었다. 공동을 챙기고 양은냄비 같은 한국인의 성격과는 사뭇 달랐다. 그렇지만 우리와 같이 정도 많은 사람들이었다. 한국인이 정(情)을 주고 다가가는 것과 달리 다가가고 나중에야 깊은 정을 주는 일본인들을 느꼈다. 생각을 깊이 하는 신중함도 느꼈다. 헤어질 때는 진한 포옹으로 그렇게 인사를 나눴다.

그래도 남는 진한 아쉬움에 올해에 나는 다시 일본 홈스테이를 신청하여 며칠 전 후쿠오카에 다녀왔다. 2 박 3 일이라는 짧은 기간이었지만 많은 것을 느꼈다.

확실히 거리에서부터 일본 특유의 검소함과 소박함이 느껴졌다. 음식도 일본 특유의 시큼함과 담백함이 묻어났다. 맵고 화려한 한국음식에 비해 먹기 편했다. 하지만 제일 불편하게 느껴졌던 것은 다름아닌 젓가락이었다. 쇠가 재질인 우리나라에 비해 나무가 재질이라 너무 가벼웠고 무엇보다 스푼이 없는 것이 큰 특징이었다. 게다가 밥그릇을 들고 먹으려니 귀찮다는 생각까지 들었다. 그래도 친구가 한국에 왔을 때도 밥그릇을 두고 먹으려니 답답했으려나 하는 생각도 들었다. 문화차이로 가장 고전을 겪는 순간이었지만 작은 차이에 대한 이해가 서로를 존중하는 길임을 깨닫는 순간이기도 했다. 그런 어려움도 있었지만 마지막까지 선물을 찔러주시고 미소로 이별을 고하는 모습은 아직까지 가슴에 깊이 남아있다.

여전히 일본어 공부를 끊임없이 하고 있다. 어느새 일본어자격증도 1 급이라는 만만치 않은 레벨을 앞두고 있지만 여전히 즐겁기만 하다. 가끔 예상치 못한 곳에서 멀다고 느껴지지만 3 년도 안 되는 짧은 시간 동안 일본이라는 존재는 나에게 성큼 다가왔다. 성큼 다가 서면 멀어지기도 하지만, 그렇게 나는 작지만 자주 느끼고 있다. 언론에서 거론되는 정치적 문제는 내가 일본을 느끼는 중에는 어떤 문제도 되지 못했다. 단지 융통성 있게 행동하면 된다는 사실을 배웠을 뿐이다. 이렇듯 일본이라는 존재는 단순한 나라가 아닌 것이다. 이미 큰 존재가 되어버린 것이다. 그렇게 나는 일본을 느끼고 있다.

내가 느낀 일본

진관 중학교 3 학년 김나윤

우리나라와 이웃나라인 일본은 한국과 직접적, 간접적 관련이 많다. 그런 만큼 한국은 일본에 많은 관심을 가지고 있다. 항상 일본에서 무언가 일이 일어나면 많은 뉴스와 신문기사가 뜨고, SNS 에서도 화제가 되곤 한다. 또 일본 제품이 한국의 일상생활에서 사용되거나, 올림픽이나 축구경기 같은 한일 관계에서는 서로 뜨거워지기도 한다. 보통 우리나라 사람들은 일본에 대해 어느 정도 알고 있다. 일본이 선진국 이라는 이유도 있고, 이웃나라인 이유도 있고, 학교나 TV 에서 가끔 일본에 대해 나오기도 하기 때문에 다른 나라들에 비하면 많이 알고 있는 편이다. 하지만, 일본 문화에 대해 자신만의 생각을 가지고 있는 사람은 거의 없다.

나는 초등학교 5 학년 때까지 '일본' 이라는 나라의 이름과 국기, 전통이상 이 세 개 이외에는 정말 하나도 모르는 아이였다. 심지어는 중국어와 일본어의 생김새도 구별 못 할 정도였다. 사실, 지금도 '난 일본에 대해 잘 알고 있어!' 라고 자신있게 말하기엔 건방질 만큼 잘 알고 있지 않다. 하지만 이번 기회에 나는 내가 겪었던 몇 안되는 일본 문화에 대해 이야기해 보고 싶다.

내가 일본을 알게 된 계기는 '명탐정 코난' 과 '디지몬 어드벤쳐' 라는 애니메이션이다. 어릴 때는 더빙판밖에 본 적이 없어서 일본 애니메이션이라는 사실은 전혀 모르다가, 6 학년이 되어서야 알게 되었다. 그 사실을 알고 나서부터는 좀 더 유심히 보곤 했는데, '아이디어가 정말 대단하다. 만화 그리는 사람은 멋있다.' 하고 생각했다. 그리고 그 쯔음부터 일본어를 듣는 게 어색하지 않을 만큼 많은 애니메이션을 접하게 되었다.

하지만 일본어가 익숙해져도 일본 노래는 듣기 힘들었다. 일본 노래는 들어본 적도 없이 중학교에 입학했는데, 1 학년 초에 합창대회가 있어서 숙제로 '합창에 쓸 만한 노래 찾아오기' 가 있었다. 마침 한가했던 나는 인터넷에 검색해보았다. 몇몇 영상들 밑에, 왠 일러스트와 함께 있는 영상을 발견했다. 8 인합창이라고 써 있었는데, 호기심에 재생해보니 정말 멋진 노래였다! 일본 노래인데 실력이 뛰어나거나 얼굴이 나오는 것도 아니었는데 무척 시원하고 폭발적인 노래였다. 정말 그 노래를 들은 순간 두근두근거렸다. 가사도 모르고, 실력이 좋지도 않고, 누군지도 몰랐지만 노래하는 사람들 모두 즐거운 듯이 자유롭게 부르는 노래였다. 나는 그 노래의 출처를 찾아다녔다. 그 노래의 출처는 '일본의 유튜브' 라고 불리는 「ニコニコ動画」라는 사이트였다. 그 사이트는 일본의 문화공간의 축소판

같았다. 그림, 영상, 노래, 춤, 악기, 게임, 요리, 동물 등 다양한 장르들이 한 군데에 모여 있어서 그야말로 별천지였다. 나는 일본어도 잘 모르면서 두어시간에 걸쳐 그 사이트에 가입했다.

나는 그 뒤로 그 사이트에 푹 빠졌다. 일본 노래나 문화에도 익숙해졌고, 그 사이트는 규모가 점점 커져가서, 데뷔하는 사람이 생길 정도였다. 그에 따라 나도 버라이어티, 영화, 뉴스, 드라마, 소설, 라이브 등 일본의 더 많은 매체들을 접하게 되었다. 그리고 일본어로 번역도 할 수 있게 되었다. 그러면서 많은 것을 보고 느꼈다.

일본은 문화 활동이 활발하고 자유로운 것 같다. 국내 시장도 넓다. 어린아이부터 노인까지, 음반을 사도, 코스튬을 해도, 회사원이어도, 문화를 즐기고, 직접 만들 수도 있다. 우리나라는 K-POP 이나 드라마, 영화의 국내 시장이 좁고 활동 영역도 좁다. 대부분 불법 다운로드 하는 사람들이 많다. 실제로 내 친구들도 영화나 노래, 드라마를 불법 다운로드로 보는 친구들이 많다. 하지만 일본은 조금 달랐다. 멋진 노래나 연주, 춤을 보면 '이건 유료로 들어야 해.' 'CD 내 줬으면 좋겠다' 등의 반응이 많았다. 유명한 케이팝 가수가 아니면 정말 돈 벌기 힘든 우리나라와는 달리 일본은 음악이 다양하게 사용되고 저작권 의식이 좋은 편이어서 이익도 어느 정도 남기 때문에 국내 시장에서 이익을 얻을 수 있다.

지금 나에게 있는 일본의 인상은 대부분 '인터넷'에 의한 것들이다. 일본의 인터넷 언어는 내게 정말 신기했다. 예를 들어 설명하자면, www 라는 게 정말 특이하다. 우리나라로 치면 ㅋㅋㅋ같은 의미인데, 웃음 이라는 의미의 한자 笑를 입력할 때 키보드로는 warai 로 입력해야 하는데, 변환을 하지 않고 간단하게 www 라고 줄여 쓰는 것이다. 또 SNS 용어를 히라가나나 한자로 바꾸어 쓰는 것도 신기했다.

하지만 무서운 점도 있었다. 내가 좋아하는 베이시스트나 작곡가(위의 니코니코 동화 라는 사이트에서 직장과 겸해서 취미로 하던 사람들이었다.) 가 자살하는 등 자살 사건이 계속 일어나거나, 어떤 사람은 한번 저지른 실수 하나로 몇 년 동안이나 끝없이 악플에 시달리는 사람도 있었다. 가끔은 미성년자가 보기에 부적절해 보이는 것들도 훤히 보이기도 했다. 그런 점들 역시 내가 느낀 일본의 일부이다.

일본은 나에게 많은 변화를 불러왔다. 또 생각도 더 넓어졌다. 가끔은 무섭거나 외국인인 나로써는 이해할 수 없는 면도 있고, 역사적으로 부딪혀야 할 때도 있다. 하지만 그만큼 매력있는 점도 많이 있다. 우리나라와 닮았지만 다르다는 점도 재미있고, 직접 체험해 보고 싶기도 하다. 내가 느낀 일본은 극히 일부여서, 만약

일본인이 본다면 그저 웃길지도 모른다. 하지만 정말 일본 문화는 재미있고 흥미롭다. 문화를 당당하게 즐길 수 있고, 개성있는 나라, 가끔은 이해할 수 없지만 독자적인 문화가 있는 곳. 이게 내가 느낀 일본이다.

한일교류에 대한 나의 생각

진관 중학교 3 학년 김연주

내가 이제까지 생각하던 일본이란 단지 우리나라와 가깝고 비슷한 문화를 갖고 있으며 비슷한 모습의 사람들과 생활습관을 가졌다 생각했으며 예전 우리나라에 좋지 않은 기억을 심어준 나라라고만 알고 있었다. 하지만 우리가 살아가면서 많은 면에서 일본과 마주치고 교류하면서 지금은 조금씩 괜찮아지고 자그마한 분쟁 없이 평범하게 두 나라 간에 경제적으로 인류적으로 왕래하며 살고 있는 것 같다.

그런데 요즘 고위층 정치인들의 신사참배와 독도의 일로 일본과 우리나라는 또다시 미묘한 다툼이 시작 될 려고 한다. 하지만 몇몇의 착한 일본 사람들도 우리나라를 위해 신사참배를 반대하며 우리나라와 멀어지는 국제관계를 위해 노력하고 있다. 또한 일본에서 살아가는 우리나라 교포들도 양국간에 힘겨루기와 분쟁이 일어나지 않도록 노력하고 있다. 난 이번에 뉴스를 보면서 마음이 좀 아팠다. 일본과 사이가 조금씩 나빠지면서 더욱더 서로를 미워하게 된 것 같다. 정치인들의 발언으로 말미암아 양국 국민이 인터넷에서 서로 반대 나라에 대해서 욕을 하고 서로를 헐뜯는 가운데 신사참배를 반대하는 일본인을 보고 모든 이들이 나쁜 것만은 아니라는 생각이 들었다. 우리나라에 많이 미안해하며 나쁘게 말하지 않고 한국을 사랑하고 나쁘지 않게 생각하는 사람들도 있는데 우리는 나쁜 면만 보는 것 같아 씁슬한 마음과 미안한 마음을 가지게 된다.

일본사람도 뉴스에서 듣는 우리나라에 적대시하는 사람만 있는 것이 아니라 착한 사람이 많다는 사실을 이번에 또다시 느끼게 되었다. 얼마 전 내가 친구랑 남대문 시장에 쇼핑을 갔었는데 관광 온 일본인을 마주친 적이 있었다. 그곳엔 사람들이 너무 많아서 걸을 때 마다 어깨를 많이 부딪쳤는데 그중 한명이 일본사람 이었다. 처음에는 잘 몰랐다. 그 이유는 한국인하고 언어만 다를 뿐이지 많이 닮아서 우리도 구별을 잘 못한다. 나는 그 사람과 부딪혀 미안하다는 표정으로 “죄송합니다”라고 말했다. 그분이 알아들었는지 나한테 아직 서툰 한국말로 천천히 “아니에요 괜찮아요” 하며 입가에 미소를 살짝 띄우며 서로 갈 길을 걸어갔다. 일본사람들은 다 무섭다는 생각에서 탈피 되었다. 그 상냥함이란 뉴스에서 보는 것과 인터넷에서 서로의 나라가 잘났다고 공방을 벌이는 일본인이 아닌 우리 주변에서 볼 수 있는 친절한 사람이라 많은 사람을 겪어봐야겠다.

지금 생각해보면 나도 사실은 일본인을 좋아하지 않는 편견 있는 사람 이였다. 이글을 계기로 일본인과 일본에 대한 편견이 조금 바뀌고 있다는 생각이 들었다. 그러므로 일본과 우리나라의 미묘한 정치적 발언은 점점 커지지 말고 일본 측과 한국의 적절한 입장표명과 대화로 풀어 좋게 끝났으면 하는 바람이다. 국가간에도 입장이 있지만 나라의 이익을 창출하면서 서로 반대국에 대한 이해를 먼저해가는 것이다. 예를 들어 일본에 대해 부정적인 면만 찾을 려고만 하지 말고 일본의 긍정적인 부분을 찾아보는 것은 어떨가 한다. 그러면 정치인들의 발언이 망언이라 하여도 긍정적인 마인드로 좋은 해결책 모색을 할 수 있을 것 같다. 현재 일본에 있는 우리나라 사람들과 몇몇의 일본사람들이 이건 좀 아니란 듯이 우리나라 편에 선 사람도 많이 있는 듯하다. 그래도 망언하는 정치인이 용서가 안된다면 좋은 이미지의 일본 사람들을 떠올리고 우리가 본받아야 할 일본의 더 좋은 문화를 배우고 도입하도록 한다.

또한 내가 생각하는 일본인들은 우리나라 사람들과 비슷한 점이 있다. 그건 한국의 아이돌을 좋아하는 한국인과 일본인이 어디 다를 바 있는가. 근래의 뉴스를 보면 일본에 공연을 하러 가는 우리나라 아이돌 스타들이 무척 많다. 우리나라에서 인기 좀 있다고 생각 하는 스타들을 보기 위해 새벽부터 나와서 기다리고 있고 사랑의 하트를 쏘면서 공연을 보는 모습은 우리나라 사람들의 마음에 자긍심을 심어 주기에 충분하다고 본다. 내 친구들도 아이돌 스타를 좋아한다. 대부분의 어린 학생이나 많은 어른들도 포함하여 스타를 좋아한다. 물론 나도 아이돌을 좋아한다. 잘생기고 노래잘하고 춤도 잘 추는데 누가 싫다고 하겠느냐는 것이다. 이건 우리나라나 일본의 비슷한 점인 것 같다. 그들의 문화에 맞는 연애인이 있을 텐데 근래는 K-POP 이라 하여 우리나라 가수와 연기자들이 일본인들에게 더 많은 사랑을 받고 있다. 어떤 연애인이 독도 발언을 하여 일본에서 활동 할 수 없어 졌다는 기사를 본 적 있다. 정치적인 발언을 하지 않으면서 한국을 알리는 문화교류를 할 수 있다. 자신의 인기와 부를 위한 활동을 하는 짬짬히 한국과 한국인의 위상을 알리는 교류야 말로 일석이조의 효과를 볼 수 있다 생각한다.

하나는 학생들을 교환학생으로 어릴 때부터 방학을 통해서 서로나라의 문화를 체험할 수 있도록 [문화체험 이동 학교] 를 신설하는 것이다. 초등학교는 교류맺은 초등학교로 학생들이 서로 맞교환하여 한 달 동안 체험하는 식으로 서로 나라의 이해를 돕는 것이다.

한국과 일본은 백제시대에 한국문화가 일본으로 유입되었다고 역사에 말하고 있다. 그러나 세월이 많이 흘러 한국과 일본의 공통점은 사실 몇 안 되는 것 같다. 밥을 먹고 젓가락을 사용하고 우리는 한글을 사용하지만 옛날엔 한자를 사용한

것도 이 또한 공통점이다. K-POP 을 좋아하는 마음만 같은 것이 아니라 일상 속에서도 비슷한 점을 찾을 수 있다. 이렇게 내가 생각하기엔 일본은 비록 우리랑 사이가 좋지 않고 서로 미워하고 싫어할 수 도 있겠지만 잘 찾아보면 서로 비슷한 구석도 있고 K-POP 으로 통하고 그 예술로 통하는 것을 어릴 때부터 서로 문화를 이해하는 장을 펼쳐주는 것이 최고인 듯하다.

나의 일본에 대한 경험과 지금 현실에서 보면 일본의 높은 지위를 가진 사람들과 몇몇의 보수적인 사람들이 한국에 대한 안 좋은 의식을 심어 주려 하는 거지 많은 일본시민들은 한국을 닮고 싶어 하고 한국을 사랑하는 것 같다. 서로의 편견을 약간 낮추고 서로를 바라보면 양국의 문화 교류나 교육교류는 원활하게 이뤄질 수 있을 것이다. 오랫동안에 쌓아온 양국 국민들이 가진 편견을 조금이라도 가라 앉혔으면 하는 바람이 있다.

한일교류, 필요하다

부산선화여자 중학교 2 학년 김인덕

서울에서는 일본의 망언을 규탄하는 시위가 벌어지고, 도쿄에선 혐한류 시위로 시끄럽다.

한국과 일본은 온라인에서도 서로의 인기 커뮤니티 사이트 서버를 다운시키는 사이버 전쟁을 벌인다. 스포츠도 예외는 아니다. 전쟁 같은 한일전에서 패한 축구대표팀에게는 전국민 적인 비난이 쏟아진다.

'영원한 숙적', 한국과 일본의 관계를 떠올릴 때마다 등장하는 말이다. 하지만 우리와 일본은 참으로 가까운 곳에 위치한 이웃이고, 서로에 대해 꽤 많은 것들을 알고 있다. 이웃끼리는 싸우기도 하지만 함께 맛있는 것을 나누어 먹을 때도 있다. 이렇게 서로에게 맛있는 것을 먹여주기 위해 도와주는 일한(한일)문화교류기금. 우리에게 필요한 교류를 중매해주는 곳. 얼마나 좋은 역할을 하고 있는 걸까?

먼저, 문화교류란 문화의 다양성과 독자성을 인정하는 바탕에서 상호간 이해증진을 목적으로 하는 것이 문화교류이다. 말 그대로 서로의 문화를 체험하면서 친목을 도모하고 이해의 폭을 넓히는 것이다. 이것은 일한(한일)문화교류기금에서 실행하는 모든 일들의 의의일 것이다. 서로를 이해만 한다면 우리는 마음을 열 수 있고 그 안으로 들어와 손 맞잡고 친하게 지낼 수 있다. 이런 현상이 일어나기까지는 많은 힘이 든다. 친하게 지내다 보면 서로가 가지고 있던 것들을 공평하게 내놓으며 구경도 할 수 있고, 더 친해지면 그것을 서로에게 주기도 하는 데 말이다. 없던 것이 생겨나면 발전할 수 있고, 결국 그 발전을 하기 위해서는 일본과 우리나라의 활발한 문화교류가 필요한 것이다.

우리도 잘하고 잘난 것이 있고, 못하고 못난 것이 있다. 일본 안에는 우리가 필요한 것들이 몇몇 있다. 물론 우리만이 아니라 서로가 필요할 것이지만 말이다.-그래서 문화교류가 있는것이고-하지만 좋지 않은 감정 속에서 우리는 서로 담을 쌓고 서로를 경계하기만 한다. 그러나 그런 담을 허물어줄 영웅은 있기 마련하다. 그 영웅이 결국 망치로 그 담을 무너뜨릴 수는 있겠지만 그 뒷받침을 해줄 우리의 역할도 중요하다.

나는 일본의 가부키, 후지산, 온천, 로봇 등 많은 것들을 좋아한다. 일본에 있는 이런 것이 좋더라, 저런 것도 좋더라. '좋다'라는 말을 항상 쓴다. 그리고 내가 '좋다'라는 말 말고 '정말 좋다'라는 말을 쓸 수 있는 일본의 것 중 하나는 일본시민의 질서의식이라고 생각한다.

예를 들자면, 2011 년 3 월 11 일 자연의 힘 앞에 선 인간의 무력함과 나약함을 보여준 일본 지진. 정말 많은 사상자와 금전적인 피해를 입은 사건이다. 하지만 이러한 혼란스러운 상황 속에서도 일본 시민들의 질서의식은 빛이 났다. 미야기현 센다이의 한 학교 운동장에서 물을 배급받기 위해 모인 시민들이 땅에 그려진 선에 맞춰 줄을 서 있는 사진을 보면 알 수 있다. 문화교류는 꼭 스포츠, 음악, 예술뿐만 아니라 보이지 않는 사람들의 습성, 행동도 들어오게 하여 우리의 생활 속에 스며들게 할 수 있다. 사람이 하는 좋은 행동은 다른 사람들에게 저절로 스며들게 하여 일상이 되게 하는 것이 최고의 목적 달성이다. 문화교류를 함으로써 이러한 현상들이 많이많이 일어나기를 바란다.

마지막으로 내가 바라는 것이 있다면 우리나라와 일본과 같은 동아시아에 있는 많은 나라들이 서로 협심하여 서양에서처럼 경제 발전을 많이 하여야 한다. 동아시아는 경제 문제, 북한 문제, 영토 문제, 역사 문제 등 수많은 문제들이 얽혀있고 이러한 문제는 한 국가가 아닌 모든 국가가 힘을 합쳐 해결해야 할 문제이기 때문이다. 따라서 미국이나 중국과 함께 어깨를 나란히 할 수 있는 부강한 나라가 되면 참으로 좋겠다.

우리의 과거에 일본사람들이 좋지 않은 인상을 남긴 것은 사실이다. 하지만 우리가 증오해야 할 것은 일본인들이 아니라, 과거 일본의 민족주의 역사라는 점을 우리는 꼭 생각할 것이다. 그렇기에 지금 우리는 과거를 떠올리며 현재 일본은 바라볼 필요가 없다고 생각한다. 과거만 들추게 되다면 더 이상 우리에게는 발전이란 없다. 우리는 우리의 시야를 틔워줄 무언가가 필요했다. 그 무언가 중 하나가 일한(한일)문화교류기금이라고 생각한다.

문화교류를 함으로써 서로 자존심만 내세울 것이 아니라 서로가 부족한 부분을 채워나갈 수 있음을 명시하고, 나라끼리 생기는 다툼은 우리뿐만 아니라 동아시아의 미래까지도 결코 긍정적이지 못함을 알아야 한다. 우리나라와 일본이 문화교류를 통해 국제 사회의 일원으로서 사이좋게 지낸다면 우리의 이 미지는 한층 더 돋보일 것이고 선진국으로써 발전해나가 세계에까지 큰 기여를 할 수 있을 것이라 믿는다.

한일 문화 교류의 대한 생각

탐라 중학교 2 학년 김혜은

우리나라와 일본은 삼국시대부터 교류를 해왔다고 알려져 있다. 그 당시 일본은 ‘일본’이라는 현재의 국호를 사용하지 않았고, 정확한 국호를 가지고 있지 않아 '왜' 라고 불렸다. 그 당시 가야, 백제, 왜는 외교적 관계를 맺어 서로 교류했다. 서로가 언제 배신할지 모르는 그런 관계가 아닌 서로 믿고 있는 그런 교류를 말이다. 하지만 우리나라의 발전이 늦어지고 일본이 성장했던 시기 잠시 한국과 일본의 관계가 악화됐다. 하지만 다시금 관계를 회복 중이다.

옛날에는 교류 당시 중국 문물을 우리나라가 수용하고 다시 우리가 일본에게 전해주었다. 요즘은 서로 동등한 관계에서 교류를 하고 있다. 그대로 모방하는 것이 아닌 서로의 장점을 맞추어 교류하는 것이다. 예를 들어 평소 우리가 '애니'라고 부르는 '애니메이션'이 있다. 물론 우리나라도 애니메이션이 있었을 것이다. 하지만 우리나라에 비해서 일본은 애니메이션이 대중화 되어 하나의 큰 산업으로 매우 발달해 있었다. 그런 일본의 애니메이션이 우리나라로 와서 우리의 만화와 결합을 했다. 내 생각에는 그 배경으로 웹툰이 생기지 않았을까 싶다. 이처럼 한일문화교류는 두 나라의 문화발전 혹은 경제발전에 영향을 미친다.

하지만 지금 일본과 한국은 여러 문제로 갈라서고 있다. '광개토대왕비 조작 사건', '한일합병에 대한 조작 명분론', '독도문제', '교과서 왜곡사건' 등 이러한 분쟁은 사소한 것 같지만 절대 사소한 문제가 아니다. 이러한 문제가 계속 된다면 한일 관계는 더욱 악화되어 갈 수밖에 없을 것이다. 하지만 문화교류를 통해 분쟁을 해결할 수 있는 많은 개선점이 나타날 것이라 생각한다. 서로 교류를 함으로써 서로에 대해 알게 될 것이기 때문이다. 서로에 대해 알게 된다면 서로의 문제를 바로 잡아주고 정치적, 문화적으로 많은 도움이 될 것이다.

누군가는 일본과의 관계개선을 위해서가 아닌 경제적인 이유로 어쩔 수 없이 일본과 교류해야 한다고 생각할 수 있다. 하지만 이런 의견은 현대인의 잘못된 인식에서 비롯된 것이다. 이러한 잘못된 인식이 바뀌지 않는다면 한일간의 관계는 개선되지 않을 것이다. 이런 인식은 우리 선조들이 겪었던 임진왜란과 일제강점기에서 비롯되었을 것이다. 하지만 그런 인식이 현재 아니 미래까지 이어진다고 한다면 과연 우리에게 좋을 것일까? 나는 그렇지 않다고 생각한다. 과거의 일에 대한 것은 아주 안타까운 일이다. 하지만 그 고된 시간을 견뎌낸

선조들의 노력과 보람을 생각해야 한다. 근래 들어 한일의 관계가 안 좋아져 외교적으로 계속 문제가 발생한다면 우리 선조들의 피와 땀의 결과가 무너지는 셈이 되는 것이다. 물론 일제강점기는 우리에게 많은 아픔을 준 것이 사실이다. 하지만 우리는 알아야 한다. 어떤 문제에 대해 어떤 식으로 받아 들이느냐에 따라 그 문제의 의의가 달라질 수 있다는 것을 말이다. 만약 우리나라가 일제강점기를 겪지 않았다면 더욱 발전했을지도 모른다. 하지만 일제강점기에 대항하여 독립운동을 전개했던 사실은 당시 우리나라의 민심을 하나로 모아주는 계기가 되었을 것이라 생각한다.

하나의 문제에 대해 여러 방면으로 생각해 본다면 그 문제를 잘 이해했다고 할 수 있을 것이다. 나는 우리의 인식이 바뀌는 것이야말로 한일간 문제점 극복과 서로에 대한 믿음과 신뢰감을 쌓는데 기반이 된다고 생각한다. 우리의 올바른 인식이 한일 교류에 큰 힘이 된다는 것을 알아두기를 바란다.

내가 느낀 일본

시흥은행 중학교 3 학년 예지희

일본이라는 나라는 우리 한국과 가깝고도 먼 나라이다. 같은 아시아이며 지리상 가깝지만 정서와 그 내면이 완전히 상반되기 때문이다. 하지만 나는 한국과 일본이 가까이 있는 이웃 나라인 만큼 다른 어느 나라보다도 일본을 접할 기회가 많다고 감히 자신한다.

나는 올해 2 월에 [아야]라는 내 또래의 일본인 친구를 만나기 위해서 일본 오사카에 다녀왔다. 내 또래의 일본인 친구라고 하니까 많이 기대되고 설레었지만 한편에서는 외국인이라고 생각하고 있어서 긴장이 많이 되었다. 그런데 아야는 내가 생각한 일본인의 이미지와는 정반대되었다. 무엇보다 자신의 감정과 의사가 확고했다. 돌려서 말하거나 우물 쭈물거리기보다는 적극적으로 자신의 생각을 이야기했다. 또 K-POP 같은 한국 음악이나 패션에 관심이 많은 것, 서로의 나라에 대해서 궁금해 하고 있다는 것에 나라는 다르지만 같은 또래이며 나와 많이 다르지 않다는 생각을 하게 되었다.

일본에 가서 감탄한 것이 많은데 그 중 첫 번째는 독서이다. 지하철을 타게 되었을 때 나는 주위를 계속해서 두리번거릴 수밖에 없었다. 나는 책을 무척 좋아하는데 지하철 안의 3 분의 2 이상은 책을 들고 있었다. 한국에서는 대개 스마트폰을 보거나 자거나 둘 중 하나다. 하지만 일본인은 손에 작은 책을 들고 보고 있었는데 그 모습은 존경스러웠다.

일단 일본인의 책이 한국인이 보는 책과는 달리 작아서 휴대하기 편하다는 것이 큰 장점 중 하나라고 나는 생각한다. 그리고 굳이 어려운 책이 아니더라도 만화와 같은 종류를 회사원이나 어른이 보는 것을 이상한 시선으로 쳐다보지 않는 것도 그들의 문화 중 하나라고 생각한다. 일본의 서점에는 사람이 많았고 몇몇 책을 제외하고는 모두 개방되어 있거나 샘플이라고 작은 책자가 걸려있어 미리 볼 수 있게 해 두었다. 마치 일상처럼 서점을 오가는 모습에 나는 무척 기쁘고 행복했다.

두 번째는 그들의 친절함인데 흔히 책에서 보았지만 나는 그들의 태도에 감명 받을 수밖에 없었다. 내 일본인 친구 아야에게 매일을 보내려 했는데 컴퓨터가 없어서 호텔에 부탁해야만 했다. 그러자 호텔 직원은 하던 일을 놔두고 직원용 컴퓨터를 쓸 수 있게 해주셨다. 그런데 일본 자판이라 사용법을 몰라서 당황하고 있자 자신이 대신 쳐주겠다고 말씀하셨다. 그리고 바쁜 업무 중에도 내 메일을 보내고 엘리베이터까지 나를 데려다 주고 자신의 업무로 돌아가셨다. 뿐만 아니라

지하철에서 헤매고 있을 때 일본인 아저씨는 가던 길을 멈추고 표를 새로 끊어서 5 분이나 함께 걸어 나를 안내해주셨다. 이 일은 나에게 무척 소중한 경험이 되었다. 자신이 하던 일, 자신이 가던 길을 멈추고 외국인에게 친절을 베푼 일본인은 내게 일본에 대한 첫인상으로 기억되고 있다.

마지막으로 오사카에서 고베에 갔을 때 현장체험 학습을 온 일본인 학생들에 관한 것이다. 학생들과 직접 이야기하고 싶었지만 쑥스러워서 단지 사진을 찍어달라고 사진기를 내밀 따름이었다. 그 때 내 눈을 끌었던 것은 남자고 여자고 모두 교복이 촌스러울 정도로 정직하고 단정했다는 것이다. 치마는 무릎을 덮고, 바지는 펑퍼짐해서 분명 우리나라에서 이런 옷을 입고 다니면 모두 쳐다볼 것 같았지만 나는 그들이 학생다운 몸가짐을 지녔다고 생각했다. 그건 학생이 가져야하는 태도와 자세이기 때문이다.

이번 여행으로 내가 가지고 있던 일본에 대한 편견이나 인식이 많이 바뀌었고 새로운 이미지를 가지게 되었다. 그리고 기모노나 일본어에 숨겨진, 일본 속에 도사린 일본 문화에 더욱 관심을 갖게 되었다. 이것은 나의 경험이기 때문에 다른 사람이 겪었던 일본과는 다를 수도 있다. 그러나 두 나라가 더욱 친해지고 교류가 많아져 서로의 대한 오해나 편견이 사라졌으면 한다. 그리고 현재 우리나라와 일본 간의 문화 교류가 되고 있는 것은 무척 바람직한 일이라고 여겨진다. 우리나라가 보다 더 나은 나라가 되기 위해서, 그리고 서로에 대해 더 많이 다가가기 위해서 우리는 정말 '이웃 나라'가 되어야 할 것이다.

지피지기 백전백승?, 지기지피 백전백승!
- 가깝고도 먼 그 곳, 내가 느낀 일본-

부산선화여자 중학교 3 학년 오상지

가깝고도 먼 그곳, 일본과 관련된 일이라면 사실 우리나라 국민 대부분의 반응은 비슷할 것이다. 나도 모르는 사이 눈에 힘부터 들어가고, 주먹을 불끈 쥐게 되는, 이런 식의 반응은 양국 간의 오랜 역사에서 비롯되는 것이리라.

그래, 일본이라는 나라는 오래 전부터 우리와 야무지게 싸워온 앙숙이기도 하다. 한-일 혹은 일-한 양국 간 스포츠 경기라도 있을 때면, 그 상대가 일본이라는 이유 하나만으로도 우리는 무조건 이겨야 한다. 다른 이유는 필요치 않다. 누가 먼저라 할 것 없이,어떤 이유에서라 할 것 없이 '무조건' 이겨야 한다. 21 세기, 정보과학화 사회를 자랑하는 대한민국답지 않은 일이다. 양국 간의 문제가 '독도' 영유권 문제나 '일본군 위한부' 문제, '역사 왜곡'과 관련한 쪽으로 넘어가면 사태는 더욱 심각해진다. 이쯤 되면 9 시 뉴스를 비롯해 인터넷 검색어, 신문기사 헤드라인은 이것 하나로 통일된다. 대단한 결속력이라 아니할 수 없다. 도대체 어디서 기인하는 결속력일까 생각해 보게 되는 대목이다.

참 아이러니한 일이다, 생각하면서도 나 역시 대한민국 국민의 한 사람으로서, 우리의 역사 속에 유유히 흐르는 피를 받은 한민족으로서 '위한부 문제'나 일본의 '독도 영유권' 주장 등을 접할 때면 끓어오는 분노는 어찌 할 수 없다. 일제를 몸소 체험 한 것도 아니고 국교가 단절되어 있는 것도 아니며 부산에서 서울 가는 시간이면 도착할 수 있을 만큼 가까운 곳에 있는, 그러나 어쩌면 세상 어느 나라보다 먼 나라 일본을 생각할 때면 힘줄부터 돋고, 얼굴부터 화끈 달아오르는, 이성보다는 감정이 앞서는 이 같은 분노 앞 에서 나는 가끔씩 이런 생각을 해본다. 나의 이 분노에 일본에 대한, 일본인 에 대한, 약간의 부러움 혹은 조바심이 있는 건 아닌가 하고 말이다.

무조건적인 적대감을 잠시 내려놓고 일본을 다시 본다면 사실 그들의 문화나 경제, 생활면에서 배울 점도 많다는 것은 이미 잘 알려진 사실이다. 일본인들의 '철저한 개인주의' 가치는 남에게 피해를 주지 않으려는 태도, 허례 허식을 일삼지 않는 겁소한 생활 습관, 양보다는 질적인 면을 중시하는 가치관, 혈연,지연,학연에 메이지 않는 철저한 실적주의 등은 우리나라 국민들에게 경각심을 일깨울 만한 것들이다. 또 필요한 만큼만 소비하는 식생활 문화나 다양성이 존중되는 그들의 사회야말로 지금 우리나라 국민들에게 많은 시사점을 제공하는 부분이기도 하다.

2010 년, 내가 초등학교 6 학년 이었을 때 우리학교와 자매결연을 맺은 한 일본

소학교에 학교대표로 방문한 적이 있었다. 호텔에서의 생활이지만 불편한 점이 한 두 가지가 아니었다. 콘센트가 110v 여서 충전조차 난감한 상황이었지만 그들의 검소한 생활을 느낄 수 있었다. 또 소학교 학생들의 예의 바른 태도, 서로를 배려하는 행동은 나도 모르게 그들에 대한 경외심까지 생겨나게 했다. 함께 맛있는 음식을 먹고, 불꽃놀이를 보며 웃을 때, 그 시간 동안만큼은 정말 한 나라 국민 같았고, 국적을 떠나 따뜻한 친구로서 뜻 깊은 추억을 쌓았다. 어린 나이였지만 그 때의 체험은 양국 교류에 대해 매우 긍정적인 사고를 갖게 해 준 계기였다.

상처로 남은 옛 역사와 걸핏하면 논란이 되는 영토문제 등으로 분노를 느끼지만 분명 그들이 잘하고, 그들에게 배워야 할 부분이 있다. 이제 우리 청소년들에게 남은 과제는 양국 간의 아픈 역사, 우리 조상들의 상처 깊은 역사를 딛고 발전적 관계를 통한 회복의 역사를 만드는 것, 그릇된 역사를 바로잡는 것이라고 생각한다.

나는 이 과제 해결을 위해 [지피지기 백전백승] (知彼知己 百戰百勝)의 가르침을 떠올려본다. 그러나 이번에는 적을 알기 전에 나를 먼저 알아보자고 권하고 싶다. 냉철한 자기비판과 반성 뒤에 적을 분석해보자. 좀 더 이성적이고 합리적으로 그들을 볼 수 있을 것 같다. 가깝고도 먼 그곳, 일본과의 더욱 활발한 교류와 발전적 관계를 기대 해 본다.

문화교류를 즐기는 우리들의 자세

진관 중학교 3 학년 이현웅

대한민국 국민들에게 있어 '일본'이라는 단어에 대한 인식은 매우 상이하다. 한편에서는 2 차 세계대전에서의 참혹한 패배를 딛고서 세계 3 위의 경제대국으로 우뚝 솟은 나라라는 인식이, 다른 한편에서는 아직도 군국주의와 제국주의의 미련에서 벗어나지 못한 우익들과 동맥경화에 빠진 정치와 경제로 인해 서서히 도태되어 간다는 인식이 자리잡고 있다. 일본문화에 대한 인식도 이런 극단성에서 자유롭지 못하다. 한편에서는 '재미있고 모던한 문화'라며 찬사를 아끼지 않으나, 다른 한편에서는 '퇴폐적이고 상스러운 문화' 라고 낙인 찍어버리는 기현상이 연출되고는 한다. 이런 현상은 아직도 한일교류가 제대로, 그리고 바르게 이루어져있지 않다는 것을 역설하고 있는 것이다. 왜 우리가 이런 상이한 인식을 가지게 되었는지 그 이유를 알아야 앞으로 생산적인 한일관계를 일궈낼 수 있을 것이다.

역사에서 찾을 수 있는 한일간의 교류는 차치하더라도 20 세기 들어서 한일간의 교류는 김대중 정부의 일본문화에 대한 개방에 앞서 존재해 왔다. 처음 반세기에는 제국주의 침략의 파도와 함께, 그리고 둘째 반세기에는 자본주의라는 이름과 함께 들어왔던 것이다. 이 교류는 쌍방향의 교류가 아니었다는 점에서 이미 긍정적이 문화교류일 것이 아니라는 것을 짐작할 수 있다. 첫 반세기의 교류는 우리 민족에게 긍정적인 측면보다는 부정적인 측면을 많이 가져왔던 것이 사실이다. 아마 일본에 대한 모든 것에 대하여 처음부터 비판적이거나 무의식적인 방어자세는 아마 이때 태어났을 것이다. 그리고 아직도 일본제국주의의 왜곡되고 주관적인 식민지 조선에 대한 인식은 일본사회 곳곳에 남아있다. 현대 일부 일본인들의 혐한의식 저변에는 이때 만들어진 왜곡된 시선이 있는 것이다. 이때 당시에도 많은 일본학자들의 한국인과 한국문화에 대한 연구가 많이 행해졌었지만, 그 연구들의 상당부분이 정치적인 목적과 연결 되있는 순수한 학문위주의 목적이 아니었으며, 연구대상에 대한 기본적인 멸시의식과 선입견이 깔려 있어서 학술가치가 있는 연구라고 보기 어렵다. 이것은 긍정적인 측면을 완전히 무시한 연구, 타자의 특수성을 이해하지 못한 폭력이었고, 식민지조선인들에게 아무런 비판도 없이 수용되었다. 그 결과, 아직도 일부 한국인 중년층은 아직도 자신들의 민족성을 비판하면서 외국인이 들으면 자해수준일 정도로 왜곡된 민족성 인식을 가지게 되었다.

1945 년 광복 이후, 일본이라는 단어는 점점 우리들의 기억 속에서 사라지는 듯 했고, 그 대신 '이념'과 '반공' 의 프로파간다가 한국인들의 대외관을 장악했다. 하지만 일본은, 아니 일본제국의 망령은 상명하복적인 군대식 상하관계와 정경유착이라는 망령으로 뿌리깊게 자리잡고 있었다. 간간히 '일본제품' 의 이미지와, 히스테리적인 반일교육이 그 당시 대부분의 한국인들의 일본상(日本像)이었던 것이다. 그러나 우리는 일본을 전혀 뜻밖의 장소에서 마주하게 된다.. 88 서울 올림픽과 해외여행 자유화 조치가 바로 그것이다. 더욱이 90 년대를 휩쓴 '하루키 신드롬'은 많은 한국인 젊은이들에게 냉전 이후의 이데올로기 붕괴로 인한 사상적 공허함을 달래주는 친구가 되었으며, '신세기 에반게리온'을 위시한 수많은 일본 애니메이션들은 소위 '오타쿠 1 세대'를 양산하면서 일본은 더 이상 '먼 나라' 가 아닌 '이웃나라'가 되었다. 일본문화 개방 이후에 더 많은 일본문화들은 한국에 들어오게 되었고, 90 년대 중반부터 시작된 한류는 일본에도 그 여파를 미치게 되면서 우리는 서로에 대한 관심이 더 높아지고 더욱 잘 알게 되었다. 하지만 우리가 지금 우리의 교류가 완전하다고 할 수는 없을 것이다.

현재 우리의 교류는 드라마나 애니메이션, 그리고 소설에 주로 편중되어 있는 것은 반박할 수 없는 사실이다. 물론 이런 현상으로서 상대방에 대한 관심이 점점 높아지고 있다는 사실 또한 부정할 수 없다. 하지만 한 나라의 문화를 즐긴다는 것은 한 사람과 친구를 맺는 것과 같다. 한 사람과 친구를 맺으려면 그 사람에 대해 좋든 싫든 서서히 알아나가고 탐구해나가야 하는 것과 같이 한 나라의 문화를 즐길 때도 서서히 관심문화 주변의 문화까지도 익히려는 마음자세가 되어있어야 한다. 그러나 과연 지금 한일 양국의 문화소비자들 중 그런 마음자세와 예의가 갖춰져 있는 사람이 얼마나 될 지 참 궁금하다. 문화라는 것은 그냥 생기는 것이 아니라 먼저 있던 문화와의 상호작용을 통해 이뤄지는 것이다. 만일 그 상호작용을 무시하고 독선적으로 자신이 좋아하는 문화에만 관심을 가진다면, 그 문화를 대하는 균형잡힌 시선을 일궈낼 수 없을 것이고 더욱이 자신이 좋아하는 문화 또한 깊이 있게 이해하지는 못할 것이다. 한일 간의 쌍방향 교류가 유사 이래 가장 활발한 지금, 한일 문화교류가 제대로 이뤄지기 위해서는 양국 정부가 서로간의 이해증진을 위한 단체에 대한 투자를 아끼지 말아야 하며, 미래세대들의 교류에 앞장서야 할 것이다. 그리고 다른 이들의 문화를 볼 때 배타적 민족주의의 시선으로 보는 것이 아니라 상대방의 특수성을 이해하면서 개성을 존중해주는 너른 마음가짐이 필요한 것이다. 그러나 무엇보다 제일 중요한 것은 상대방의 문화를 이해하고자 하는 학구열에 불타고 있는 양국 국민들의 노력일 것이다.

작은 것으로부터 시작되는 한일교류

미추홀외국어 고등학교 2 학년 김효진

한국과 일본, 이 두 나라는 옛날부터 많은 교류를 해 왔다. 그 결과, 양국은 서로 비슷한 점을 많이 지니게 되었다. 하지만 '비슷한'이란 '똑같은'과는 다르다. 비슷한 점 속에서도 이 두 나라는 각각 자신들의 고유한 영역을 발전시켜 나갔다. 그런데 최근에 학생들은 '일본은 비슷한 성향의 문화를 가지고 있으니까'라고 생각하며, 양국 사이의 교류를 소홀히 하는 경향이 있다. 하지만 나는 이 비슷한 점이 많은 한국과 일본의 교류야말로 다른 어떤 나라들과의 교류보다도 더 서로에게 발전이 된다고 생각한다. 그래서 나는 고등학생의 입장에서 느껴왔던 점을 떠올리며 지금처럼 지속적이면서도 다양한 한일교류를 위해서는 무엇을 어떻게 하면 좋을까에 대해 써 보고자 한다.

먼저, 한일교류의 필요성을 알리고, 다양한 프로그램이 있다는 것을 널리 알리는 것이 중요하다. 인터넷을 찾아보면, 다양한 기관에서 주최하는 믿을 만하고, 흥미로운 한일교류가 많이 있다. 하지만 안타깝게도, 이런 정보들은 학교에서 선생님이 찾아주지 않는 한 스스로 찾기 어렵다는 단점이 있다. 관련 홈페이지 등에서도 정보가 올라오지만, 대부분 학교에 공문을 보내 학생을 모집하는 형식이기 때문에 결국 학생들은 학교에서 대부분의 정보를 접하게 된다. 그렇지만 학생은 많고, 교류 기회는 상대적으로 소수에게 주어진다. 나는 학교에서 한일교류 프로그램에 적극적으로 참가했고, 방일 연수도 다녀왔지만 항상 이 점이 아쉽다고 생각했다. 이제부터는 청소년이 자주 갈 만한 온라인 상의 사이트나 SNS 등으로 다양한 한일교류의 기회가 있다는 점을 널리 알리면, 한일교류에 대한 호응이 커지고, 그에 따라 더 다양하고 많은 기회의 한일교류가 생기는 초석이 될 수 있지 않을까? 아니면 최소한 학교에서 한일교류를 자주 주최하는 홈페이지들을 알려주어도 관심 있는 학생들은 그 홈페이지를 통해 좀 더 쉽게 한일교류의 기회를 접할 수 있을 것이다. 물론 좋은 프로그램은 많은 사람들이 하고 싶어한다. 하지만 어떤 좋은 프로그램이라도 제대로 홍보되지 않으면 모처럼의 좋은 프로그램이 빛을 보지 못하게 되는 경우도 있다. 그러므로 최소한 청소년들에게 프로그램을 알리는 것에 조금만 더 신경을 쓰더라도 한일교류에 대한 관심은 훨씬 증가할 것이라고 믿는다.

둘째로는 학생들 먼저 한일교류에 대해서 사고의 방식을 넓히는 것이다. 보통 한일교류라고 하면 한국이나 일본의 학생들이 서로 '방문'하는 교류를 많이

떠올린다. 하지만 한일교류라는 것이 꼭 방문과 같은 직접적인 요소만 인정되는 것일까? 아니다. 아마 대부분 일본에 흥미가 있는 사람들이라면 한 번쯤은 한일교류를 모두 경험해 본 적이 있을 것이다. 초, 중학교 때쯤 인터넷 펜팔을 해 보았을 것이다. 인터넷 펜팔은 어린이, 청소년들 사이에서 주로 유행했다. 바로 이 인터넷 펜팔도 교류의 일종이라고 할 수 있는 것이다. 최근에는 SNS 를 통해 관심 분야에 대해 이야기를 나누다 보면, 굳이 같은 나라의 사람이 아니더라도 금새 말을 나누게 된다. 일본의 애니메이션이나 J-POP 이 좋아서, 한국의 드라마나 K-POP 이 좋아서 일본어나 한국어를 공부했다면 그 기회는 훨씬 늘어난다. 좋아하는 것에 대해 국경을 초월해 나누는 대화, 얼핏 눈치채지 못했을지도 모르지만 이미 한일교류를 하고 있었던 것이다. 우리도 모르는 사이에 시작한 한일교류야 말로 사소해 보여도 엄연히 서로의 의견을 나누는 교류이고, 거창하다고만 생각한 한일교류의 이미지를 다가가기 쉽게 만드는 지름길이다. 이런 '눈치채지 못했던' 교류를 알아가는 길이야말로 한일교류에 더 가까이 다가갈 수 있는 길이라고 나는 생각한다.

마지막으로, 비슷한 점으로 시작해서 고유 영역까지 알아나갈 수 있는 다양한 체험이 필요하다. 처음에 언급한대로 이미 직접 체험하는 한일교류는 그 숫자와 다양성이 많다. 테마를 정할 수도 있고, 유적지나 관광지를 직접 찾아 다니며 전체적인 상대 국가의 이미지를 알아나갈 수도 있다. 앞으로도 이런 기회를 늘려나가고, 방문할 수 있는 지역의 다양성도 꼭 서울과 도쿄 위주의 수도권이 아닌, 양국의 색다른 문화를 체험할 수 있는 지역들을 찾아 방문지로 선정하는 것은 어떨까? 물론 수도권에서 전체적인 이미지를 알아가는 것도 좋다. 하지만 지방에 가서 '전통'과 '지역 고유의 문화' 체험을 가질 수 있는 기회를 늘린다면, 한일은 무조건 비슷하다는 고정 관념을 깨는 데도 큰 도움이 될 것이다. 더불어 이것은 서로를 이해하며 한일관계의 미래를 책임질 주역들을 양성할 수 있는 좋은 기회라고도 생각한다.

한일교류, 얼핏 단어만 보면 어려워 보일지도 모르지만 양국에 대해 알아가고 싶다는 의지가 있는 사람이라면 당신도 모르는 사이에 실천하고 있는 행동이다. 만약 지금까지는 실천하지 못했다 해도 지금부터 무작정 어렵게 생각하지 말고 차근차근 자신이 할 수 있는 것부터 도전해보는 것은 어떨까? 정보를 알고, 자신이 열심히 배운 상대 국어로 자신의 관심 분야에 대해 국경을 넘어 이야기를 나누고, 더해서 직접 교류까지 할 수 있다면 당신은 이미 한일교류에 이바지하는 훌륭한 학생이다.

내가 느낀 일본

보평 고등학교 2 학년 방윤지

일본어를 전공으로 택하기 전의 저에게 있어 일본은 그저 애니메이션 강국이라는 이미지 였습니다. 어릴 적부터 미술을 좋아했던 저는 일본 애니메이션을 접하고 처음으로 꿈을 정했습니다. 그림을 그리는 일 이었습니다. 여러 애니메이션을 보면서 나도 저런 만화를 그리는 사람이 되고 싶다고 느꼈습니다. 그리고 중학교 2 학년, 저는 만화가라는 장래희망을 찾았습니다. 그때 일본은 저에게 있어 처음으로 꿈을 갖게 해준, 그림의 꿈을 키우도록 도와준 나라였습니다. 그렇게 여러 애니메이션을 보고 자연스럽게 일본어가 귀에 익게 되었음 즈음, 독학이나마 조금 씩 쓰는 법도 익혀 갔습니다. 하지만 그것 역시 공부였던 지라… 쉽게 지쳐버린 저는 사두었던 일본어 책을 책장 깊숙한 곳에 넣어두고 그것이 잊혀 질 즈음, 제 인생을 바꿀 하나의 사건이 일어났습니다. 중학교 3 학년 어느 날, 어느 백화점 미용실에서 한 일본인을 만났습니다. 그러나 그 미용실에는 일본어가 가능한 직원이 없어 애를 먹고 있었습니다. 하지만 그때는 혼자나마 하고 있던 일본어도 그만 두었을 때 였던 지라 '내가 뭘 할 수 있겠어…'라며 포기하고 있었습니다. 그러던 도중 시간이 흐르고, 힐끔힐끔 등 뒤로 쳐 다만 보던 저는 그 사람에게 다가가 '도와드릴까요?'라고 말을 건네었습니다. 그러자 그 일본인을 기뻐하며 자신의 상황을 설명하기 시작했습니다. 일본 약국에서 약을 직접 사 머리를 염색했는데 그것으로 인해 머리가 상해 영양과 함께 다시 염색을 하고 싶다고. 지금 생각해보면 굉장히 간단한 말이지만 일본어를 공부하고 있지 않던 상태에서 말을 나누었던 지라 굉장히 뿌듯했던 것이 아직도 선명합니다. 그리고 얼마 후 그 일본인으로부터 한 통의 메일이 도착했습니다. '일본에 잘 도착했습니다. 도와주셔서 감사했습니다.'라고, 형식적인 메일입니다만 아, 나도 다른 사람에게 도움이 될 수 있구나. 라는 생각이 들었습니다. 비록 가볍고 쉬운 통역이었습니다만 이 일을 통해 일본어에 더 큰 관심과 자신감, 흥미를 얻게 되었습니다. 그 이후, 저는 미술과 함께 독학으로 일본어를 공부하기 시작했습니다. 그리고 또 일 년 후, 많은 고민 끝에 4 년 동안이나 공부해왔던 미술을 그만두고 일본어를 시작했습니다. 두려움 반 설렘 반으로 갔던 학원을 제 생각과는 반대로 즐거운 일뿐이었습니다. 혼자 공부하면서 어려웠던 것들이 수업을 들으며 술술 풀려 나가기 시작했고, 전에는 자신이 없어 피했던 문제들도 조금씩 다가가고,

매달리게 되었습니다. 그리고 대학에 가기 위해 공부하던 도중, 일본에 여름방학 단기 연수를 가게 되었습니다. 처음에는 동갑인 룸메이트 둘이 생활해야 해서 밥 먹는 것, 그 밖에 생필품을 사는 것 등 걱정이 많았는데 생각 외로 일본은 그렇게 무서운 곳이 아니었습니다. 그 곳의 사람들도 제 말을 알아듣는데 어려움이 없었고, 저 역시 마찬가지였습니다. 그 상황이 저는 너무나도 신기했습니다. 저는 그 쪽에서의 생활이 너무나도 즐거웠습니다. 일본어를 시작한 것에 대해 굉장히 자부심을 느꼈고요. 하지만 제가 일본에 다녀온 후 대부분의 사람들은 저에게 말합니다. “일본인이 너한테 그렇게 웃어준 것은 다 가식 일 거야.” 라고. 좋지 않은 역사는 아직까지도 이어져 사람들에게 그리 좋은 인상이 아닌 일본. 일본에 다녀와 이러한 말들을 듣고, 그 좋지 않은 인식을 제 힘으로 바꾸어 보고 싶다고 생각하게 되었습니다. 일본 연수는 아주 짧은 시간이었지만 제 인생의 목표를 재설정 할 수 있는, 지금까지의 여름방학 중 가장 소중한 시간이었다고 생각합니다. 아직은 JLPT 2 급에 막 붙은 햇병아리 수준이지만 언젠가는 제가 저 자신을 자랑스러워 할 수 있을 정도로 일본어를 할 수 있게 되었으면 좋겠어요. 그래서 통역사가 되어 일본과 한국 사이를 조금이라도 좁힐 수 있는 일을 하고 싶습니다. 이 목표 덕분에 저는 요즘 바쁘고 지친 일상 속에서도 힘을 낼 수 있고, 또한 이것은 저를 더 열심히 공부하게 해주는 하나의 채찍이 되었습니다.

일본은 저에게 있어 인생의 목표를, 진로를 결정할 수 있도록 꿈을 키워준 나라입니다.

한일교류에 대한 나의 생각

한국외국어대학교부속 용인외국어 고등학교 1 학년 백하원

타코야끼. 일본 하면 가장 먼저 내 머릿속을 스쳐 지나가는 이미지이다. 초등학교 6 학년 때 떠난 홋카이도 여행에서 쏟아져 내리는 눈과 추위를 피해 우연히 길가의 한 타코야끼 가게에 들어서게 되었다. 나와 부모님이 들어가니 꽉 찰 정도로 작은 가게였는데 내부를 보니 기모노를 입은 전통 인형들과 낡아 보이는 사진들로 벽면이 가득 채워져 있었다. 내가 신기한 듯 가게를 둘러보자 주인은 좁지만 50 년이 넘는 전통을 가졌다며 자랑스럽게 이야기했다. 그 말은 타꼬야끼를 뒤집는 그의 손놀림을 통해 증명이 되었다. 기계처럼 빠르고 정확하게 타코야끼를 뒤집은 뒤 여러 종류의 소스를 현란하게 섞는 모습이 마치 예술가 같았다. 또, 그 맛은 평생 잊을 수 없을 만큼 훌륭했다. 길거리의 작은 가게일 뿐인데 그렇게 오랜 전통과 기술을 가지고 있다는 사실이 당시 나에게는 신선한 충격이었다.

그런데 단지 타코야끼 뿐이 아니었다. 일본 시내 한가운데 놓여 있는 신사와 그 주위를 둘러싸고 있는 높은 건물들. 계절마다 열리는 다양한 종류의 마쯔리에 온 나라가 들썩이는 모습은 그들만의 고유한 문화와 전통을 현대 문명과 얼마나 자연스럽게 조화시키고 있는지를 보여준다. 일본의 '가업계승'이나 '장인정신'에 바탕을 둔 이러한 산출물들은 나를 일본이라는 나라에 매료시켰다. 그래서 나는 고등학교에 입학하면서 제 2 외국어로 일본어를 선택했다. 중국어나 스페인어 등을 선택하는 경우가 대부분이었지만 나는 망설임 없이 일본어를 선택했다. '일본'이라는 나라를 더욱 잘 알기 위해 본격적으로 일본어를 배우고 싶었기 때문이다. 원래 경제, 경영, 창업 등에 관심이 많았던 나는 자연스럽게 일본경제와 산업에도 관심을 가지게 되었다. 전후 일본의 고도성장과 버블부터 현재의 아베노믹스까지 일본의 경제사는 나의 흥미와 호기심을 자극하기에 충분했다. 그러나, 일본에 더욱 관심을 가지게 된 근본적인 이유는 결국 일본은 과거와 현재, 그리고 미래에도 우리나라와 가장 밀접한 관계를 갖는 나라라는 생각 때문이었다.

지난 여름 한국 대표로 홍콩제무역창업대회에 참가하였는데 그곳에서 만난 일본팀 친구들을 만날 수 있었다. 대회에서 동 아시아권 국가에서 온 여러 친구들을 만나게 되었는데 그 중 나는 단연 일본에서 온 친구들과 가까워지고 싶었다. 반가운 마음에 내가 먼저 다가가 말을 걸고 일본 문화에 대한 이야기를 꺼내자, 일본 친구들은 한국인들은 일본인을 싫어하지 않냐며 어색해했다. 순간 마음

한구석이 서늘해지는 느낌이 들었다. 역사적인 문제 때문에 아직도 개개인 사이에도 벽이 있다는 것이, 가장 가까운 이웃나라임에도 불구하고 서로 눈치 보며 어색해야 한다는 것이 얼마나 답답하고 불필요한 감정 소모에 불과한 일인지 온몸으로 실감하게 되었다. 인터넷이나 책을 통해서만 간접적으로 느껴왔던 한국과 일본 사이의 벽에 실제로 부딪혀 보니 그 벽을 허무는 것이 얼마나 중요한 일인지에 대해 생각하게 되었다. 나는 일본 친구들에게 대부분의 한국 사람들이 일본문화에 대해 긍정적으로 생각하는 편이라고 말했다. 이 얘기를 들은 그들은 그제서야 환하게 웃으며 나를 편하게 대하기 시작했다. 사용하는 언어도, 살아온 배경도 다른 우리가 진심으로 공감하고 소통할 수 있는 유일한 방법은 서로의 문화적 가치를 공유하는 일이었다. 대회를 마치고 같이 쇼핑을 하게 되었는데, 그 때 내가 일본어와 일본 문화에 대해 아는 것이 많다는 사실이 얼마나 다행이라고 생각했는지 모른다. 일본 팀 친구들은 한류 덕분에 음식이나 언어 등 한국에 대해 아는 것이 많았다. 내가 대부분의 한국인이 그렇듯이 일본 문화에 익숙하지 않았다면 우리가 공통 관심사에 대해 떠들며 친해지는 일은 없었을 것이다.

과거의 역사와 외교 문제 때문에 반일 감정을 가지고 있는 사람들이 아직 많다. 정치와 외교는 가는 실과 같다. 가는 실은 언제 끊어질지도 모르고 어떻게 얼마나 엉키게 될지도 모른다. 그리고 한 번 엉킨 실은 다시 풀기도 어렵다. 하지만 실은 다시 묶어서 이을 수 있다는 큰 장점도 가지고 있다. 정치와 외교도 마찬가지라고 생각한다. 안정적이던 두 국가간의 관계가 위태로워지기도 하고, 그 관계를 푸는데 많은 시간과 노력이 들기도 한다. 그 동안 한일관계가 그래왔던 것처럼 말이다. 그간의 한국과 일본을 보며 두 국가간의 문제는 단순히 양국을 이끌어 가는 정부 고위간부들의 노력과 협상만으로는 해결할 수 있는 것이 아니라는 생각이 든다. 일본을 가리켜 '멀고도 가까운 나라'라고 하듯이 항상 위태로운 한국과 일본사이의 거리를 좁히려면 무엇보다도 양국의 국민 의식을 개선하고 민간 교류를 확대하는 것이 중요하다고 생각한다. 이제는 오랜 시간 엉켜있던 실의 한 부분은 잘라내고 끊어진 부분을 단단하게 묶어야 할 때가 왔다고 생각한다. '소통'이라는 한-일 관계의 키워드를 잊지 않고 끊어진 실을 묶기 위해 쉬지 않고 노력한다면 우리가 꿈꾸는 평화로운 국제 관계를 형성할 수 있을 것이다. 이런 것이 바로 우리가 늘 얘기하는 '세계화'의 진정한 모습이 아닐까 생각한다.

나는 지금도 창업대회에서 만난 친구들과 자주 연락을 하곤 한다. 그리고 그 연장선에서 최근에는 일본 각지의 친구들과 정기적으로 이메일을 주고받고 영상통화를 하는 활동을 시작했다. 이제 일본을 떠올리면 내 친구들의 따뜻한 미소가 제일 먼저 떠오른다. 하루 빨리 그들에게 거짓말을 하지 않고도 대부분의 한국인이 일본을 좋아한다는 이야기를 하고 싶다.

해가 뜨는 나라

경남 고등학교 2 학년 왕인서

'해가 뜨는 곳'을 한자로 바꾸면 '日本'이다. 일본은 모든 것이 시작되는 해가 뜨는 나라다.나에게도 일본은 그대로 모든 것이 시작되었다고 해도 과언이 아니다. 일본이란 나라를 좋아하게 되면서, 그에 대한 열정이 생기면서 일본에서 거주하겠다는 목표가 생긴 것이다. 일본은 나에게는 특별한 존재다. 일본이란 나라를 떠올릴 때 나타나는 그 무언가는 한 마디로 표현할 수 없는 어떤 미묘한 '무엇'이 있다.

아마 그 '무엇'에 대해 말하자면 일본만의 개성 있는 대중문화라고 생각한다. 초등 학생시절 처음으로 보았던 일본영화 '데스노트(Death Note 2006 年)'에서 느낄 수 있었다. 그 일본만의 '무엇' 때문에 일본의 영화나 음악, 문화에 자연스레 관심을 가지게 되었고 커 가면서 그 분야에 몰입해서 파고들다 보니 일본에 관해 누구보다 많은 열정과 호기심을 가지게 되었다.

일본은 알 수 없는 센세이션한 분위기를 풍기고 있었다. 적어도 내가 접해왔던 일본의 문화에서 느껴졌던 분위기가 말이다. 아시아 이면서도 유럽냄새를 풍기는 일본의 느낌은 외국의 좋은 것을 받아들인 일명 타인의 좋은 것은 기꺼이 취한다는 일본의 '이이토코토리(良いとこ取り) 정신'이 지금의 분위기를 만들어낸 것이라고 생각한다.

아마 나의 첫 해외여행이 일본에 대한 선명한 이미지를 각인 시킨 것이라 생각한다. 나는 이번년도 2 월 말에서 3 월 초에 걸쳐서 친구와 함께 일본여행을 다녀왔다. 첫 해외여행이라 걱정도 컸었지만 내가 동경하는 나라를 첫 여행으로 간다는 것 자체가 나에겐 큰 행복이었다. 그렇게 친구와 내가 간 곳은 '후쿠오카'와 '나가사키'였다. 일본에 발을 들여 서는 순간부터 일본을 벗어나는 순간까지의 경험이야말로 그 어떤 것과 견줄 수 없는 것이었다. 특히 여행 중 가장 인상 깊었던 점 두 가지를 뽑으라고 한다면 첫 번째는 일본인들의 친절함이다. 여행 첫 날, 우리가 머물 게스트하우스를 찾아가는 데 어려움이 있었다. 그래서 주변 일본인에게 길을 자주 묻곤 했는데, 그들이 우리, 낯선 외국인에게 대하는 태도는 한국과는 많이 달랐다. 길을 모른다면 잘 모른다고 하고 지나가는 것이 한국이라면, 모르는 곳이라도 같이 찾아주려고 하는 섬세한 친절함이 일본이었다. 심지어 개중에는 휴대폰을 꺼내 주소를 검색해주시는 분도 계셨다. 많은 사람들 덕분에 숙소를 찾아갈 수 있었고 시간이 지난 지금도 낯선

이방인들의 질문에 친절하게 답해주신 많은 분들의 친절을 잊을 수 없으며 그러한 친절이 바탕이 되게 한 일본이란 나라에도 존경을 표한다.

두 번째로 인상 깊었던 점은 일본의 목욕문화였다. 후쿠오카 여행 때는 게스트하우스에서 잠을 해결했었지만, 나가사키 여행 때는 한국 친구의 일본인 친구 집에서 머무르게 되었다. 일본식 집을 처음으로 방문하였는데, 기억에 남는 것이 있었다면 '오후로(お風呂)'였다. 그리고 그 곳에서 처음으로 알게 된 것이 바로 일본의 '목욕'과 한국의 '목욕'이 다르다는 것이었다. 한국의 '목욕'은 더러운 몸을 씻으러 간다는 의미지만, 일본에서의 '목욕'은 따뜻한 물에 몸을 담그러 간다는 의미로써 목욕에 대해 가벼운 이미지를 심어주었다. 단순해 보이는 '이것'에도 규칙이 있는데 먼저 욕조에 들어가기 전 비누로 몸을 씻고 들어가야 하며, 사용했던 물은 버리지 않고 온 가족이 순서대로 사용한다는 것이다. 그리고 일본의 욕조는 한국처럼 그냥 욕조가 아닌, 물 온도가 내려가면 자동으로 물 온도를 맞춰주는 서구식 시스템도 갖추어져 있어서, 앞서 말한 '이이토코토리'의 한 부분이 아닐까 라고도 생각했다. 내가 다녀왔던 일본은 이것보다 더 많은 장점이 있었고 그것에 대해 알아갈수록 더 많은 매력에 빠질 것이다. 그리고 앞으로도 더욱 더 많은 장점들이 만들어 질 것이라고 생각하며 여행을 마무리했다.

그곳에 대한 나의 호기심은 나의 여행 덕분에 식을 수 없는 열정으로 바뀔 수 있었기에 여행은 충분히 값진 기억이었고, 일본이라는 곳도 충분히 매력적인 나라였다. 그리고 나는 진심으로 일본인과 한국인이 같은 곳에 섰을 때, 어색하지 않는 날이 머지않아 올 것이라고 믿는다.

하나의 우연이 나를 만들어주었다

안양여자 고등학교 2 학년 이하선

‘내가 느낀 일본... ’ 이라는 주제로 글을 쓰게 되어 다행이라고 생각했습니다.

‘내가 아는 일본.. ’이라는 주제로 글을 쓰기에는 전 일본에 간 경험도 없고 만나본 일본사람도 별로 없기 때문입니다. 하지만 내가 느낀 일본이라는 주제로 자신있게 글을 쓸 수 있게 된 것은 단 한사람과의 만남을 통해서입니다. 어렸을 적 부모님께서 일본출장이 많으신 덕에 저는 간접적으로나마 일본을 알고 있었습니다. 하지만 어렸던 터라 일본이라는 나라가 나라인지도 몰랐었습니다. 하지만 제가 일본을 결정적으로 알게 된 것은 일본에 본사를 두고 있는 한 회사 때문이었습니다. 그 회사는 제가 좋아하는 인형을 파는 회사였는데 인형 자체가 비싼지라 초등학생이었던 저에게는 살 엄두가 나지 않았습니다. 그래서 우리나라 서울에 있는 그 회사의 한국지점을 자주 방문하곤 했었습니다. 언제나 그 매장에 들어가 물건을 사고 싶었지만 초등학생이었던 저는 그저 발만 동동 구르며 그곳을 지나다니며 보기만 하였습니다. 그러던 어느 날 작은 물건 하나 사지 못하는 저를 따뜻하게 맞아주던 사람이 있었습니다. 그 매장에서 일하던 일본인 언니였습니다. 그 언니는 상품을 사지도 못하는 제가 그 곳에 들릴 때마다

그저 손님으로만 보는 것이 아닌 이웃 친한 아이를 대하듯 해주었습니다. 제게 신상품이 들어왔을 때는 소개도 해주고 가끔은 자신이 살고 있는 일본의 동네이야기도 해주었습니다. 사실 저에게는 그때 일본사람에 대한 편견이 있었습니다. 일본사람들은 절대 자신의 진심을 드러내지 않는 다는 것이었습니다. 저는 아는 일본 사람도 없는지라 오로지 책으로 일본을 경험하다보니 책에 나오는 그런 말들을 그대로 받아들여 그런 편견이 생겼던 것입니다. 하지만 그 언니는 그런 저의 편견을 알고 있다는 듯이 저를 스스럼없이 대해주었고 책으로 쌓은 일본에 대한 이야기가 아니라 한국과 같은 나라로써의 일본을 이야기해주었습니다. 그 언니와 이야기를 나누며 저는 일본사람에 대한 편견이 사라졌을 뿐만 아니라 언니로부터의 조언을 얻어 일본과 관련된 꿈을 키우기 시작했습니다. 그건 그 인형과 관련하여 한국과 일본을 오가는 인형창작학과 교수가 되는 것입니다. 언니는 같은 취미를 가진 사람으로서 제가 알지 못하는 인형에 대한 것을 알려주고 친한 언니로서 제가 우울하고 흔들릴 때에 위로해주었습니다. 그렇게 저는 그저 흘러 보냈을 수도 잇는 초등학교 시절을 든든한 친언니 같은 일본인 언니와 저의 어린 꿈을 키우며 보낼 수 있었습니다. 그리고 언니가 일본에 돌아간

그 뒤에도 저는 이렇게 그 꿈을 키우며 지금도 노력하고 있습니다. 이제는 제 옆에서 용기를 복 돋아줄 그 언니가 없지만 그 언니와의 추억을 기억하며 앞으로도 저의 꿈을 향해 전진할 것입니다. 내가 느낀 일본..일본에 가 본적도 없는 18 살 여고생이지만 그 일본인 언니와의 경험을 통해 제 마음속 일본사람과 일본은 더 이상 어색한 말이지 않습니다. 그리고 앞으로도 가까운 나라인 일본과 한국이 더 많이 교류하며 함께 21 세기를 도약하는 더 가까운 나라가 되었으면 좋겠습니다. 또 과거의 아픔을 잊고 서로 이해하며 한국 사람과 일본 사람이 스스럼없이 어울리며 웃을 수 있는 그런 날이 오길 바랍니다. 가깝지만 먼 일본과 한국.. 그 사이에는 서로 디디고 있는 땅의 이름만 다를 뿐 같은 사람으로서 내가 경험했던 그 일본인 언니와 같은 경험이 더 많길 대한민국의 자라는 꿈나무로서 소망합니다.

책임감 있는 소통을 기반으로 한 교류의 지속성 강화

경기외국어 고등학교 2 학년 장보경

사전에 정리되어 있는 교류(交流)의 의미는 '근원이 다른 물줄기가 서로 섞이어 흐름', 또는 '문화와 사상 따위가 서로 통함'이다. 서로를 연결하는 채널을 다양화하고, 연결된 채널의 진정성(眞情性)을 지속적으로 유지해야 진정한 의미의 교류가 가능하다. 하지만 현재의 한일간의 교류는 무언가 자연스럽지 않다. 특히, 한국과 일본처럼 과거의 역사 속에서 서로에게 좋지 않은 기억들을 간직하고 있는 경우는 서로를 연결하는 과정이 매끄럽지 않을 수밖에 없고, 새로이 관계를 만들어 가는 나라와의 관계보다도 오히려 더 어려울 수도 있다. 이런 이유로 많은 사람들이 우리나라와 일본의 관계를 '가깝고도 먼 나라'라고 얘기한다. 지리적으로뿐만 아니라 정치적, 사회 문화적으로 가까운' 나라가 되려면 어떻게 해야 할까? 우리는 이미 해결 방법을 알고 있다. 상호간의 소통과 이해를 통한 신뢰 회복이라는 선순환의 고리가 확립되면 양국간의 관계는 긍정적인 방향으로 나갈 것이다. 그러나 실제로 다양한 시도와 적지 않은 노력이 이루어지고 있음에도 기대만큼의 효과가 나타나지 않는 이유는 무엇일까? 현재 양국간에 소통의 방식이나 교류의 특징을 살펴보면 그 이유를 찾을 수 있다.

현재의 한일 간의 교류를 양적인 측면에서 보면 다른 나라에 비해 교류의 폭이 좁은 것도 아니고, 수적으로도 적지 않은 것 같다. 하지만, 질적인 측면에서 교류에 악영향을 주는 문제점이 있는 것 같다. 첫째는, 책임감 있는 양방향 소통의 비중이 줄어들고 있다는 것이고, 외부 요인에 의해 교류의 진정성과 지속성이 자주 위협받고 있다는 것이다.

먼저 '책임감 있는 양방향 소통의 비중 축소'에 대해서 얘기해보자. 지금은 인터넷 시대를 지나 SNS 시대에 접어들었고, 너무나 쉽게 불특정 다수에게 나의 생각을 전달할 수 있는 시대이다. 무분별 하다고 말할 수 있을 정도로 과거보다 훨씬 쉽게 내 생각들을 타인에게 전달할 수 있게 되었지만, 상대방을 이해하는 과정은 줄어들고, 자신의 생각을 전달하는 기능만이 강화되었다. 개인적으로 잘 모르는 사람들과의 대화는, 마치 한쪽에만 마이크가 있고 반대편에는 스피커만 있는 유리벽을 사이에 두고 일방적으로 외치는 것과 같다. 이와 같은 소통 과정은 긍정적인 효과보다는 부정적인 효과를 나타내기 훨씬 쉽고, 소통의 결과가 어느 방향으로 튈지 예측하기 어려워진다. 이미 내면에 상처를 갖고 있는 상대방에게 더 큰 상처를 주기 쉬운 것이다. 논쟁에서 감정적인 싸움으로 번지기 쉽고,

일부분이 발췌된 내용의 무차별적 전달은 오해를 증폭시키는 역할을 한다. 전체적으로 과거에 비해 소통의 규모는 대폭 증가했지만, 책임감과 진정성이 확보된 소통의 비중은 상대적으로 줄어들었다. 소통의 증가보다 상호간의 신뢰를 확보하는 과정이 더욱 중요한데, 이를 위해서는 책임감 있는 소통 방식을 확대하는 것이 매우 중요하다.

두 번째로 언급한 '교류의 지속성 위협' 문제는 소통 방식 못지 않게 심각한 문제이다. 각자 다른 배경을 가진 양자가 교류를 시작하여 상호 신뢰 관계로 발전시키려면 소통의 지속성을 확보하는 것이 매우 중요하다는 것은 말할 필요가 없다. 그러나 한일 관계를 되돌아 보면, 양국간의 교류가 증가하는 듯 하다가 갑자기 단절이 되어 버리는 경우가 너무 쉽게 발생한다. 국가간의 민감한 이슈가 발생하면 너무나 쉽게 여러 관계들이 단절되어 버린다. 내가 초등학교 5 학년때부터 YWCA 에서 일본어 공부를 시작하면서, 한일 학생 교류 프로그램에 3 년간 참여했었다. 이 프로그램을 통해 일본을 이해하는 기회를 갖게 되었으며, 일본을 직접 방문하여 친구를 사귈 기회가 있었고, 또 일본 친구들이 우리나라를 방문하기도 하였다. 그러나 어느 순간 갑자기 프로그램이 중단된 적이 있었다. 양국간에 영토 문제가 불거지면서 행사를 지원하던 정부기관에서는 국민 감정이 안 좋다는 이유로 예산 배정을 안 했고, 결과적으로 행사가 취소된 것이다. 내가 가장 아쉬웠다고 생각한 부분은, 그런 부정적 상황일수록 한 편에서는 긍정적인 교류를 확대해야 하는데, 반대로 교류를 중단했다는 것이었다. 무슨 일이 생길 때마다 그 일이 잠잠해 질 때까지 기다리는 이런 수동적인 자세는 애써 앞으로 나아가던 발걸음들을 제자리로 돌리는 소모적인 행태이다. 교류는 시작이 힘들고 중요하지만 그보다 지속성을 유지하는 것이 훨씬 더 중요한 것이다.

국가간의 관계에서는 자국의 이익을 우선시하기 때문에 상황에 따라 사이가 나빠질 수도 있고, 또 좋아질 수도 있다. 관계가 나빠질 대로 나빠졌을 때에도 두 나라의 관계를 복원시켜 주는 힘은 상호 신뢰이고, 그 신뢰는 평범한 사람들 사이의 교류에서 시작된다고 나는 믿는다. 이런 채널들을 하나씩 늘려감으로써 신뢰의 강도를 높여가야 함은 두 말할 나위 없다. 하지만 앞으로 우리가 중요하게 생각하고 실천해야 하는 길은 '책임감 있는 소통 방법의 확보'와 '교류의 지속성 확보' 두 가지인 것 같다. 자신의 의사 표현에 대해 책임지는 소통 기술, 진정성을 전달할 수 있는 소통 방법을 우리는 강화하고 또 교육시켜야 한다. 또 한편으로는 이미 시작된 교류의 지속성을 강화하고 외부의 요인에 의해 위협받지 않도록 제도를 강화해야 한다. 무슨 일이 터지면 있던 일도 취소해버리는 교류의 패턴에서 우리는 탈피해야 한다. 진정성과 지속성 담보되는 경우에만 '소통과 이해를 통한 상호 신뢰 구축'이라는 선순환 구조가 확립될 수 있다.

附　　録

日韓文化交流基金創立30周年記念事業　「作文コンテスト」

日韓文化交流基金では、創立 30 周年記念事業の一環として、日韓両国の中学生・高校生を対象とした「作文コンテスト」を実施しました。「私が感じた韓国（日本)」「日韓交流について考えること」の二つをテーマに作品を募集したところ、日韓両国 205 名の生徒から応募があり、三次にわたる厳正な審査の結果、71 名（最優秀賞 26 名、優秀賞 45 名）を表彰しました。

両国の中学生・高校生からの応募作品は、いずれも日本・韓国への訪問・滞在体験や、日本人・韓国人との交流等、自身と相手国との関わりに基づいて綴られており、既成の概念にとらわれず、柔軟な発想で、両国の関係を前進させていきたい、という意欲が読み取れました。

最優秀賞受賞者への表彰式は、日韓文化交流基金の会議室において開催（韓国側生徒：2014 年 2 月 20 日、日本側生徒：3 月 21 日）し、表彰状の贈呈、基金理事、評議員との懇談等を行いました。

また、最優秀賞の副賞としての日本研修旅行（2 月実施)、韓国研修旅行（3 月実施）はいずれも 3 泊 4 日の日程で実施しました。期間中、参加者は、日韓の受賞者同士の交流、学校訪問等、現地の同世代の若者と直接触れ合う機会を得、日韓関係の進展についてさらに考えを深める機会となったようです。

（事業概要）

1. 募集期間　　2013 年 6 月 28 日－10 月 25 日

2. 応募者・入選者数

対象部門	応募者数	最優秀賞	優秀賞
日本中学生	45 名	6 名	12 名
日本高校生	31 名	6 名	11 名
韓国中学生	35 名	8 名	10 名
韓国高校生	94 名	6 名	12 名
合　計	205 名	26 名	45 名

3. 賞

・最優秀賞：賞状、訪日・訪韓研修団への参加
・優 秀 賞：賞状、図書カード（日本側生徒)、図書文化商品券（韓国側生徒）
・参 加 賞：記念品

4. 最優秀賞受賞者

＜日本側＞

〈中学生〉

阿部　朱夏	蕨市立第一中学校３年
安　　禮頌	蕨市立第一中学校２年
酒井　珠寿	宇都宮市立陽北中学校２年
須藤　里穂	日光市立豊岡中学校３年
根本　直哉	いわき市立平第二中学校３年
餅原　実紅	宇都宮市立陽北中学校２年

〈高校生〉

伊藤　　駿	愛媛県立新居浜工業高等学校２年
髙橋　未夢	神田女学園高等学校２年
舘野　　涼	福島工業高等専門学校２年
戸室佳那子	神田女学園高等学校１年
武藤　壮平	長野県穂高商業高等学校２年
Ａ．Ｈ	都立高校２年

＜韓国側＞

〈中学生〉

姜　玹　汀	光武女子中学校３年
金　奈　潤	津寛中学校３年
金　蓮　周	津寛中学校３年
金　引　德	釜山善花女子中学校２年
金　惠　恩	耽羅中学校２年
芮　芝　熙	始興銀杏中学校３年
吳　祥　池	釜山善花女子中学校３年
李　賢　雄	津寛中学校３年

〈高校生〉

金　曉　珍	彌鄒忽外国語高等学校２年
方　尹　祉	洑坪高等学校２年
白　賀　媛	韓国外国語大学校附属龍仁外国語高等学校１年
王　寅　瑞	慶南高等学校２年
李　河　善	安養女子高等学校２年
張　普　景	京畿外国語高等学校２年

5. 表彰式

（韓国側生徒）

・日時：平成 26 年 2 月 20 日（木）13 時半～15 時

・出席者：

最優秀賞受賞者（13 名）

鮫島章男（日韓文化交流基金会長）

小野正昭（日韓文化交流基金理事長）

饗庭孝典（日韓文化交流基金評議員）

竹内　宏（日韓文化交流基金評議員）

伊藤亞人（日韓文化交流基金評議員）

余田幸夫（日韓文化交流基金業務執行理事・事務局長）

田 泰 重（江西高等学校教諭、作文コンテスト訪日研修団団長）

森本康敬（外務省北東アジア課　日韓交流室長）

（日本側生徒）

・日時：平成 26 年 3 月 21 日（金）13 時～15 時

・出席者：

最優秀賞受賞者（12 名）

小野正昭（日韓文化交流基金理事長）

戸塚進也（日韓文化交流基金理事）

梅田博之（日韓文化交流基金評議員）

大竹洋子（日韓文化交流基金評議員）

余田幸夫（日韓文化交流基金業務執行理事・事務局長）

池田徳次（外務省総務課情報公開室、作文コンテスト訪韓研修団団長）

金 甫 燁（駐日本韓国大使館教育官）

森本康敬（外務省北東アジア課　日韓交流室長）

6. 研修旅行日程

グループ名 日時				日韓文化交流基金創立 30 周年記念作文コンテスト　訪日研修旅行 団員　13 名（中学生 7 名・高校生 6 名） 団長 1 名、事務局 1 名	
1	2/20	木	AM	金浦空港→羽田空港（NH6968）	都内泊 （ホテルイースト 21 東京）
			PM	歓迎昼食会（会場：北大路虎ノ門店） 作文コンテスト授賞式、基金役員との懇談会 東京みなと館見学	
2	2/21	金	AM	外務省訪問 神田女学園中学校・高等学校訪問	日光市泊 （日光東観荘）
			PM	栃木県日光市へ移動 日本の温泉旅館体験	
3	2/22	土	AM	日光東照宮見学 日光市から東京へ移動	都内泊 （ホテルイースト 21 東京） 日本側最優秀賞 受賞者も宿泊
			PM	日本側最優秀賞受賞者（5 名）と合流、 自己紹介、アイスブレーキング 藍染体験（会場：和なり屋） 東京スカイツリー見学 研修感想報告会	
4	2/23	日	AM	羽田空港→金浦空港（NH1163）	

グループ名 日時				**日韓文化交流基金創立 30 周年記念作文コンテスト　訪韓研修旅行** 団員　11 名（中学生 6 名・高校生 5 名） 団長 1 名、事務局 1 名	
	3/21	金	PM	作文コンテスト授賞式、基金役員との懇談会	
	3/26	水	PM	出発前オリエンテーション	成田泊 (エクセルホテル東急)
1	3/27	木	AM	成田空港→金海空港(JL957)、金海空港到着後、 釜山（プサン）市内へ移動	釜山泊 (釜山国際ホテル)
			PM	朝鮮通信使歴史館見学 釜山タワー見学 釜山地域中高生(11 名）との交流（会場：多島海)	
2	3/28	金	AM	釜山駅から慶州へ移動(韓国高速鉄道 KTX120 号) ＜中学生＞慶州（キョンジュ）女子中学校訪問 ＜高校生＞蓮花（クンファ）女子高等学校訪問	慶州泊 (コモドホテル慶州朝鮮)
			PM	石窟庵見学 仏国寺見学	
3	3/29	土	AM	新慶州駅～ソウル駅（KTX116 号にて移動) ソウル首都圏在住の韓国側最優秀賞者（6 名）と 合流	ソウル泊 (THE-K　ソウルホテル)
			PM	ビビンパ作り体験 （会場：FOOD&CULTURE アカデミー) 昌徳宮見学 国立中央博物館見学 研修感想報告会	
4	3/30	日	AM	ショッピングセンター見学	
			PM	仁川空港→成田空港（ＪＬ954)	

韓国側受賞者表彰式（中学生部門）

韓国側受賞者表彰式（高校生部門）

日本側受賞者も一緒に藍染体験

都内学校訪問先で授業体験

みんなで協力しておしるこ作り

日本側受賞者表彰式

朝鮮通信使歴史館で
話に聞き入る受賞者たち

釜山地域中高生との交流会

韓国側受賞者と一緒に昌徳宮見学

慶州女子中学校で美術の授業体験

韓国文化体験で
ビビンパ作りに挑戦

作文コンテスト最優秀作品集

発行日：2014 年 3 月 31 日

発　行：公益財団法人　日韓文化交流基金
〒105-0001
東京都港区虎ノ門 5-12-1　虎ノ門ワイコービル
TEL ：03-5472-4323
FAX ：03-5472-4326
ホームページ：http://www.jkcf.or.jp/